

A close-up, angled view of a Korg Pa 600 professional arranger keyboard synthesizer. The instrument is light grey with a white keyboard. The control panel on the left features various buttons and a rotary dial. A large, rectangular speaker grille is visible on the right side of the instrument. The background is a soft, light-colored gradient.

KORG

Pa 600

professional arranger

クイック・ガイド

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT
EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性があります。



- 電源プラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。



- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。



- 本製品を分解したり改造したりしない。



- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。



- 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります。



- ・ 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ・ ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- ・ 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ・ 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- ・ 長時間使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を抜く。
- ・ 電池は幼児の手の届かないところへ保管する。



- ・ 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。
電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



- ・ 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。
付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- ・ 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- ・ 電池を過度の熱源(日光、火など)にさらさない。
- ・ スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- ・ 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- ・ 不安定な場所に置かない。
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- ・ 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- ・ 本製品の隙間に指などを入れない。
お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- ・ 地震時は本製品に近づかない。
- ・ 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- ・ LCD画面には、次のようなことを絶対にしない。
 - シャープ・ペンシルのように先の鋭いもの、硬いものでLCD画面を強く押しついたりこすつたりする。
 - LCD画面の隅を、ペンや爪などで強くこする。
本製品が損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

LCDディスプレイについて

本製品のLCDディスプレイは、非常に高い技術で作られた精密機器であり、品質には十分に注意を払っておりますが、次の内容については、LCDディスプレイの特性から生じる状態であり、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・ 画面の一部に黒点(点灯しない点)や輝点(常に点灯する点)がある。
- ・ 表示内容によっては、画面の明るさにムラが生じる。
- ・ 表示内容によっては、横縞の陰が見える。
- ・ 表示内容によっては、ちらつきやモアレを生じる。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ他のメディア等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

また、本製品の使用に伴い、CD-RまたはCD-RWディスクに書き込んだデータの消失、破損などの、お客様に対してなされた損害賠償請求に基づく損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

- ・ MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・ すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

目次

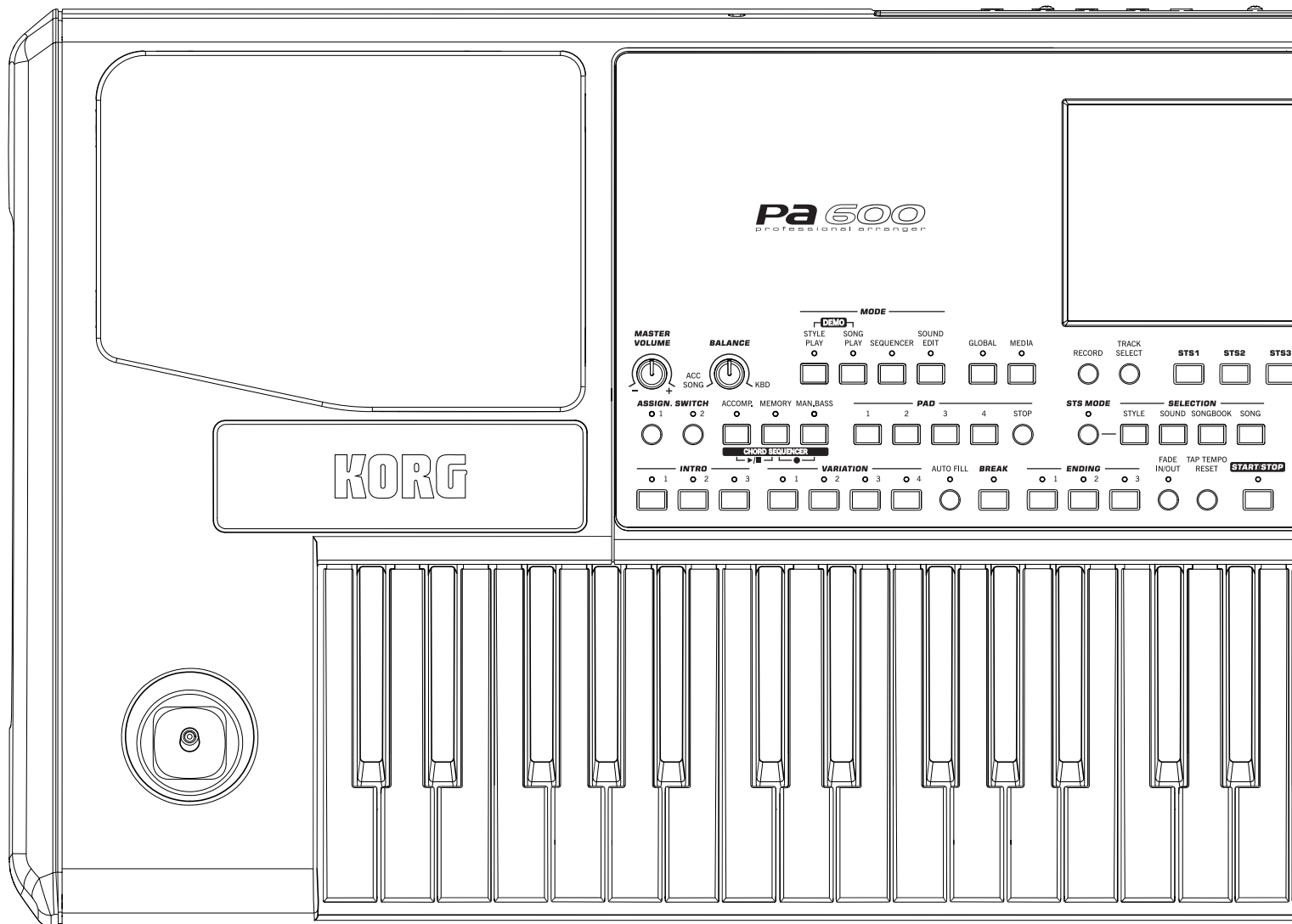
安全上のご注意	ii	サウンドの演奏	28
目次	iv	演奏するサウンドを選ぶ	28
イントロダクション		同時に複数のサウンドで演奏する	30
各部の名称と機能	2	右手と左手で異なったサウンドを演奏する	32
フロント・パネル	2	スプリット・ポイントを変更する	34
リア・パネル	11	アッパー・トラックの音の高さの設定	35
はじめに	13	パフォーマンスを選んで保存する	36
使えるライブ性能	13	パフォーマンスを選ぶ	36
簡単画面のイージー・モード	13	パフォーマンスを保存する	37
パッケージの確認	14	「My Setting」パフォーマンスの選択と保存	40
取扱説明書について	14	My Settingのパラメーターを保存時の状態に戻す	40
ネットワーク・リンク	14	My Settingとしてパフォーマンスを保存する	40
データのバックアップについて	14	スタイルを選択して再生する	41
ファクトリー・データに戻す	14	スタイルを選んで再生する	41
オペレーティング・システムのロード	14	テンポ	43
演奏を始める前に	15	イントロ、バリエーション、フィル、ブレーク、エンディング	44
AC電源コードの接続	15	STS(シングル・タッチ・セッティング)	45
電源のオン/オフ	15	パッド(PAD)トラック	46
音量調整	15	スタイル・トラックとキーボード・トラックの音量バランス	47
ヘッドホン	15	別々のトラックの音量を調節する	47
スピーカー	15	スタイル・トラックのオン/オフ(ミュート)	48
オーディオ出力	15	右手のメロディにハーモニーを加える(アンサンブル機能)	49
ダンパー・ペダル	15	コード・シーケンサー	50
アサインブル・ペダル	15	ソング・プレイ	52
譜面立て	16	再生するソングを選ぶ	52
用語の説明	17	ソングの再生	54
サウンド(SOUND)	17	トラック音量の調節	55
スタイル(Style)	17	ソング・トラックのオン/オフ(ミュート)	57
パッド(Pad)	17	ソロ演奏	58
キーボード・トラック	17	スタンダードMIDIファイルからメロディ・トラックを、MP3ファイルからリード・ボーカルをキャンセルする	58
パフォーマンス(PERFORMANCE)	18	ソングブック	60
シーケンサー(SEQUENCER)	18	メイン・リストからエントリーを選ぶ	60
プレーヤー	18	アーティスト、またはジャンルを表示する	61
ロゴ・マーク	18	エントリーの並びを変える	62
インターフェイスの基本	19	エントリーの検索	62
カラー・タッチビュー・グラフィカル・ユーザー・インターフェイス	19	エントリーの追加	64
モード	21	カスタム・リストの作成	66
反転表示のパラメーターや値	21	カスタム・リストを選んで使う	68
グレー表示(無効)のパラメーター	21	ソングブックのSTSを選択する	68
ショートカット	21	新しいソングを録音する(スタンダード MIDI ファイル)	69
イージー・モード	22	Backing Sequence(Quick Record)モードに入る	69
スタイル・プレイ・ページの表示内容	23	録音の準備	70
ソング・プレイ・ページの表示内容	24	録音開始	71
クイック・ガイド		2度目の録音をする(オーバーダビング)	72
電源をオンにして、デモ・ソングを聴いてみましょう	26	ソングを保存する	72
電源をオンにして、メイン・ページを表示する	26	ファイルとミュージカル・リソースの検索	74
デモ・ソングを再生する	27	サーチ機能の使い方	74
		サーチ機能の使用上のご注意	76
		ダンパー・ペダルの接続とキャリブレーション(調整)について	77
		ダンパー・ペダルの設定をする	77

付 録

内蔵時計バックアップ用電池の交換	80
注意事項	80
交換作業手順	80
仕様	82
MIDI インプリメンテーション・チャート	84
保証規定（必ずお読みください）	85

インターネットタダ目

各部の名称と機能



フロント・パネル

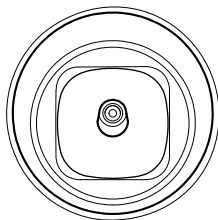
ジョイスティック・レバー

ジョイスティックはフロント・パネルの左側にあります。

ジョイスティック

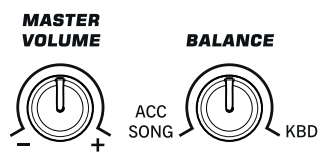
動かす方向によりさまざまなコントロールをします。

- X (+/-) ジョイスティックを左(-)に動かしてピッチを下げ、右(+)に動かしてピッチを上げます。ピッチ・バンドとも呼ばれます。
- Y+ ジョイスティックを向こう(奥)側に傾け、モジュレーション効果をかけます。
- Y- ジョイスティックを手前に傾け、Soundモードで割り当てられた機能をコントロールします。



ボリューム・コントロール

本機全体の音量や、リアルタイムに演奏するパート(キーボード・トラック)と伴奏パート(スタイルやソング)の音量バランスをこれらのノブで調整します。



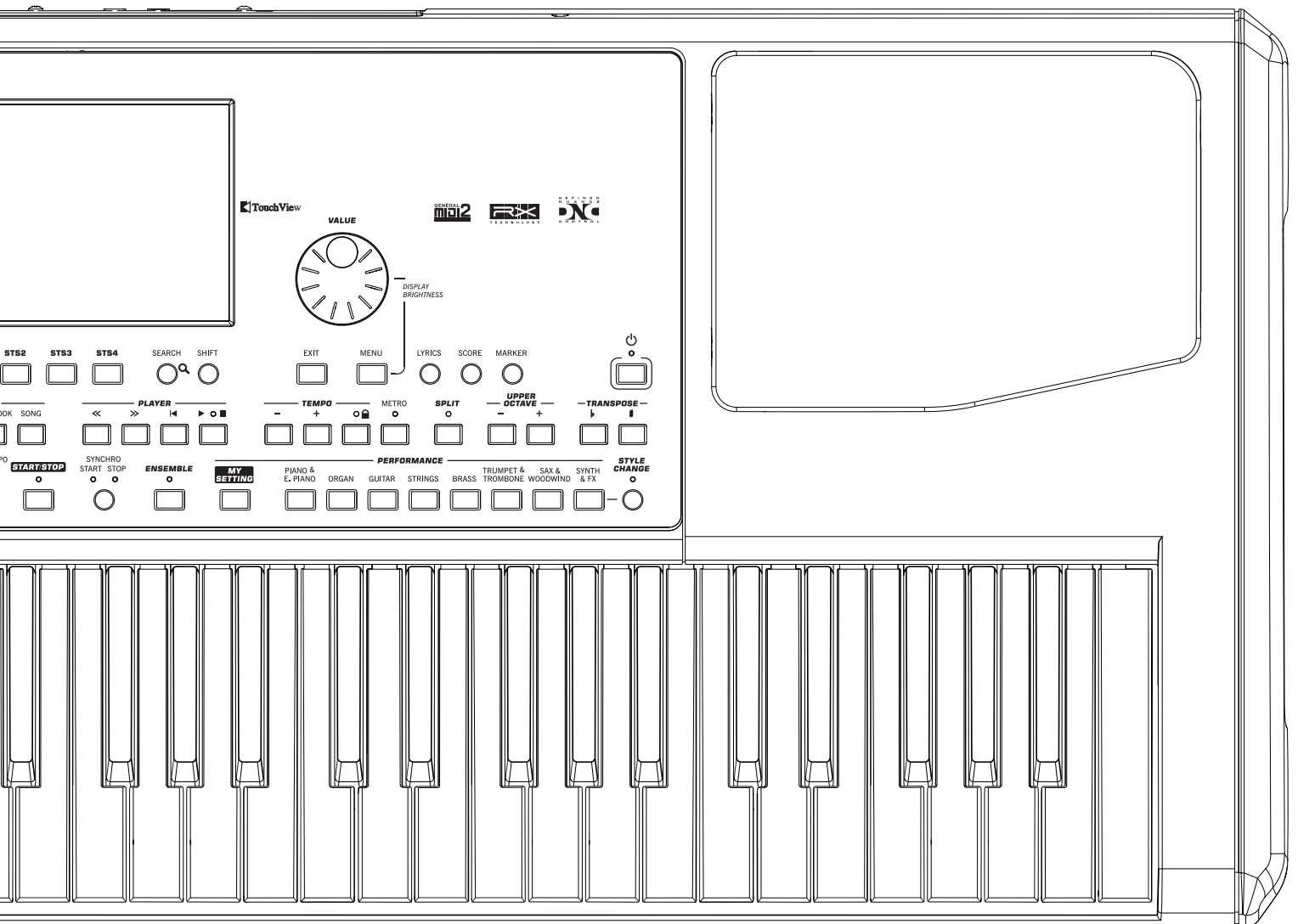
MASTER VOLUMEノブ

本機の全体的なボリュームを調整します。内蔵スピーカーとAUDIO OUT(LEFT、RIGHT)端子、ヘッドホン端子から出力されるボリュームを調整します。また、AUDIO IN(LEFT、RIGHT)端子に入力される信号レベルも調整します。

BALANCEノブ

Style Playモード、Song Playモードのときに、リアルタイムに演奏するパート(キーボード・トラック)に対する、伴奏パート(スタイル・トラック)、ソング(SNG)、パッド・パートの音量バランスを調整します。これは相対的な音量コントロールで、実質的な最大値はMASTER VOLUMEノブの位置によって決まります。

より正確な位置を決める場合、画面に表示される拡大表示された仮想スライダも目安に使用してください。



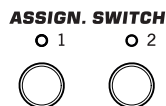
このバランス設定は、キーボード・トラックのボリュームを変化させずに、伴奏パート(アカンパニメント、ソング)のボリュームをプログラムすることができます(Globalモード「Hand Controllers」参照)。

Note: この設定はSequencerモードとSoundモードでは無効です。

アサインابل・スイッチ

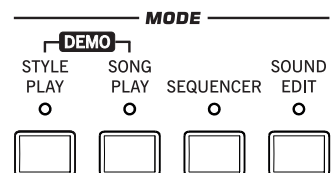
ASSIGNABLE SWITCHキー

機能を割り当てできるスイッチです(機能の割り当て方法については、Style Play/Song Playモード「Pad/Assignable Switch」参照)。



MODE セクション

本機の操作モードを選択します。選択すると、他のモードはすべて無効になります。



STYLE PLAYキー

Style Playモードに入ります。スタイル(自動伴奏の8つのトラック)の再生に合わせて、最大4パートによるサウンドを使ったキーボード・トラック(鍵盤)演奏と4つのパッドを使った演奏ができます。キーボード・トラックは、メイン・ページの画面右半分に表示されます。

スタイル・プレイ・エディット・セクションの任意のページのとときにEXITキーを押すと、このメイン・ページが表示されます。別のモードを選択したときは、STYLE PLAYキーを押すとStyle Playモードに入ります。もし画面にキーボード・トラックが表示されていないときは、表示されるまでTRACK SELECTキーを押します。

4 各部の名称と機能 フロント・パネル

本機の電源を入れると、このStyle Playモードが自動的に選択されます。My Settingsに設定されたパフォーマンスが自動的に選択されます。

SONG PLAYキー

Song Playモードに入ります。スタンダードMIDIファイル(SMFまたはKAR)とMP3形式のファイルを再生できます。ソング・トラックの他に、最大4パートによるサウンドを使ったキーボード・トラック(鍵盤)やパッド演奏ができます。キーボード・トラックは、メイン・ページの画面右半分に表示されます。

ソング・プレイ・エディット・セクションの任意のページのときにEXITキーを押すと、このモードのメイン・ページが表示されます。別の操作モードを選択しているときは、SONG PLAYキーを押すとSong Playモードに入ります。TRACK SELECTキーを繰り返し押すことで、画面の表示をキーボード・トラックとソング・トラックに切り替えることができます。

SEQUENCERキー

Sequencerモードに入ります。ソング(スタンダードMIDIファイル・フォーマット)の録音、再生、エディットを行います。Backing Sequenceモードではキーボード・トラックやスタイル・トラックをベースにして新しいソングを録音したり、新規のスタンダードMIDIファイルとして保存できます。

Note: このモードではMP3ファイルは再生できません。

SOUND EDITキー

Sound EDITモードに入ります。鍵盤上で個々のサウンドを演奏したり、エディットします。

専用のサンプルRAMメモリーにロードされているユーザーPCMサンプルを使用したユーザー・サウンドを作ることでもできます。

Note: 本機は他のPaシリーズ機種で作成した圧縮形式のユーザーPCMサンプルはロードできません。

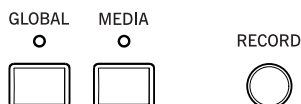
[SHIFT] Sound Editモード以外のモードに入っている場合、SHIFTキーを押しながらSOUND EDITキーを押すと、Sound Editモードに入り、その時選択していたサウンドをエディットすることができます。

DEMO

STYLE PLAYとSONG PLAYの2つのキーを同時に押ししてDemoモードに入ります。このモードでは、本機が持つ音楽表現力を発揮したデモ・ソングを聴くことができます。このモードから出るときは、いずれかのMODEキーを押します。

その他のモード・キー

これらのモード・キーは、設定を呼び出したり、ファイル管理やRecordモードに入る時に使用します。



GLOBALキー

Globalモードに入ります。本体に関するさまざまな設定を行います。Globalモードでのほとんどの設定は、変更すると同時に自動的にメモリーされます。このGlobalモードは、動作中のモード画面の上にオーバーラップして表示されます。EXITキーを押すと、元のモード画面に戻ります。

MEDIAキー

Mediaモードに入ります。ファイルや記憶デバイスのさまざまな操作(ロード、保存、フォーマットなど)を行います。このMediaモードは、動作中のモード画面の上にオーバーラップして表示します。EXITキーを押すと、元のモード画面に戻ります。

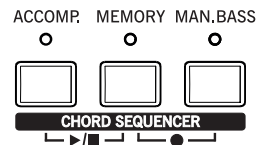
インターナル・メモリーには、内部データ・エリア(“SYS [KORG SYSTEM]” エリア)と、データ保存スペース(“DISK [KORG DISK]” エリア)があります。

RECORDキー

RECORDキーを押すと、Recordモードに入ります(Recordモードの動作は、動作中のモードによって変わります)。

ACCOMP.、MEMORY、MAN.BASS、CHORD SEQUENCER

これらのキーは、伴奏トラックのオン、オフや、メモリー機能の操作、ベース・トラックの演奏方法をコントロールする場合に使用します。また、コード・シーケンサーの操作キーとしても動作します。



ACCOMP. (アカンパニメント) キー

Style Play、Sequencer、Backing Sequenceの各モードに入っている場合、このキーで伴奏トラック(ACC1~ACC5)のオン、オフ切替を行います。

オン START/STOP キーを押すと、コード検出に従ってすべての伴奏トラックを演奏します。

オフ コード検出機能がオフになります。START/STOPキーを押すと、ドラムやパーカッションの伴奏トラックのみを演奏します。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながら、ACCOMPキーを押すとGlobalモード内、Mode PreferencesのStyle Playページに移動できます。

MEMORYキー

鍵盤から手を離してもそのままのコードで演奏できるローワー・ノート / コード・トリガー機能のオン、オフ切替をします。

オン Globalモードの“Memory Mode”の設定(Globalモード「Mode Preference: Style Play」参照)によって、スプリット・ポイントより左側(ローワー)のサウンドや、コード検出による自動伴奏の演奏を、鍵盤から手を離してもそのまま続けます。

オフ 鍵盤から手を離すと、ローワーのサウンドや自動伴奏の演奏も同時に停止します。

Note: この機能は、より強く鍵盤を演奏することによって自動的にオンにすることもできます。「Velocity Control (ベロシティ・コントロール)」を参照してください。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながらMEMORYキーを押すと、Globalモード内、Mode PreferencesのStyle Playの画面へ移動することができます。

MAN. BASS (Manual Bass)キー

マニュアル・ベース機能をオン、オフします。

オン ドラムとパーカッション・トラックを除く自動伴奏の演奏が停止して、鍵盤のローワー部分でベース・トラックを演奏できます。キーを押してマニュアル・ベース機能をオフにすると、自動伴奏が再スタートします。

オフ スタイルによるベース・トラックを自動的に演奏します。

Note: MAN.BASS キーを押してオンにすると、ベース・トラックのボリュームが自動的に最大値になります。MAN.BASS キーを再び押してオフにすると、ベース・トラックのボリュームは元の設定に戻ります。

コード・シーケンサー (PLAY/STOP、RECORDキー)

スタイルの演奏時、これらのキーはコード・シーケンサーのコントロール・キーとして機能し、コード進行を記録することもできます。ここで記録したコード進行は、左手でコードを手動で指定する代わりにも使え、キーボードでソロ演奏をする時などに便利です。

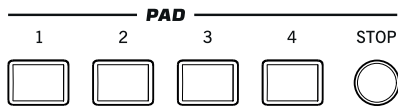
RECORD (MEMORY キーを押しながら MAN.BASS キーを押します) : この操作により、コード・シーケンサーをレコーディング状態にします。実際のレコーディングはキー操作をした時点から次の小節の先頭から始まります。再びキー操作をするとレコーディング状態が解除されます。

PLAY/STOP (ACCOMP. キーを押しながら MEMORY キーを押します) : この操作により、コード・シーケンサーに記録したコード進行を再生させ、その進行に即した伴奏を演奏させることができます。実際の再生はキー操作をした時点から次の小節の先頭から始まります。再びキー操作をすると再生が停止します。

コード・シーケンサーに記録したコード進行は、次に新たなコード進行を記録するか、本機の電源を切るまで保持されます。

PAD

パッド・キーを押すことにより、単発のサウンドやループ・シーケンス(繰り返し演奏されるフレーズ等)を演奏することができます。



パッド1~4、STOPキー

各パッド・キーを押すと、それぞれに対応したパッド・トラックの内容を演奏できます。それらのパッド・キーを複数同時に押すことによって、最大4つのサウンドまたはシーケンスを演奏させることもできます。

- ・ パッド・キーを1つ押すと、そのキーに対応したサウンドまたはシーケンス(フレーズなど)を演奏します。
- ・ 複数のパッド・キーを押すと、それぞれのキーに対応したサウンドまたはシーケンスを演奏します。

シーケンスを演奏させた場合、そのシーケンスの最後まで演奏します。Pad Recordモードの“Pad Type”パラメーターの設定(“One Shot”または“Loop”)によって、最後までシーケンスを演奏して停止、または繰り返し演奏します。

演奏中のすべてのシーケンス、または一部のシーケンスを停止させたい場合は、PADセクションにあるSTOPキーを押します。

- ・ STOPキーを押すと、すべてのシーケンスが同時に停止します。
- ・ STOP キーを押しながらシーケンスを停止させたいパッド・キーを押すと、そのパッドのシーケンスが停止します(複数選択可能)。
- ・ ENDING キーのいずれかを押すと、伴奏(アカンパニメント)とパッドのシーケンスが同時に停止します。

パッドの同期について: Styleモードでは、パッドはスタイルのテンポに同期します。Song Playモードではプレーヤーのテンポに同期します。

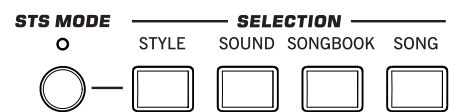
Note: MP3ファイルとのテンポ同期はしません。パッドのテンポは、最後に選択したスタンダード MIDI ファイルのテンポと同期します。このため、プレーヤーにMP3ファイルを割り当てている場合、パッドのテンポはその直前に選択していたスタンダードMIDIファイルのテンポと同期して演奏します。

パッドとプレーヤーのPLAY操作について: プレーヤーのPLAYキーを押してプレーヤーの演奏を開始すると、パッドの演奏はすべて停止します。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながら、パッド・キーのいずれかを押すと、Style Playモードの「Pad/Assignable Switches」ページに移動することができます。

SELECTION

スタイルやサウンド、ソングブックやソングを選択したり、STS(シングル・タッチ・セッティング)の自動セレクトをオンにする際に、セクション・キーを押します。



STS MODEキー

STS MODEキーを押すと、次のように機能が切り替わります。

- オン スタイルを選択すると STS1 が自動的に選択され、このとき鍵盤(キーボード・トラック)のサウンドやそのエフェクト設定も、スタイルのサウンドやエフェクト設定とともに切り替わります。
- 点滅 バリエーション /STS リンク機能がオンになります。この機能はバリエーションによって、それに合ったSTSが自動的に呼び出される機能です。例えば、バリエーション2を選ぶとSTS2が、バリエーション3を選ぶとSTS3がそれぞれ自動的に呼び出されます。
- オフ スタイルを選択すると、スタイルのサウンドやそのエフェクト設定は切り替わりませんが、鍵盤(キーボード・トラック)のサウンドやそのエフェクト設定は切り替わりません。

STYLEキー

STYLEキーを押すと、スタイルの選択画面が表示されます。画面上のスタイル名をタッチすることでも同じ操作を行えます。また、STYLEキーを繰り返し押すと、スタイル・バンクが切り替わります。

スタイル・バンクは画面横のタブをタッチして選択します。各スタイル・バンクには最大8種類のスタイルがあり、画面下部のタブをタッチして選択します。

スタイルのうち、**Factory(ファクトリー)**バンクのものは通常、書き込みができないようにプロテクトがかかっています(この設定はGlobalモード“Factory Style and Pad Protect”で変更できません)。**Favorite(フェイバリット)**バンクのスタイルは、外部デバイスから新しいスタイルをロードしたり、新しく作ったスタイルやエディットしたスタイルを保存でき、バンク名を自由に設定できます。**User(ユーザー)**バンクはフェイバリットとほぼ同様ですが、バンク名を変更できませんので、一時的に保存しておくといった用途に向いています。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながら、STYLE SELECTセクションのいずれかのキーを押すと、スタイル・セッティング書き込みウィンドウが開き、現在のスタイルの設定を保存することができます。

SOUNDキー

SOUNDキーを押すとサウンド選択画面が表示され、サウンドを選択すると、その時選択していたトラックにそのサウンドが割当てられます。画面上のサウンド名をタッチすることで同じ操作を行えます。SOUNDキーを繰り返し押しすと、サウンド・バンクが切り替わります。

サウンドはバンクごとに分類され、各バンクは画面横のタブをタッチして選択できます。また、各バンク内はページで分割され、各ページには最大8種類のサウンドが入り、各サウンドは画面下部のタブをタッチして選択できます。

サウンドのうち、**Factory(ファクトリー)**バンクのものは通常、書き込みができないようにプロテクトがかかっています(この設定はGlobalモードの“Factory Sound Protect”で変更できます)。**Legacy(レガシー)**バンクのサウンドは、Paシリーズ旧機種とのサウンドと互換性のある一般的なファクトリー・サウンドです。**GMバンク**のサウンドはGM(ジェネラルMIDI)規格に対応したサウンドです。**User(ユーザー)**バンクには、外部デバイスから新しいサウンドをロードしたり、本機で新たに作成したサウンドやエディットしたサウンドを保存できます。**User DKバンク**にはロードしたドラム・キットや、本機で新規作成またはエディットしたドラム・キットを保存できます。

SONGBOOKキー

Style PlayモードまたはSong Playモードに入っている場合、SONGBOOKキーを押すとソングブックの選択画面が表示され、ソングブックのエントリーを選択できます。

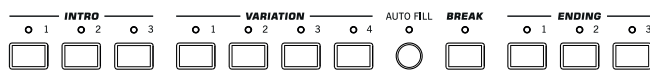
[SHIFT] SHIFTキーを押しながらSONGBOOKキーを押すと、SongBookモードのCustom Lisページに移動します。このモードではソングブック・ミュージック・データベースの閲覧ができます。

SONGキー

SONGキーを押すとソングの選択画面が表示され、ソングを選択できます。画面内のソング名をタッチすることで同じ操作を行えます。

イントロ、バリエーション、フィル、ブレイク、エンディング

スタイルに内蔵されている各構成要素(イントロ、バリエーション等)をコントロールするセクションです。



INTRO 1~3キー

スタイル演奏のときに、イントロとして使用します。1つを選択してスタイルをスタートさせると、選択したイントロでスタートします。イントロのLEDはイントロの終わりで消灯します。

イントロが終了すると、LEDが点滅しているバリエーションが選択されます。

キーを2回押すとLEDが点滅し、イントロをループ再生します。ループを終了するときは、もう一度キーを押すか、別のスタイル形式(フィル、イントロ、バリエーションなど)を選びます。

Note: プリセット・スタイルでは、イントロ1はコード展開のあるシーケンスになっていて、イントロ演奏中は演奏者はコードを変更する必要がありません。イントロ2はバリエーション1~4と同様に、コード展開の無いシーケンスとなっていて演奏したコードに応じて伴奏が変化します。イントロ3は通常1小節のリズムによるカウント・インとなります。

VARIATION1~4キー

VARIATIONキーを押すと、現在選択しているスタイルのバリエーションを演奏します。バリエーションの番号が大きいものほど、より複雑なアレンジになります。

STSモードLEDが点滅している場合、Variation/STSリンク機能がオンになっています。この場合、各バリエーションを選択すると、それに対応したSTSが呼び出されます。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながらVARIATIONキーのいずれかを押すと、Style PlayモードのDrum/Fillページに移動できます。

AUTO FILLキー

AUTO FILLキーを押して、オート・フィル機能のオン、オフを切り替えます。

オン あるバリエーションから別のバリエーションを選択する時、最初に選んでいたバリエーションと同じ番号のフィルが自動的に選択されます。例えば、バリエーション2の状態からバリエーション3を選択した場合、バリエーション3に移る前にフィル2が自動的に演奏されます。

オフ 異なるバリエーションを選択しても、フィルは自動的に選択されません。

BREAKキー

BREAKキーを押すとブレイクを演奏します。キーを2度押すとLEDが点滅になり、ブレイクを繰り返し演奏します。繰り返しの状態を解除するには、もう一度BREAKキーを押すか、その他のキー(INTRO、VARIATION、ENDINGのいずれか)を押します。

ENDING 1~3キー

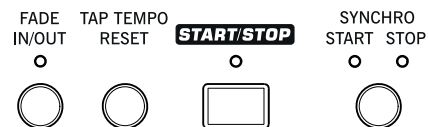
スタイル再生中、3つのキーのうちいずれかを押すと、エンディングを再生しスタイルが停止します。

キーを2回押すとLEDが点滅し、エンディングをループ再生します。ループを終了するときは、もう一度キーを押すか、別のスタイル形式(イントロ、バリエーションなど)を選びます。

Note: プリセット・スタイルでは、エンディング1はコード展開のあるシーケンスになっていて、エンディング演奏中は演奏者はコードを変更する必要がありません。エンディング2はバリエーション1~4と同様に、コード展開の無いシーケンスとなっていて演奏したコードに応じて伴奏が変化します。エンディング3は通常2小節前後の短いもので、押すと短いエンディングで停止するようになっています。

スタイル・コントロール

これらのキーで伴奏(アカンパニメント)のスタート、ストップを行います。



FADE IN/OUTキー

スタイルやソングが演奏中でない場合、FADE IN/OUTキーを押すと、本機のボリュームがフェイドイン(無音の状態から徐々にボリュームが上がる)し、スタイルやソングの演奏が始まります。

スタイルやソングが演奏中の場合にFADE IN/OUTキーを押すと、本機のボリュームがフェイドアウト(徐々に無音の状態へボリュームが下がる)し、スタイルやソングの演奏が停止します。

この時、スタイルやソングの演奏をスタートさせたり停止させるためにSTART/STOPキーまたはPLAY/STOPキーを押す必要はありません。

Note: この機能は Sequencer モードでは使用できません。

SHIFT SHIFTキーを押しながら、FADE IN/OUTキーを押すと、GlobalモードのBasicページを表示させることができます。

TAP TEMPO/RESETキー

このキーはスタイルの状態(停止、再生)により機能が変わります。

Note: この機能は Style Play モードでのみ使用できます。

TAP TEMPO:スタイルを再生していないときは、Meter(拍子)に合わせてこのキーを押し、テンポを決めます。タップ・テンポは、演奏する曲の拍子と同じ数だけこのキーをタップします(4/4拍子の場合は4回、3/4拍子の場合は3回)。そして設定したテンポで自動的に伴奏がスタートします。

RESET:スタイルの再生中にこのキーを押すと、スタイルの伴奏が演奏中のスタイル・エレメントの先頭に戻ります。

START/STOPキー

スタイルの演奏を開始、停止します。

Note: この機能は鍵盤をより強く演奏することでオンにすることもできます(Globalモード「Style Play ページ Velocity Control」参照)。

SHIFT 本機またはMIDI OUT端子やUSB端子に接続された機器上で、音が鳴りやまないときや、コントローラーをリセットするときに、このSTART/STOPキーとSHIFTキーとを同時に押します(パニック停止機能)。

SYNCHRO START / STOPキー

シンクロ・スタート、シンクロ・ストップ機能をオンまたはオフにします。スタイルを再生または停止するのにSTART/STOPキーを押す必要があるか、鍵盤を弾くだけでよいのかを決定することができます。

START オン、STOP オフ

この状態では、コード検知領域でコードを弾くと、スタイルを自動的に再生します。必要であれば、スタイルを再生する前に、いずれかのイントロをオンにできます。

START、STOP ともにオン

スタート、ストップ両方のLEDが点灯している場合、両手を鍵盤から離すとスタイルの演奏が一時的に停止します。その後、鍵盤でコードを演奏するとスタイルの演奏が再び始まります。

START オフ、STOP オン

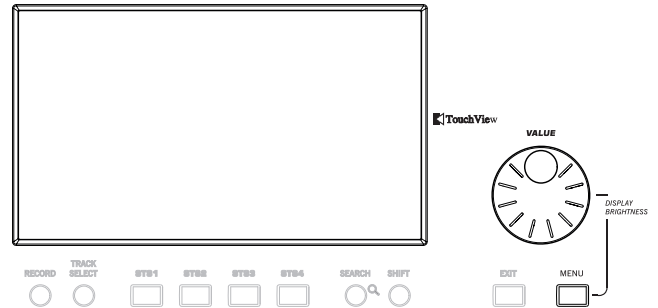
この状態では、鍵盤から手を離すと、再生しているスタイルがストップします。

START オフ、STOP オフ

シンクロ機能がオフになります。

SHIFT SHIFTキーを押しながら、SYNCHRO START/STOP キーを押すと、GlobalモードのMIDI、Setup/General Control ページを表示させることができます。

ディスプレイ、輝度調整



カラー・タッチビュー・グラフィカル・ディスプレイ

この画面上で本機の操作を行います。画面の輝度は、MENUキーを押しながら、VALUEダイヤルを回すことで調整できます。ダイヤルを反時計回りに回すと輝度が下がり、時計回りに回すと輝度が上がります。

その他の機能のコントロール

このエリアには、TRACK SELECT、SEARCH、SHIFTキーがあり、さまざまな機能にアクセスできます。



TRACK SELECTキー

選択された操作モードにより、さまざまなトラックのパネル画面を切り替えます。

Style Playモード

キーボード・トラックとスタイル・トラックを切り替えます。

Song Playモード

キーボード・トラック、ソング・トラック1~8、ソング・トラック9~16を切り替えます。

Sequencerモード

ソング・トラック1~8とソング・トラック9~16を切り替えます。

SEARCHキー

SEARCHキーを押すとサーチ画面が表示され、ファイルや楽曲データの検索が行えます。なお、サーチ画面の表示は、その時表示されている画面によって変わります。

SHIFTキー

SHIFTキーを押しながら他のキーを押すと、そのキーに割り当てられている機能とは別の、もうひとつの機能にアクセスできます。

STS (シングル・タッチ・セッティング) セクション

STSキーを使用して、鍵盤(キーボード・トラック)にサウンドを割り当てることができます。



STS 1~4キー

最大4つのシングル・タッチ・セッティングを選択できます。それぞれのスタイルやソングブック収録曲には4つのシングル・タッチ・セッティング(STS)が含まれていて、キーボード・トラックやエフェクト設定をワンタッチで切り替えることができます。パネルのSTSモードのLEDが点灯しているときは、スタイルを選択すると、STSが自動的に選ばれます。

Note: ファクトリー・バンクのスタイルにある STS には通常、プロテクトがかかっています (Global モードの "Factory Style and Pad Protect" パラメーターで解除することもできます)。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながら、STS 1~4のいずれかのキーを押すと、現在のSTSを選択している状態でSTS書き込みウィンドウが開き、現在のSTSのキーボード・トラック設定を保存することができます。

プレーヤー・コントロール

本機にはスタンダードMIDIファイル、MP3ファイルのプレーヤーが内蔵されています。このプレーヤーはSong PlayモードやSequencerモードで使用できます。



<<、>>

早戻しと早送りです。ソングが前後に移動します。

これらのキーを1回押すと、ソング内の前後の小節(スタンダードMIDIファイルの場合)に、または1秒間前後(MP3ファイルの場合)に移動できます。また、これらのキーを長押しすると、キーを放すまでソングの再生ポジションが前または後に移動し続けます。

Sequencerモードでは、Locate Measureを1(ソングの先頭)以外のポジションに設定している場合、早戻しキー(<<)を押すと設定したポジションに移動します。

[SHIFT] Jukeboxモードで、SHIFTキーを押しながら、このキーを押すと、ジュークボックス・リストの前後のソングに移動します。

◀ (HOME)

ソングの先頭(第1小節の頭)に移動します。

Sequencerモードで、Locate Measureパラメーターに1以外を設定すると、ソングはその小節までしか戻りません。

▶/■ (PLAY/STOP)

現在のソング位置から再生、現在のソング位置で停止します。

LYRICS、SCORE、MARKER

Lyrics(歌詞)、Score(楽譜)、Marker(マーカー)機能にアクセスする際に、これらのキーを押します。



LYRICSキー

LYRICSキーを押すと、ソング、スタイル、ソングブックのエントリーの歌詞ページを呼び出します。

SCOREキー

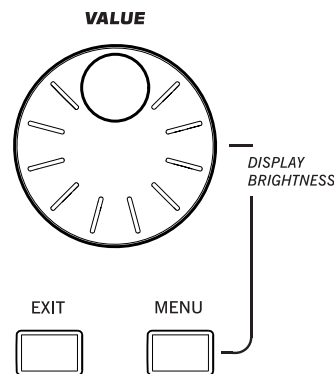
SCOREキーを押すと、スコア・ページが開きます (Song Playモード、またはSongBookモード時のみ)。

MARKERキー

MARKERキーを押すと、マーカー・ページが開きます (Song Playモード、またはSongBookモード時のみ)。

データ入力とナビゲーション

VALUEダイヤルは、画面上で選択したパラメーターの値を設定します。また、ソング選択、ソングブック、検索、Mediaモードのページで、ファイル・リストのスクロールなどで使用できます。



VALUEダイヤル

時計回りに回すと、値やテンポを上げます。反時計回りに回すと、値やテンポを下げます。

[MENU] MENUキーを押しながらVALUEダイヤルを回すと、画面の輝度調整ができます。

EXITキー

このキーを使って、現在のページから移動します。

- エディット・メニュー・ページが、項目を選択することなく終了します。
- ページ・メニューの表示が、項目を選択することなく閉じます。
- 現在のモードのメイン・ページに戻ります。
- Globalモードやメディアの編集から抜けて、現在のモードのページに戻ります。
- ソング・ブック・モードを終了します。
- 歌詞、スコア、マーカー・ページの画面を終了します。
- スタイル、パッド、パフォーマンス、サウンド選択ウィンドウを終了します。

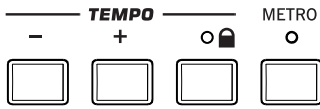
MENUキー

現在の操作モードでエディット・メニュー・ページを開きます。エディット・メニュー・ページを開いたら、画面上の対応するボタンを押して各エディット・セクションに移動します。

また、EXITキーを押して、現在の操作モードのメイン・ページ、または元のページに戻ります。

テンポ・セクション

TEMPOキー、METROキーを使い、テンポを調整します。



TEMPO +/-キー

スタイルまたはスタンダードMIDIファイルのテンポを下げる(ゆっくりにする)場合はTEMPO-キーを、テンポを上げる(速くする)場合はTEMPO+キーを押します。MP3ファイルの場合は、再生速度が上下します。

+/-キーを同時に押すと、スタイルやスタンダードMIDIファイルに保存されているテンポに戻すことができます。MP3ファイルの場合は、オリジナルの再生速度に戻ります(この時、値は「0」になります)。

TEMPO LOCK キー

テンポ・ロック機能をオン(LED点灯)、またはオフにします。

オン 現在選択中のスタイルまたはパフォーマンスから、別のスタイルやパフォーマンスに切り替えたり、あるいは別のソングを選択しても、テンポは変化せず、手動によるテンポ変更も引き続きTEMPO +/- キー、またはVALUEダイヤルで行えます。

オフ 異なるスタイルやパフォーマンスを選択、または異なるソングを選択すると、保存しているテンポを自動的に選択します。

Note: この機能はMP3ファイルに対しては動作しません。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながら、TEMPO LOCKキーを押すと、Globalモードのロック・ページを表示させることができます。

METROキー

メトロノーム機能のオン、オフを行います。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながら、このキーを押すとGlobalモードのBasicページに移動できます。

スプリット機能

スプリット機能を使用すると、鍵盤上からコード・エリアを独立させることができます。

SPLIT
○



SPLITキー

Style Play、Song Play、Sequencer Backing Sequenceの各モードでSPLITキーを押すと、アレンジャー機能(伴奏機能)がコードを認識するエリアを指定することができます。

Note: 伴奏付きの演奏をする場合は、ACCOMP LEDをオンにして点灯させます。

オン Lowerトラックがスプリット・ポイントより低音域を使用し、Upper 1、Upper 2、Upper 3トラックがスプリット・ポイントより高音域を使用します。これを**スプリット・キーボード・モード**といいます。

初期設定では、スプリット機能が自動的にオンになり、ローワーがコード認識エリアになります。この場合、スプリット・ポイントよりも低音域で押さえたコードのみがアレンジャーに認識されます。

オフ Upper 1、Upper 2、Upper 3トラックが鍵盤全体を使用します。Lowerトラックは使用しません。これを**フル・キーボード・モード**といいます。

スプリット機能をオフにすると、コード認識エリアが鍵盤全域になります。この場合、鍵盤上の全領域で押さえたコードがアレンジャーに認識されます。

この時、最低3音以上の音を同時に押さえないとコードとして認識されません。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながらSPLITキーを押すと、ダイアログ・ボックスが表示され、鍵盤で新しいスプリット・ポイントを指定することができます。スプリット・ポイントを変更したくない場合は、EXITキーを押します。

アンサンブル機能

アンサンブル機能は、右手で演奏したメロディにハーモニーを付け加えることができます。

ENSEMBLE
○



ENSEMBLEキー

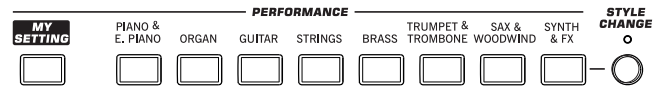
ENSEMBLEキーを押すと、アンサンブル機能のオン、オフが切り替わります。この機能は、右手で演奏するメロディに、左手で押さえたコードに即したハーモニーを付け加えることができるものです。

Note: アンサンブル機能は、スプリット機能がオンの時にのみ使用できます。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながらENSEMBLEキーを押すと、Style PlayモードのKeyboard/Ensembleページに移動できます。

パフォーマンス・セレクト・セクション

このセクションでパフォーマンスを選択します。パフォーマンスは、スタイルに応じてキーボード・トラックのすべてのサウンドやコントロール・パネルの設定などをまとめてメモリーしたものです。



MY SETTINGキー

マイ・セッティングは、本機の電源を入れると自動的に選択される特別なパフォーマンスです。MY SETTINGキーを押すと、このパフォーマンスが即座に選択されます。

パフォーマンスをマイ・セッティングにメモリーするには、このキーを約1秒間長押しします。

PERFORMANCEキー

PERFORMANCEキーを押すとパフォーマンスの選択画面が表示され、パフォーマンスを選択できます。パフォーマンスの各バンクは5ページあり、各ページに最大8つのパフォーマンスが入っています。ページを切り替えるには、PERFORMANCEキーを繰り返し押しします。

すべてのパフォーマンスは自由にカスタムできます。Style PlayまたはSong PlayモードでMENUキーを押し、エディット・ページにアクセスするとパフォーマンスのカスタムを行えます。

[SHIFT] SHIFTキーを押しながら、このセクションのキーのいずれかを押し、Write Performance(パフォーマンスの保存)画面が表示され、現在選択しているトラックの設定がパフォーマンスに保存できます。

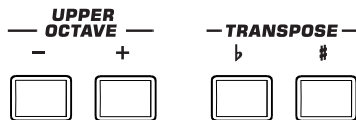
STYLE CHANGEキー

スタイル・チェンジ機能をオンまたはオフにします。

オン パフォーマンスを選ぶと、パフォーマンスに保存しているスタイルに従い、スタイルを変更します。

オフ パフォーマンスを選んで、スタイルとスタイル・トラックの設定は変更されません。キーボード・トラックの設定(音色、エフェクト)のみが変わります。

トランスポーズ・セクション



これらのキーでトランスポーズを行います。

UPPER OCTAVEキー

STYLE PLAYモード、SONG PLAYモード、SEQUENCERモードのBacking Sequenceの場合は、キーボード・トラックのアップー側の3つのトラック(Upper 1~3)を同時に、1 オクターブ単位(12半音、最大±3オクターブ)でトランスポーズします。オクターブのトランスポーズ値は、サウンド名の横、または各モードの Mixer/Tuning: Tuningページに常に(オクターブで)表示されています。



両方のキーを同時に押すと、画面内の「PS」と書かれた箇所を選択しているPerformance、あるいはSTSのオクターブ設定に戻ります。

SEQUENCERモード(Backing Sequence以外)、STYLE RECORDモードの場合は、選択中のトラックが1 オクターブ単位(12半音、最大± 3オクターブ)でトランスポーズします。値は各モードの Mixer/Tuning: Tuningページに常に(オクターブで)表示されています。

SOUNDモードの場合は演奏したノートが1 オクターブ単位(12半音、最大±3オクターブ)でトランスポーズします。

Note: STYLE RECORD モードでは、録音済みのデータには UPPER OCTAVEは機能しません。

オクターブ・トランスポーズ(各モードの「Octave Transpose」参照)は、表示上の値を変更した場合でも、トラックの「Type」(リファレンス・ガイド 24ページ参照)が Drumに設定されたトラックのシーケンス・データには影響がありません(鍵盤で演奏する場合や、レコーディング時は有効)。

— 1 オクターブ下げます。

+ 1 オクターブ上げます。

[SHIFT] SHIFT キーを押しながら、UPPER OCTAVE キーを押すと、Style Playモードのチューニング・ページを表示させることができます。

Hint: チューニング・ページでは各トラックに対してトランスポーズをかけることができます。

TRANSPOSEキー

本機全体の音の高さを半音単位でトランスポーズします(マスター・トランスポーズ)。トランスポーズの値は、通常、ページのヘッダーに表示します。



両方のキーを同時に押すと、マスター・トランスポーズが0になります。

Note: MP3 ファイルもトランスポーズできます。ただし、トランスポーズの量は-6 ~ +5 半音の範囲に制限されていることに注意してください。この範囲であれば、すべてのキーをカバーしながら、オーディオ品質が極端に劣化することはありません。これ以上トランスポーズを行っても効果はありません。このため、画面にトランスポーズ値として +7 を表示している場合でも、MP3 は +5 半音に制限します。

b マスター・トランスポーズを半音下げます。

マスター・トランスポーズを半音上げます。

[SHIFT] SHIFT キーを押しながら、TRANSPOSEキーのどちらかを押すと、Globalモードのトランスポーズ・コントロール・ページを表示させることができます。

電源のオン / オフ

STANDBYキー

スタンバイ・キーで本機の電源を入れたり(LEDが点灯)、切ったり(LEDが消灯)します。電源オフの状態では、本機はスタンバイ・モードになります。



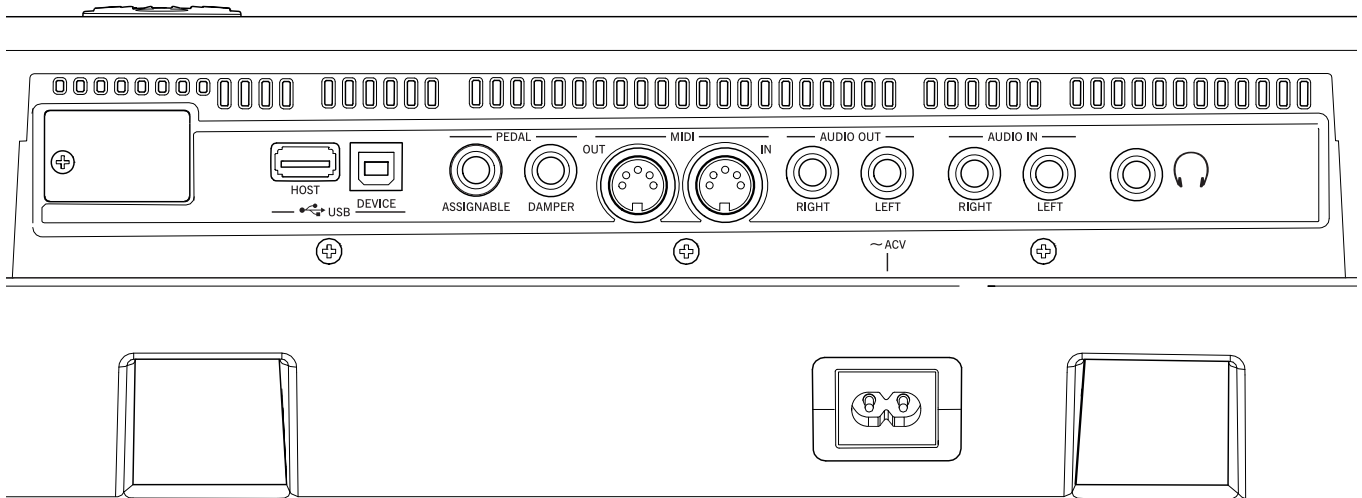
この状態でSTANDBYキーを押すと本機の電源がオンになります。この時、ユーザーPCMサンプルを使用したユーザー・サウンドがメモリされている場合、それらのロードに少し時間がかかることがあります。

STANDBYキーを約1秒間押したままにすると、本機の電源がオフになります。

Warning: 本機がスタンバイ・モードになっている場合、電源はつながったままの状態になっています。この状態で本機の内部に触れることは非常に危険です。本機の内部に触れる必要がある場合には、必ず電源ケーブルをコンセントから外した状態で行ってください。

Note: 節電のため、本機ではまったく操作されない状態(演奏していません)であったり、キーやタッチスクリーンを操作していない状態が2時間続くと自動的に電源がオフになります。この時、保存されていないデータ(パフォーマンスやスタイル、ソングなど)がある場合、電源オフと同時に消去されてしまいますので、ご注意ください。この設定は、GlobalモードのClock & Powerページで変更できます。

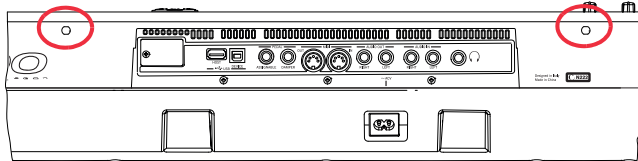
リア・パネル



譜面立て

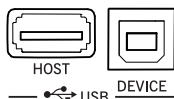
譜面立て用穴

本機には、譜面立てが標準装備されています。譜面立ての足の部分をこの2つの譜面立て用穴に差し込んでください。



USB 端子

USBデバイスやコンピューターを接続する際に使用します。



HOST

USBタイプA端子です。USB 2.0対応です(ハイスピードのみ:古いUSBデバイスやスピードの遅いUSBデバイスを接続する場合は、USBハブをご使用ください)。本機にUSBメモリーやCD-ROMドライブ、USB接続のハードディスクを接続する際に使用します。

接続したデバイスにアクセスするには、Mediaモードに入ります。

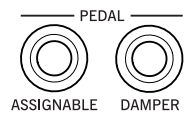
DEVICE

USBタイプB(スレーブ/デバイス)端子です。USB 2.0対応です。本機をコンピューターに接続し、内部デバイス(SSD)との間でデータ転送が可能です。USB接続をできるようにするには、MediaモードのUSBページでUSB接続をオンにします。

また、本機はUSB-MIDI機能に対応していますので、MIDI端子の代わりにUSB端子を使用することもできます。本機をコンピューターに接続する場合、各種ドライバーが必要になることがあります。ドライバーは本機に付属のアクセサリ・ディスクに収録されています。また、コルグ・ホームページからもダウンロードできます。

PEDAL 端子

様々なタイプのペダルを接続することができません。



ASSIGNABLE

この端子にはエクスプレッション・ペダルなど、連続的に可変するタイプのペダル(コルグEXP-2、XVP-10(別売オプション))や、スイッチ・タイプのペダル(コルグPS-1、PS-3(別売オプション))を接続します。ペダルの設定やキャリブレーション(調整)はGlobalモードのFoot Controllerページで行います。

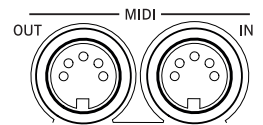
DAMPER

ダンパー・ペダルを接続します。コルグPS-1、PS-3、DS1H(以上すべて別売オプション)などのタイプのペダルを接続できます。ペダルの極性やキャリブレーション(調整)はGlobalモードのFoot Controllerページで行えます。

Note: DS1H ダンパー・ペダルを本機に接続すると、ピアノ・サウンドでハーフペダリング奏法を演奏することができます。

MIDI 端子

外部コントローラー(マスター・キーボード、MIDIギター、ウィンド・コントローラー、MIDIアコーディオンなど)、外部音源、シーケンサーを起動させたPCに接続します。MIDIインターフェイスの使用方法については、リファレンス・ガイドの「MIDI」の章を参照してください(リファレンス・ガイド 173ページ)。



OUT

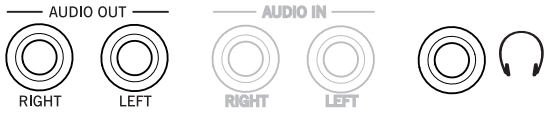
本機の鍵盤、コントローラー、内部シーケンサーで生成したMIDIデータを送信します。この端子を外部音源やコンピューターのMIDI IN端子に接続します。

IN

コンピューターやコントローラーからMIDIデータを受信します。この端子を外部コントローラーやコンピューターのMIDI OUT端子に接続します。

AUDIO OUT 端子

オーディオ信号(サウンド)をミキサー、PAシステム、パワード・モニター、オーディオ・システムに送信するアンバランス型端子です。



LEFT, RIGHT

メインのステレオ出力端子です。最終的なステレオ・ミックスを外部デバイスに出力します。信号をモノラルで出力するには、いずれかを接続します。出力レベルはMASTER VOLUMEノブで設定します。

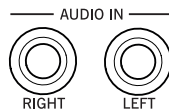
これらのアウトプット端子には、2本のモノラル・ケーブルを接続します。お使いのミキサーやパワード・モニター(アンプ内蔵モニター・スピーカー)、コンポなどのライン入力やTAPE/AUX入力端子のステレオ入力端子またはモノラル・チャンネルにそれぞれ接続します。なお、コンポなどに接続される場合、PHONO端子には接続しないでください。

PHONES

ヘッドホンを接続します。接続可能なヘッドホンは、インピーダンスが16Ω~200Ωのもので(50Ω推奨)。この端子からヘッドホン・スプリッターに接続して、複数のヘッドホンを接続することもできます。

AUDIO IN 端子

別のキーボード/シンセサイザー、CDプレーヤー、MP3プレーヤーなどのオーディオ信号を入力します。信号は直接最終段でミックスされます。



LEFT, RIGHT

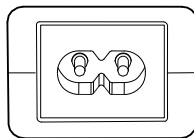
キーボードやシンセサイザー、CDまたはMP3プレーヤー、ミキサーのライン出力(スピーカー出力は接続しないでください)など、ラインレベルのオーディオ信号を入力できます。入力レベルは出力側の機器で調整します。

電源端子

本機に付属の電源ケーブルを接続します。

電源ケーブル・コネクター

本機に付属の電源ケーブルを接続します。本機の電源オン、オフは、フロント・パネルにあるSTANDBYキーで行います。



Warning: 本機がスタンバイ・モードの時、電源は本機につながったままの状態になっています。この状態のまま本機の内部に触れることは非常に危険です。本機の内部に触れる必要がある場合は、必ず電源ケーブルをコンセントから外した状態で行ってください。

はじめに

コルグ・プロフェッショナル・アレンジャーPa600をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機は、パワフルなアレンジ機能が搭載され、プロフェッショナル用として、またご家庭用として、あらゆるシーンで十分ご満足いただける自動伴奏機能を装備したシンセサイザー・キーボードです。

本機の特長

- 61鍵ベロシティ付きキーボードを装備。
- 新デザインのボディを採用。
- ワイドで視認性の高いTFTグラフィック・ディスプレイを搭載。画面に触れて操作できるタッチビュー・グラフィック・インターフェイスを採用し、さまざまなコントロールを行えます。
- 高品位アンプ回路、高品質オーディオ出力回路(D/Aコンバーター)を内蔵。
- RXテクノロジー(Pa600のパワフルな仕様を使うことができるように大型タッチ・ディスプレイを採用することによって、使いやすい操作性、機能、サウンドをもつテクノロジー)
- パワフルな音源システムによる、クリアでリアルなサウンド。
- ダイナミック・ニュアンス・コントロール(DNC)機能を採用し、これまで以上にリアルでビビットなサウンドを実現。
- ユーザーPCMサンプル用として、96MBのサンプル・メモリーを内蔵。
- 最大同時発音数128。
- ジェネラルMIDI2(GM2)に準拠したサウンドを内蔵。GM規格のソング・ファイルもさらに高品位なサウンドで再生可能。
- 950種以上のサウンド、64種のドラム・キットを内蔵。
- 320のパフォーマンス・ロケーションと、スタイルやソングブックの4つのシングル・タッチ・セッティング(STS)により、キーボード・サウンドとエフェクトが瞬時に設定可能
- ステレオ・マスター・エフェクトを4系統搭載。各エフェクトには125種のエフェクト・タイプを内蔵。さらに、マスタリング・リミッターや4バンド・パラメトリックEQをオーディオの最終段に内蔵。
- 2つのアサインابل・スイッチやジョイスティック、アサインابل・ペダルなどにより、サウンドに自由なアーティキュレーションを付けることが可能。
- 360種以上のファクトリー・スタイルを内蔵。各スタイルとも、4バリエーション、4フィルイン、ブレイクを内蔵。さらに10種類の「お気に入り」スタイルや3種類のユーザー・スタイル・バンクを用意し、膨大な量のスタイル・データやセッティング・データを格納可能。
- スタイル・レコード機能やパッド・レコード機能には、さらに進化したギター・モード2を搭載し、これまで以上にリアルなギター・パートのレコーディングが可能。
- リアルタイムにコード進行をプログラムできる「コード・シーケンサー」機能を搭載。
- スタンダードMIDIファイル・プレーヤー/レコーダーや、ボーカル・リムーバー装備のMP3プレーヤーを搭載。

- 歌詞や楽譜、マーカー表示機能を内蔵。歌詞表示機能は+Gフォーマットに対応したスタンダードMIDIファイルやMP3ファイルに対応。
- フル機能の16トラック・シーケンサーを搭載。
- 自在にエディット可能なソング・ブック・ミュージック・データベースを搭載、瞬時に目的のソングの検索が可能。
- サウンドやファイルを瞬時に検索できる、サーチ機能を内蔵。
- オペレーティング・システムのアップデートが行え、新機能の追加など、常に本機を最新の状態にキープできます。
- 大容量メモリーを搭載し、膨大な量のデータを保存可能。
- USB 2.0ホスト・ポート装備により、ハード・ディスク、CD-ROMドライブ、USBフラッシュ・メモリーなどの外部デバイスとの接続が可能。
- PCとの接続用にUSB 2.0ポートを1つ装備。これにより、ファイル転送やMIDI接続が可能(PC専用のMIDIインターフェイスは不要)。

使えるライブ性能

本機はおもにライブ使用を想定して設計されています。「リアルタイム」という言葉は、まさに本機のためにある言葉です。**パフォーマンス**はすべての鍵盤のトラックと、それに合ったスタイル設定を瞬時にに行います。**STS**は瞬時にキーボード・トラックの選択を、**スタイル**はリアルタイムで演奏にバックアップを可能にします。

パッドでは単発のサウンドやループ・シーケンスを演奏できます。**ソング**はソロ演奏やボーカルのバック・トラックとして活用でき、**ソングブック**を利用すれば膨大な量の楽曲データから演奏する曲を素早く選択できます。また、**サーチ機能**を併用すれば膨大なデータから必要なものを簡単に検索できます。

簡単画面のイージー・モード

強力なタッチビュー画面による操作機能を使わなくても、手軽な演奏を実現したイージー・モードがお勧めです。

イージー・モードを使用すれば、本機の膨大で先進的な機能(中にはそれほど頻繁に使用されるとは限らない機能もありますが)を気にすることなく、演奏に専念できます。

パッケージの確認

本機をお買い上げになりましたら、最初に付属品等がすべて揃っているかどうかをお確かめください。万が一、何か足りないものがありましたら、速やかにお買い上げの楽器店等にお問い合わせください。

- Pa600
- 譜面台
- 電源ケーブル
- クイック・ガイド
- DVD (ビデオ・マニュアル, リファレンス・ガイド, USBドライバーなど)

取扱説明書について

今お読みになっているマニュアルは、**クイック・ガイド**です。本ガイドは、本機の操作方法などの手順をご説明するものです。本ガイドは付属DVDにも収録されています。また、コルグ・ホームページにも掲載されています。

- PDF形式の**リファレンス・ガイド**は、本機の各ページやパラメーターを詳しくご紹介したり、本機の内蔵データ一覧など、本機をより深くご使用になる際に便利な情報を収録したものです。
- また、本機の使用法を分かりやすくご紹介している、**ビデオ・マニュアル**もあります。

ネットワーク・リンク

コルグでは、本機を以下のサイトで提供しています。

オペレーティング・システムの最新版やさまざまなシステム・ファイル(例えば、ファクトリー・データのバックアップなど)があるサイトです。(http://www.korg.co.jp/)

データのバックアップについて

バックアップを取る

エディットしたオリジナルのデータ(サウンド、パフォーマンス、スタイルなど)がある場合、定期的にデータのバックアップを取ることをおすすめします。Mediaモードの“Full Resource Backup”コマンドを使用すると、すべてのデータ・コピーをコンパクトなファイルにまとめることができます。

また、Mediaモードの“Save All”コマンドを使用すれば、データ別にファイルをセーブしたりロードすることも可能です。

バックアップ・ファイルを読み込む

バックアップ・ファイルの読み込みは、Mediaモードの“Full Resource Restore”コマンドで行います。

Mediaモードの“Save All”コマンドでセーブしたデータは、同じくMediaモードの“Load”コマンドでロードすることができます。

ファクトリー・データに戻す

工場出荷時のファクトリー・データに戻すには、Mediaモードの“Factory Restore”コマンドを使用します。

オペレーティング・システムのロード

コルグでは、本機のオペレーティング・システムを常にアップデートしていますので、お手持ちのオペレーティング・システムも最新版にアップデートできます。オペレーティング・システムは、www.korg.co.jpからダウンロードできます。サイトにあるオペレーティング・システムと一緒にダウンロードされる「Readme」ファイルを、必ずお読みください。

本機のオペレーティング・システムのバージョンは、Mediaモードのユーティリティ・ページで確認することができます(リファレンス・ガイド 157ページの「OS Version Number」参照)。

Warning: コルグから供給される本機用のオペレーティング・システム以外はインストールしないでください。他のPaシリーズ用に用意しているオペレーティング・システムをインストールすると本機の故障、破損を招く恐れがあります。オペレーティング・システムの不正なインストールに起因する故障や破損については、コルグは一切の責任を負いません。

演奏を始める前に

AC 電源コードの接続

付属の電源コードを本機リア・パネルのACV電源端子に接続します。電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。本機はユニバーサル電源アダプターを搭載しているため、使用地域による電圧の違いに関係なく、ご利用いただけます。

1. 本機の電源がオフになっていることを確認します。
2. 付属の電源コードを本機リア・パネルのACV電源端子に接続します。

Note: 電源コードは必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用した場合、故障などの原因となります。

電源のオン / オフ

フロント・パネルにあるSTANDBYキーを押して、本機の電源をオンにします。起動時の画面が表示されます。

Note: 本機の電源をオンにすると、ユーザー・サウンドで使われるユーザーPCMサンプルを自動的にロードします。ロードには多少の時間がかかることがあります。

本機の電源をオフにするときは、フロント・パネルにあるSTANDBYキーを約1秒間押し続けます。



音量調整

マスター・ボリューム



MASTER VOLUMEノブで本機の全体の音量を調節します。このノブは、内蔵スピーカー、AUDIO OUT端子、PHONES端子の音量を調節します。

Note: まず、中程度のレベルから調節を始めてください。徐々にMASTER VOLUMEノブを上げます。

キーボード、スタイル、ソング・ボリューム

初期設定では、BALANCEノブはキーボード・トラック(鍵盤)とスタイル(ACC)やソング(SNG)、パッドの各トラックの音量バランスを調整します。



- Style Play モードのときは、キーボード・トラックとスタイル、パッド・トラックのバランスを調節します。
- Song Play モードのときは、キーボード・トラックとプレイヤー、パッド・トラックの音量バランスを調節します。

ここでの調整は相対的なボリューム・コントロールで、実質的な最大音量はMASTER VOLUMEノブで調整します。

このノブを回すと、スライダーが画面に拡大表示され、より細かく調整できます。

また、このノブでキーボード・トラックのボリュームに影響を及ぼすことなく、スタイルやソングのボリュームのみを調整することもできます(Globalモード“Balance”パラメーター参照)。

Note: このノブによる調整はStyle Playモード、Song Playモードでのみ有効で、Sequencerモードでは無効となります。

ヘッドホン

リア・パネルにあるPHONES出力端子にヘッドホンを接続します。16~200Ω(50Ω推奨)のインピーダンスのヘッドホンが使えます。

Note: ヘッドホンを接続すると、スピーカーからの出力はキャンセルされます。

スピーカー

本機にはパワフルで高品位なバスレフ・スピーカーがステレオで内蔵されています。アンプは15W+15Wの出力です。

スピーカーの音量はMASTER VOLUMEノブで調整します。

スピーカーの出力は、GlobalモードAudio& EQ:MP3/Speakerページの“Speakers On/Off”パラメーターでオン、オフが行えます。

オーディオ出力

本機を外部アンプ・システムに接続することができます。

詳しくは12ページの「AUDIO OUT端子」を参照してください。

ダンパー・ペダル

リア・パネルのDAMPER端子に、ダンパー(サスティン)ペダルを接続します。コルグPS1、PS3、DS1Hフット・スイッチ・ペダル、または同等のものをお使いください。ダンパーの極性の変更については、リファレンス・ガイド 134ページの「Controllers: Foot Controllers」参照してください。

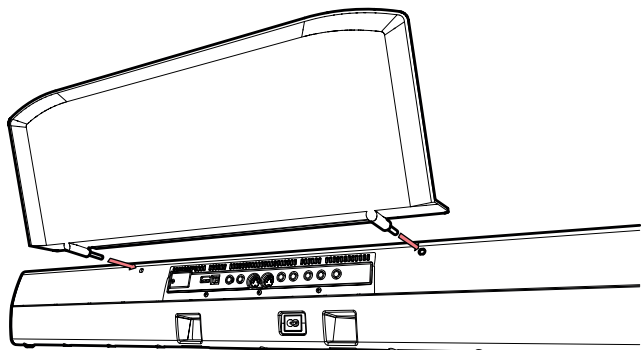
コルグDS1Hを使用すれば、本機のグランド・ピアノ・サウンドでハーフペダリングのテクニックを使用した演奏が行えます。ダンパー・ペダルの極性切替やキャリブレーション(調整)は、GlobalモードのFoot Controllerページで行います。

アサインブル・ペダル

フットスイッチやエクスペッション・ペダルを、リアパネルのASSIGNABLE端子に接続できます。コルグPS-1やPS-3フットスイッチやEXP-2エクスペッション・ペダル、XVP-10ボリューム・ペダル(以上すべて別売オプション)に対応しています。ペダルのキャリブレーション(調整)はGlobalモードのFoot Controllerページで行います。

譜面立て

本機には、譜面立てが標準装備されています。図のように譜面立ての足の部分をリア・パネルの2つの譜面立て用穴に差し込んでください。



Note: 譜面立ての取り付けは、譜面立ての足をリア・パネルの譜面立て用穴に対して少し上方向に挿入し、譜面立ての足が本体に当たる場所まで押し込んでください。

用語の説明

本機のおもな機能を説明するために本書で使われる名称や用語を解説します。

ここでは、本機のおもな構成要素について概略を記述します。本機では、従来のシンセサイザーやワークステーションとは異なった用語を使います。ここで、それぞれの名称や機能を理解すると、本機の各部がどのような動作をしてリアルでパワフルな音楽表現を作り出しているのかを知る手助けになります。また、このクイック・ガイドの他の章を理解するためにも大いに役立ちます。

サウンド (SOUND)

サウンドはアレンジャー・キーボードの基本となるものです。サウンドとは演奏楽器の音色(ピアノ、ベース、サクソ、ギターなど)のことで、エディット、保存、呼び出し、ロード、またそれらの設定を各トラックに割り当て(アサイン)することが可能です。個々のサウンドは、Soundモードで、自動伴奏(スタイル)機能を使わずに、普通のキーボードと同様に演奏することができます。Style Playモード、Song Playモード、Sequencerモードでは、シーケンサー・トラックやスタイル・トラック、キーボード・トラックに、サウンドを自由に割り当てることができます。

スタイル (Style)

自動伴奏(バックিং・パターン)を意味するスタイルは、本機アレンジャー・キーボードの真髄を成すものです。スタイルは、最大8つのパート、あるいはトラックで基本構成されています。

ドラム (Drum)

ドラム・トラックでは、標準ドラム・キットによるリズム・フレーズを繰り返し演奏します。

パーカッション (Percussion)

パーカッション・トラックでは、さまざまなパーカッション楽器(コンガ、シェーカー、カウベル、など)のパーカッション・リズム・フレーズを演奏します。

ベースとアカンパニメント (Bass & Accompaniment)

ベース・トラックと、それに加えた他のアカンパニメント(伴奏)・トラック(最大5トラック)が、ドラム・トラックとパーカッション・トラックに同期して、音楽的に関連したフレーズを再生します。これらのトラックで再生されるフレーズは、鍵盤で演奏したコード進行に従って変化します。

各スタイル・トラックには、自由にサウンドを割り当てることができます。

バリエーション (Variation)

各スタイルには4種類のバリエーションがあり、それぞれを曲のAメロやBメロ、サビのように使用できます。各バリエーションは、少しずつ違った形になっています。バリエーション1からバリエーション4になるに従ってアレンジが複雑になり、例えばパート(スタイル・トラック)が増えてきます。これにより、スタイルのオリジナルの「

フィーリング」を損なうことなく、よりダイナミックなアレンジの演奏ができます。

フィルインとブレイク (Fill-in & Break)

ドラマーが演奏中に、例えば曲中のバース(序奏)からコーラス(主題)に移るときに、ビートに強弱をつけて繰り返し調子になり過ぎないように、時々「フィル(おかず)」を入れることがあります。

本機には各スタイルにつき4種類のフィルインがプログラムされています。これらは、バリエーションを選択するとそれに応じたフィルインが自動的に呼び出されます(オート・フィル機能)。

フィルインはドラムだけだったり、ドラムとインストルメントだったり、さらには無音の「ブレイク(Break)」だったりします。

イントロとエンディング (Intro & Ending)

それぞれのスタイルには、演奏を完成させるイントロとエンディングが用意されています。ハーモニーを生かしコード・チェンジを含めた長短のイントロやエンディングとコードを固定したイントロとエンディングが用意されています。また、クイック・エンディング3のような「カウント・イン(Count-in)」スタイルのイントロも用意されています。

パッド (Pad)

パッドはシングル・サウンドやシングル・トラックのパターンのようなもので、専用PADキーを押して使用します。

パッドは単発のサウンドを発音させたり、演奏中のスタイルやスタンダードMIDIファイルの短いシーケンス(フレーズ)を繰り返しループ再生するのに使用します。シーケンスは、コード認識機能の結果に応じてフレーズの内容が変化します。

キーボード・トラック

自動伴奏(バックিং・パターン)を意味するスタイル・トラックに対してに、最大4つのパートを鍵盤でリアルタイムに演奏することができます。

各キーボード・トラックは、特定の鍵盤範囲、あるいはペロシティ範囲で演奏できるように設定できます。

通常は3つのパートをスプリット・ポイントの右側(アップパー)に、1つパートを左側(ロワー)に割り当てます。これにより、アップパーのサウンドを重ねて演奏することができます。

スプリット・ポイントは好きな位置に設定できます。

これらのキーボード・トラックは、スタイルに合わせて演奏する以外にも、プレーヤーと合わせて演奏することができます。

シングル・タッチ・セッティング (STS)

シングル・タッチ・セッティングは、リアルタイム(キーボード)・トラックに割り当てるサウンド、音量、パン、エフェクトと言った設定情報のセットを意味します。

通常、スタイルを再生しながら、手弾きパートを、STSを使って演奏します。STSはスタイル毎に関連付けられている点で、スタイルに属しているとは見なせません。各スタイル毎に最大4個までSTSを登録可能

で、演奏中にSTSスイッチを切り替えることで、瞬時にキーボード・トラックの設定内容を切り替えることが可能です。

パフォーマンスと機能は似ていますが、パフォーマンスでは、一旦パフォーマンスを選択した後にSTSを選択すると、パフォーマンス設定はSTS設定に入れ替わってしまい、再びパフォーマンスを選択するには、画面上のパフォーマンス表示領域をタッチする、あるいはパネルのパフォーマンス選択スイッチを押した後、パフォーマンス選択一覧画面を経由してからでないと、パフォーマンスを選択することはできません。そういった意味でリアルタイム性に少し欠けます。

STSでもパフォーマンス同様、4個「マルチ・パッド」や「アンサンブル機能」の設定も個別に登録可能です。(リファレンス・ガイド 12ページの「スタイル、バリエーション、パフォーマンス、STS、パフォーマンスの関連性」参照)。

アンサンブル (Ensemble)

アンサンブル機能をオンにしたときは、リアルタイム(キーボード)・トラックで単音を弾くと、本機がそのコードに合わせて自動的にアンサンブル(和音)を付けます。例えば、指一本によるメロディー演奏に対して、自動的にハーモニーを付けて演奏することができます。

アンサンブル機能では、演奏中のコードから、どの音を追加するかを判断し、アンサンブルのパラメーターにより、単純な音のハーモニーからブラス・セクションのフル・ハーモニー、さらにはマリンバのトリルまで、追加するタイプを選択することができます。

パフォーマンス (PERFORMANCE)

パフォーマンスには、さまざまな設定が入っています。1つの設定の中に、スタイル(推奨するサウンドを含む)、キーボード・トラック(推奨するサウンドを含む)、テンポ、トランスポーズ、エフェクト、その他の情報が含まれます。

パフォーマンスの設定は、パフォーマンス・バンク内に保存することができます。また、ソングブック機能を使って保存することもできます(リファレンス・ガイド 12ページの「スタイル、バリエーション、パフォーマンス、STS、パフォーマンスの関連性」)。

シーケンサー (SEQUENCER)

シーケンサーはレコーダーとして機能し、演奏を録音、再生することができます。本機のシーケンサーは、録音前に選択するモードで機能が変わります。

バックিং・シーケンス・モードでは、スタイル・トラックと鍵盤演奏やパッド演奏は、それぞれを個別のトラックに同時に録音できます。スタイル・プレイでのリアルタイム演奏をそのまま録音するので、白紙の状態から音符情報を1つずつ記録していく方法に比べて、非常に速くシーケンサーへソングを録音することができます。

マルチトラック・シーケンサー・モードでは、個別に1トラックずつ録音する、通常の16トラック・シーケンサーとして使えます。

プレーヤー

スタンダードMIDIファイルやMP3ファイルは、プレーヤー機能で再生します。

ロゴ・マーク

本機のフロント・パネル上にはロゴ・マークが直列に並んでいます。それぞれのロゴの内容を簡単に説明します。



本機のパワフルな仕様を使うことができるように、音、機能、使いやすさなどすべてが、RXテクノロジーというコンセプトに基づいて設計されています。



ジェネラルMIDI(GM)は、音色配列やそのコントロール方法を報通しとし、異なるメーカー間のシンセサイザーや音源モジュールなどの機器を使用しても、同様のサウンドになるように策定された規格です。例えば、GM対応機器を前提に制作され、GMフォーマットで保存された曲データは、本機でも正しく再生できます。

ジェネラルMIDI2は、これまで128種類のサウンドと1種類のドラム・キットだったGMフォーマットを拡張し、256種類のサウンド、9種類のドラム・キットを内蔵しています。



ディファインド・ニュアンス・コントロール(DNC)は、コルグ独自のパワフルな音源システムをより緻密にコントロールするテクノロジーです。鍵盤を弾く強さ(キーボード・ベロシティ)やその他のコントローラーを使用して、繊細なニュアンスも逃さず引き出した演奏ができます。



タッチビューは、マウスやボタンなどの物理的デバイスの代わりに、画面にタッチして操作ができる先進のテクノロジーです。サウンドやスタイル、パラメーターなどをコントロールするボタン類を探すことなく、画面でダイレクトに操作できる分りやすさが特長です。

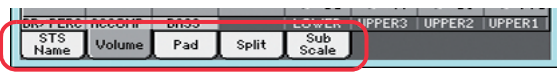
インターフェイスの基本

カラー・タッチビュー・グラフィカル・ユーザー・インターフェイス

本機には、コルグ独自で開発したカラー・タッチビュー・インターフェイスを元にした、分かりやすいグラフィカルなユーザー・インターフェイスが使われています。ユーザー・インターフェイスの基本操作を紹介します。

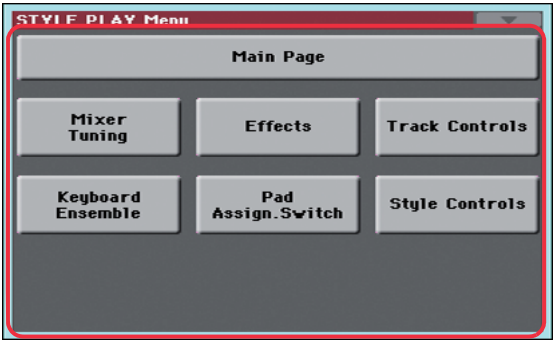
ページ

各パラメーターは、ページごとにグループ化されています。画面下部にあるタブにタッチすると、パラメーターで再分類された各タブ・ページが表示されます。



メニューとセクション

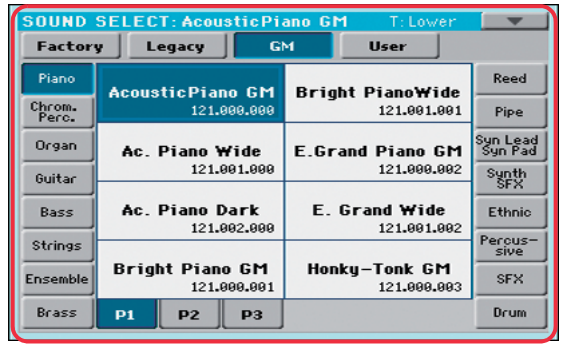
各ページはセクションごとにグループ化されています。MENUキーを押すとエディット・セクションが表示され、画面のボタンにタッチすることで、各エディット・ページを表示します。



オーバーラップ・ウィンドウ

スタイル・セレクトやグローバル、メディア、歌詞などの画面は、その時表示されている画面にオーバーラップして表示されます。

ウィンドウでアイテムを選択するか、EXITキーを押すと、現在のウィンドウが閉じて、隠れていた下のページが表示されます。(下図はサウンド・セレクト画面です。)



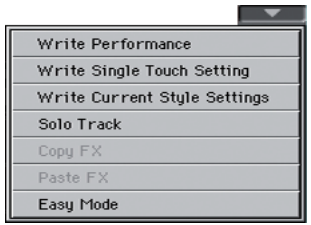
ダイアログ・ボックス

オーバーラップ・ウィンドウと同じように、現在のページの上にダイアログ・ボックスをオーバーラップして表示します。ダイアログ・ボックスの指示に従ってボタンにタッチすると、ダイアログ・ボックスは閉じます。



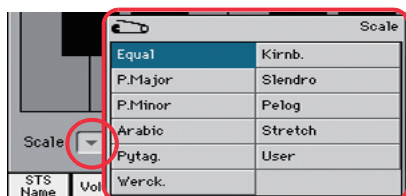
ページ・メニュー

各ページの右上隅にあるボタンにタッチすると、現在のページに関係するページ・メニュー・コマンドが表示されます。そこからコマンドを選択する(タッチする)と、ページ・メニュー・コマンドが閉じます。また、画面の他の部分(例えば、ページ・メニュー・コマンドの外側)にタッチしても、ページ・メニュー・コマンドは閉じます。



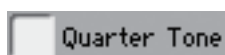
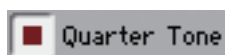
ポップアップ・メニュー

パラメーター名の横に三角が表示されたときは、それにタッチすると、ポップアップ・メニューが表示されます。そこからパラメーターを選択する（タッチする）と、ポップアップ・メニューが閉じます。また、画面の他の部分（例えば、ポップアップ・メニューの外側）にタッチしても、ポップアップ・メニューは閉じます。



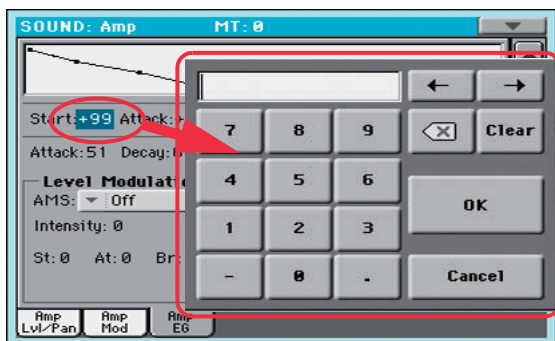
チェック・ボックス

これは、オンとオフのボタンです。このボックスにタッチしてチェックを付けるとオン、チェックを外すとオフです。



数値フィールド

数値に下線が表示されているときは、選択（反転表示）した後、それをもう一度タッチすると、数字入力パッドが表示されます。



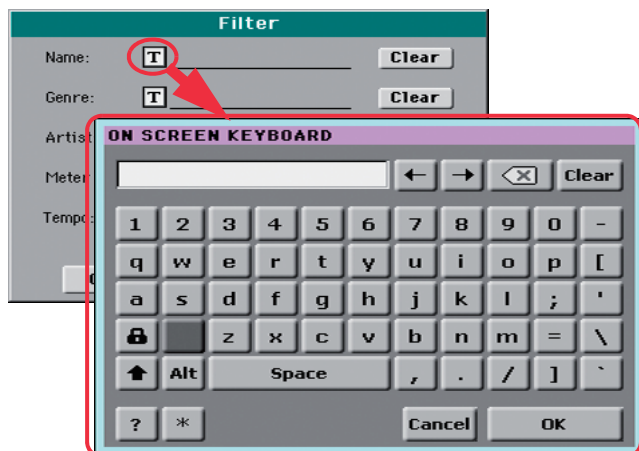
バーチャル・テンキー画面は、コンピューターのテンキーと同様に動作します。

または、数値フィールドにタッチし続けます。この状態で指を上下（または左右）に移動（ドラッグ）することで、値を増減することもできます。

Style Playモード、Song Playモード、Sequencerモードのメイン・ページでテンポを変えるときも同様に使用できます。

テキスト・エディット・ボタン

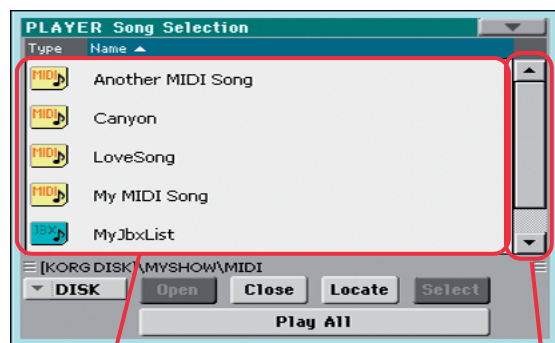
名前の横に、**T** (テキスト・エディット) ボタンがあるときは、それにタッチしてテキスト・エディット・ウィンドウを表示させ、名前を入力したり変更したりします。



バーチャル・キーボード画面が、コンピューターのキーボードと同様に動作します。文字以外の記号は、その時入力する文字フィールドのタイプによって使用できる記号が変化します。

リストとスクロール・バー

ディスクのファイルやその他のデータは、リストで表示します。スクロール・バーを使ってスクロールし、リストの内容を確認することができます。また、VALUEダイヤルでもスクロールすることができます。



リスト

スクロールバー

リストからアイテムを選択する時に、SHIFTキーを押しながらスクロールバーの上下にある矢印ボタンをタッチすると、表示されているリストの前後の頭文字が含まれるアイテムのリストが表示されます。これは、同じ頭文字のアイテムが多く続く場合に、その前後の頭文字のアイテムを探す時などに便利です。

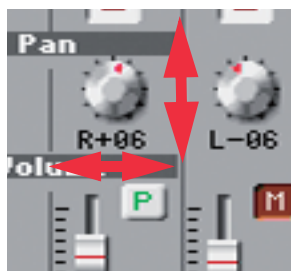
バーチャル・スライダー

値を変更するバーチャル・スライダーにタッチして選択（反転表示）し、VALUEダイヤルを使って値を変更します。また、スライダーにタッチしたまま上下に移動（ドラッグ）することで、値を変えることもできます。



バーチャル・ノブ

バーチャル・ノブをエディットするには、エディットしたいノブを選択し、VALUEダイヤルを回します。あるいは、エディットしたいノブをタッチしたまま、指を画面上の上（または右）になぞるとノブが時計回りに、指を画面上の下（または左）になぞるとノブが反時計回りに回ります。



アイコン

ファイル、ソング、フォルダの認識用に、いろいろなアイコンが用意されています。例えば、



フォルダ



スタイル・バンクのファイル



スタンダード MIDI ファイル

モード

本機のページは、機能によっていろいろなモードに分類されています。Style Play、Song Play、Sequencer、Soundの各モードに入るときは、パネルのMODEセクションで対応するキーを押します。

操作モードごとにカラー・コードが異なり、一目でどのモードかがわかるようになっています。

GlobalモードとMediaモードの2つは特別です。他のモードを選択していても、それらのモードが有効のまま、上記の2つのモードを選択し、エディットすることができます。

RecordモードはStyle Playモード、Sequencerモードに入っている時に使用でき、新たにスタイルやソングを作成することができます。

反転表示のパラメーターや値

パラメーターや値に対し、何かの操作や変更をする場合、まずは対象とするパラメーターや値などを選択し、反転表示にします



グレー表示（無効）のパラメーター

パラメーターやコマンドが無効になっている場合は、グレー表示になっています。このパラメーターやコマンドは選択できない（エディットできない）ことを意味します。設定によって関係しないパラメーターがあるときにも、このようなグレー表示に変わります



ショートカット

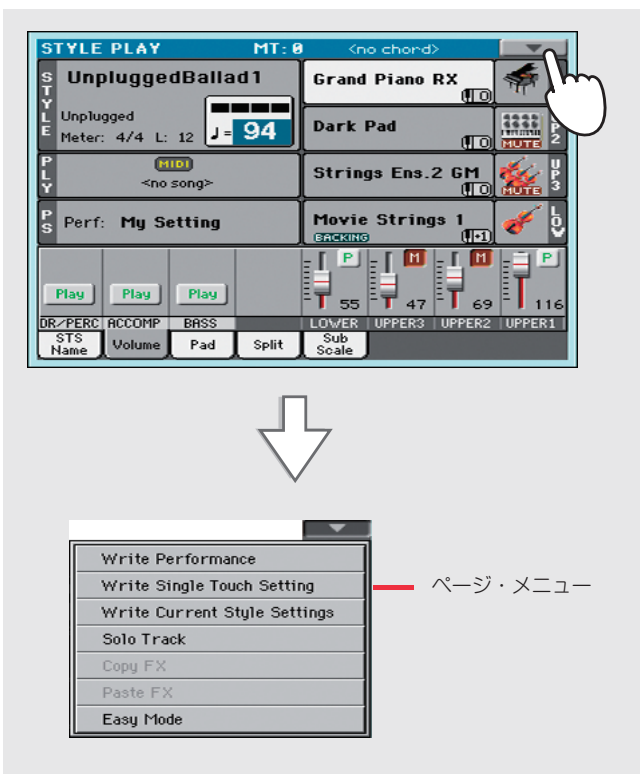
パネルのSHIFTキーと他のキーを押しながら、画面のボタンを同時にタッチすることで、それぞれに関するページをダイレクトに表示させることができます。ショートカットの内容の一覧表は、リファレンス・ガイド 304ページの「ショートカット」を参照してください。

イージー・モード

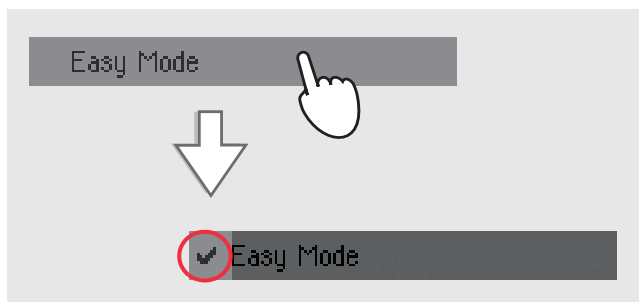
これまでアレンジャー（自動伴奏）キーボードをお使いになったことがない場合には、イージー・モードに切り替えることをお勧めします。イージー・モードでは、シンプルな操作で、スタイル演奏やソング演奏をすることができます。

イージー・モードに入る

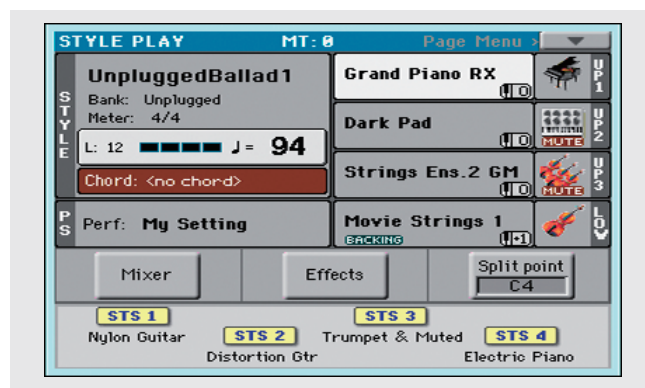
画面の右上隅の小さな四角形にタッチして、ページ・メニューを開きます。



ページ・メニューの“Easy Mode”を選択（タッチしてチェックを付ける）してください。



これでイージー・モードに入り、画面にはイージー・モードで有効なパラメーターだけを表示します。



イージー・モードを終了する

電源をオフにしても、イージー・モードを終了することはできません。このモードを終了するときは、モードに入るときと同じようにして、ページ・メニューの“EasyMode”を無効（タッチしてチェックを外す）にしてください。

スタイル・プレイ・ページの表示内容

このページ画面は、STYLE PLAYキーを押すと表示されます。

スタイル名とスタイル情報
スタイル名にタッチすると、スタイル選択ウィンドウが表示され、異なるスタイルを選択することができます。

テンポ
TEMPO+/-キーで変更します。

アカンパニメント・パターンの長さ
と現在の拍子。

パフォーマンス名またはSTS
ここにタッチすると、パフォーマンス
選択ウィンドウが表示され、異なるパ
フォーマンスを選択することができます。鍵盤を弾いたときのサウンドが
変わります。

ミキサー
ここをタッチしてトラックのボ
リュームとパンを設定します。

右手 (UP1、2、3) と左手 (LOW) に割り当てられたサウンド名
表示サウンド名にタッチすると、サウンド選択ウィンドウが表示さ
れ、異なるサウンドを選択することができます。

サウンド・アイコンと状態
MUTE アイコンを表示してい
るときは、サウンドはミュート
状態になり、音は出ません。ア
イコンを表示していないとき
は、サウンドはプレイ状態にな
り、音が出ます (30ページ参
照)。

スプリット・ポイント
ここにタッチして、鍵盤のスプ
リット・ポイントを変更します
(34ページ参照)。

エフェクト
ここをタッチして、さまざま
なトラックにアサインするエ
フェクトを選びます。

シングル・タッチ・セッティング(STS)
画面のSTSの表示部分にタッチするか、パネルのSINGLE TOUCH SETTING 1~4のキーを
押してSTSを切り替えます。鍵盤を弾いたときのサウンドが変わります。

Note:

- サウンド (音色) は右手用に3つ (アッパー 1、2、3)、左手用に1つ (ロー) になります。それらの名前は、画面の右側に省略形でUP1、UP2、UP3、LOWと表示します。
- 右手用 (アッパー) サウンドと左手用の (ロー) サウンドはスプリット・ポイントで設定します。
- パフォーマンスとシングル・タッチ・セッティング (STS) は、サウンドの組み合わせです。スタイル演奏パネルの STYLE CHANGEキーのLEDが点灯しているときに切り替えると、スタイルが変更されると同時に、鍵盤のサウンドもすべて切り替わります。
- スタイルを選んで、アカンパニメント・パターンの音楽のスタイルを変えてください。

ソング・プレイ・ページの表示内容

このページ画面は、SONG PLAYキーを押すと表示されます。

プレーヤーに割り当てられているソング名
ここにタッチすると、ソング選択ウィンドウが表示され、異なるソングを割り当てることができます。

テンポ
TEMPO +/-キーで変更します。
拍子記号と現在のビート

パフォーマンス名またはSTS
ここにタッチすると、パフォーマンス選択ウィンドウが表示され、異なるパフォーマンスを選択することができます。鍵盤を弾いたときのサウンドが変わります。

ミキサー
ここにタッチしてトラックの音量とパンを設定します。

右手 (UP1、2、3) と左手 (LOW) に割り当てられたサウンド名
表示サウンド名にタッチすると、サウンド選択ウィンドウが表示され、異なるサウンドを選択することができます。

サウンド・アイコンと状態
MUTE アイコンを表示しているときは、サウンドはミュート状態になり、音は出ません。アイコンを表示していないときは、サウンドはプレイ状態になり、音が出ます (30ページ参照)。

スプリット・ポイント
ここにタッチして、鍵盤のスプリット・ポイントを変更します (34ページ参照)。

エフェクト
ここをタッチしてトラックにアサインするエフェクトを選択します。

シングル・タッチ・セッティング (STS)
画面のSTSの表示部分にタッチするか、パネルのSINGLE TOUCH SETTING 1~4のキーを押してSTSを切り替えます。鍵盤を弾いたときのサウンドが変わります。

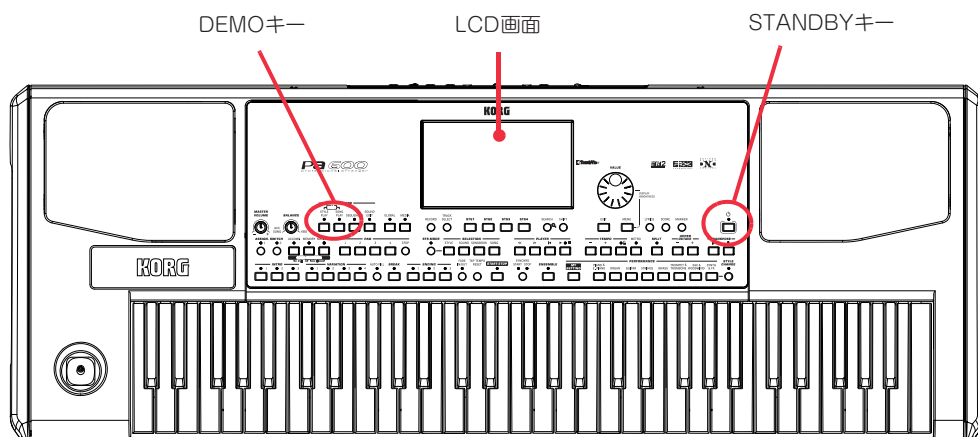
Notes:

- サウンド (音色) は右手用に3つ (アッパー 1、2、3)、左手用に1つ (ロー) になります。それらの名前は、画面の右側に省略形でUP1、UP2、UP3、LOWと表示します。
- 右手用 (アッパー) サウンドと左手用の (ロー) サウンドはスプリット・ポイントで設定します。
- パフォーマンスとシングル・タッチ・セッティング (STS) は、サウンドの組み合わせです。選ぶだけで鍵盤のサウンドがすべて切り替わります。
- 現在選ばれているスタイルまたはソング・ブックに登録されているシングル・タッチ・セッティング (STS) が使用可能になります。
- ソングを選ぶには、画面のソング名の表示にタッチして、ソング選択ウィンドウを表示し選択する方法と、フロント・パネルのSELECTセクションにあるSONGキーを押して選択する方法があります。

クイック・ガイド

電源をオンにして、デモ・ソングを聴いてみましょう

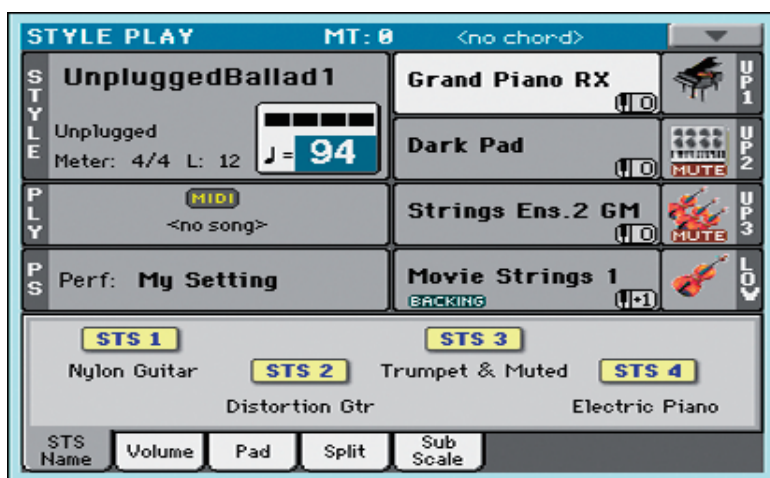
本機の電源を入れてください。LCD画面にメイン・ページが表示されます。はじめに、デモ・ソングの演奏も聴いてみましょう



電源をオンにして、メイン・ページを表示する

- 1 フロント・パネルにあるSTANDBYキーを押して、本機の電源をオンにします。

電源をオンにすると初期画面が数秒間表示され、メイン・ページを表示されます。



- 2 本機の電源をオフにする場合は、STANDBYキーを約1秒間押したままにします。そして、画面が暗くなったらキーを離します。

STANDBYキーを押すと、画面が暗くなります。この時点で、本機の電源をオフにする処理が始まります。この処理は、本機の内蔵メモリーに保存されているデータの内容によって少し時間がかかる場合があります。この間に電源ケーブルを本機やコンセントから絶対に外さないでください。

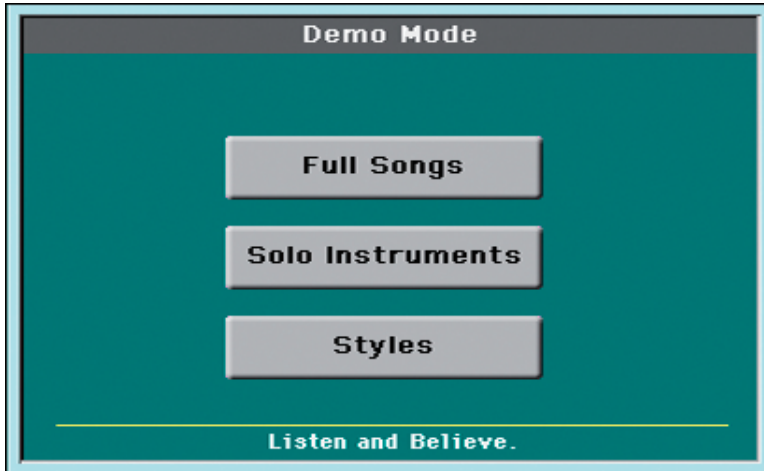
本機の電源がオフにならない場合は、STANDBYキーを1度押してから改めて数秒間押したままにします。本機がスタンバイ・モードに入ると、キーのLEDが消灯します。

デモ・ソングを再生する

本機の特長を活かした内蔵デモ・ソングを聴いてみましょう。デモ・ソングは数曲入っています。

1 STYLE PLAYキーとSONG PLAYキーを同時に押します。

それぞれのキーのLEDが点滅し、デモ・モードに入ります。



2 デモ・モードに入ってから、何もキー操作をしないと、すべてのデモ・ソングが再生されます。

3 特定のデモ・ソングを聴きたい場合は、画面上で聴きたいデモ・ソングを選択します（Full Songs、Solo Instruments、Stylesのいずれか）。

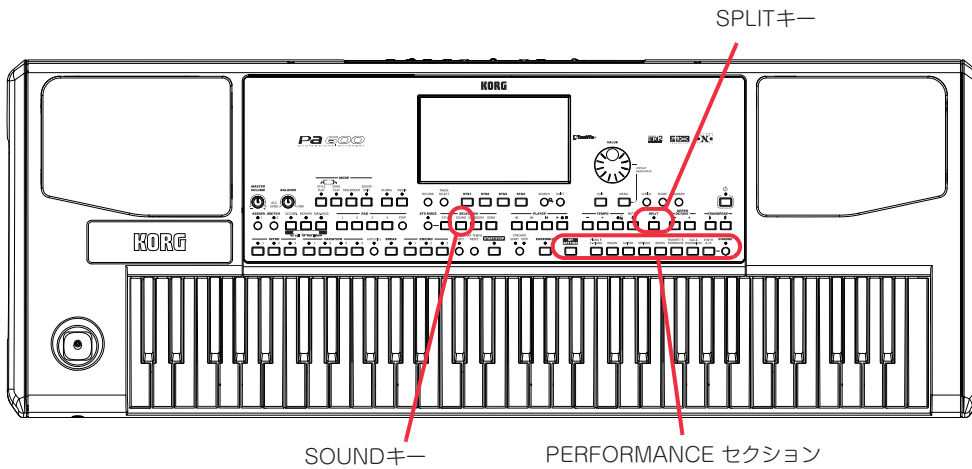
4 デモ・ソングの再生を停止するには、画面上にあるSTOPボタンをタッチします。



5 モード・キーのいずれかを押すと、デモ・モードが終了します。

サウンドの演奏

本機は最大3つのサウンドを鍵盤で同時に演奏することができます。また、スプリット設定を使用すると、最大3つのサウンドを右手(アッパー-1、2、3)で、1つのサウンドを左手(ロワー)で演奏することができます。



演奏するサウンドを選ぶ

- 1 STYLE PLAYキーを押して、Style Playモードに入ります。

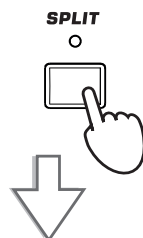


現在選ばれているトラックは、白い背景で表示します。この図では、アッパー1のトラックが有効になっています。もし、選ばれていないときは、画面のUP1のトラックを一度タッチして有効にします。

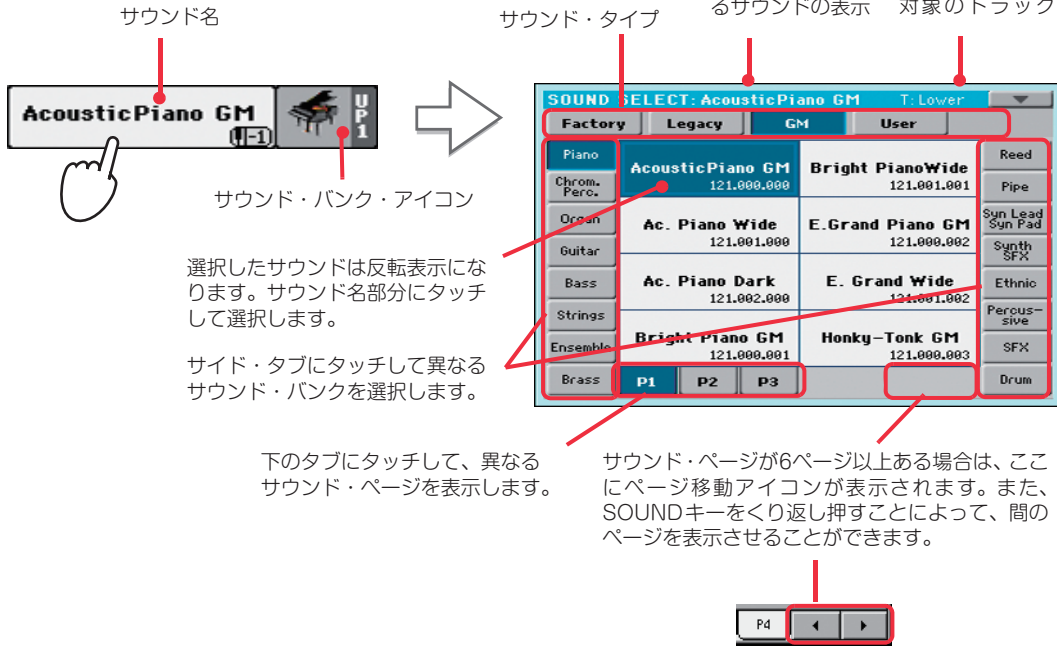
バンク・アイコンの上には **MUTE** アイコンが表示されていなければ、アッパー1のトラックは演奏できる状態です。ミュートに設定している場合は、バンク・アイコンを押して、演奏できる状態にします。

i Note: アッパー2とアッパー3トラックがミュートになっていることを確認してください。複数のサウンドを出力するときや、トラックの音を消す方法については、30ページも参照してください。

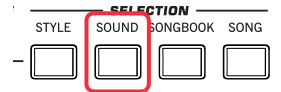
- 2 全部の鍵盤を使って演奏する場合は、フル・アッパー・モードになっていることを確認します (SPLIT LEDが消灯)。鍵盤のモードがスプリット (2つのパート) ・モードになっているときは、コントロール・パネルのSPLITキーを押してSPLIT LEDを消灯させます。



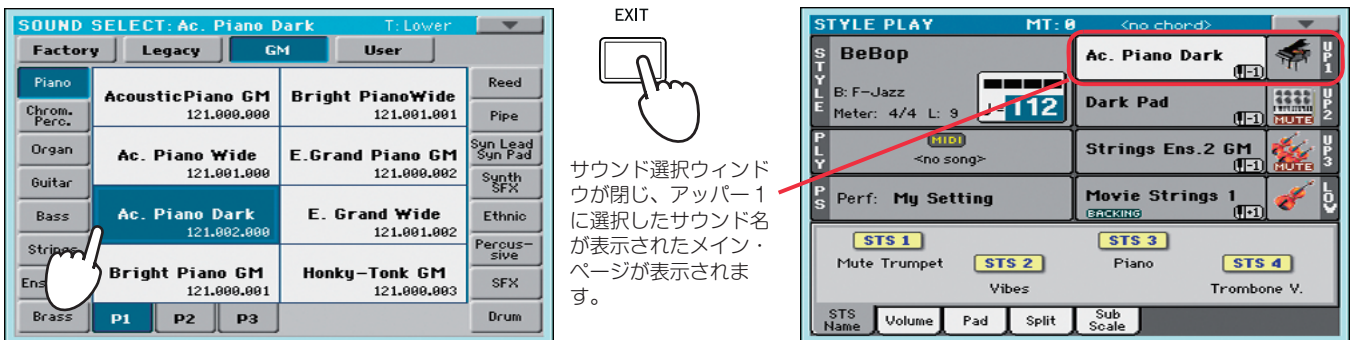
3 下図のように画面のアップー1トラック表示にタッチして、サウンド選択ウィンドウを開きます。



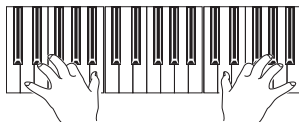
Note: 新しいサウンドを割り当てるトラックをタッチし、SELECTIONセクションにある SOUND キーを押して、サウンド・セレクト画面を開くこともできます。



4 サウンド選択ウィンドウでサウンドを選択（反転表示）したら、EXITキーを押してウィンドウを閉じます。



5 鍵盤を弾いて演奏します。



Note: セレクション画面は選択が終わると自動的に閉じるようにすることもできます。これは、Globalモード内のInterfaceページにある“Display Hold”チェック・ボックスのチェックを外すことで行えます。この場合、何も選択せずにセレクション画面を閉じるには、EXITキーを押します。

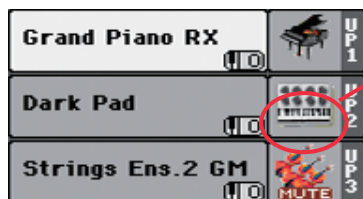
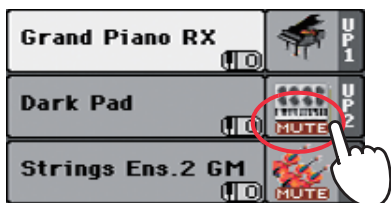
同時に複数のサウンドで演奏する

異なる3つのサウンドをアッパー・トラックに重ねて演奏することができます。



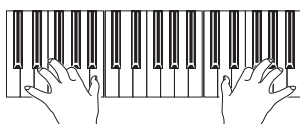
アッパー2、アッパー3のバンク・アイコン表示に **MUTE** アイコンを表示している場合は、消音されていて、これらのトラックのサウンドは聞こえません。

- 1 アッパー2トラックの **MUTE** アイコンにタッチしてミュート（消音）を解除し、演奏時にアッパー2トラックのサウンドを出力します。



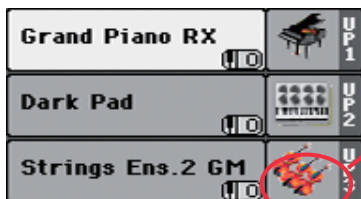
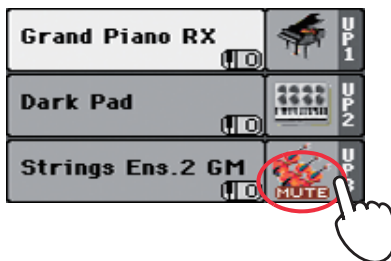
この部分にタッチして、**MUTE** アイコンを消し、ミュートを解除した後で演奏すると、アッパー2トラックのサウンドを聴くことができます。

- 2 鍵盤を弾いて演奏します。



“Dark Pad”（アッパー2トラックに割り当て）と“Grand Piano RX”（アッパー1トラックに割り当て）が重なったサウンドを演奏します。

- 3 アッパー3トラックの **MUTE** アイコンにタッチしてミュート（消音）を解除し、演奏時にアッパー3トラックのサウンドを出力します。



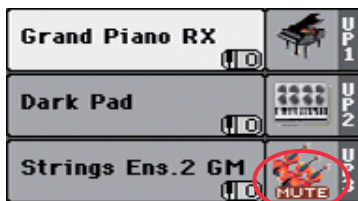
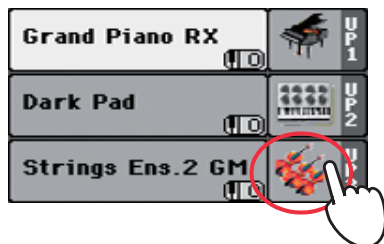
この部分にタッチして、**MUTE** アイコンを消し、ミュートを解除した後で演奏すると、アッパー3トラックのサウンドを聴くことができます。

- 4 鍵盤を弾いて演奏します。

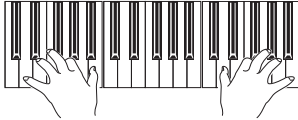


“String Ens.2 GM”（アッパー3トラックに割り当て）、“Dark Pad”（アッパー2トラックに割り当て）と“Grand Piano RX”（アッパー1トラックに割り当て）が重なったサウンドを演奏します。

- 5 アッパー3にタッチして、再度アッパー3トラックをミュート（消音）に設定します。

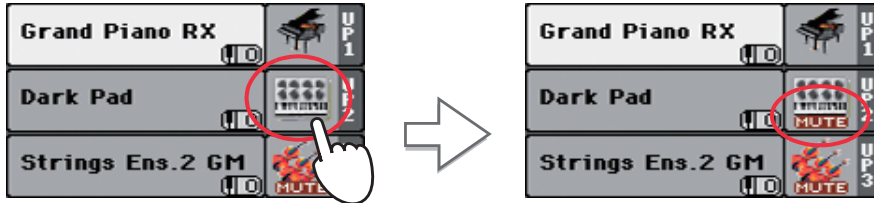


6 鍵盤を弾いて演奏します。

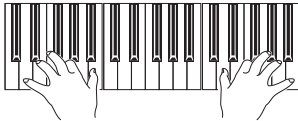


“String Ens.2 GM”（アッパー3トラックに割り当て）はミュートされサウンドが聞こえなくなります。再び、アッパー1とアッパー2のサウンドのみの演奏になります。

7 アッパー 2にタッチして、再度アッパー 2トラックをミュート（消音）に設定します。



8 鍵盤を弾いて演奏します。

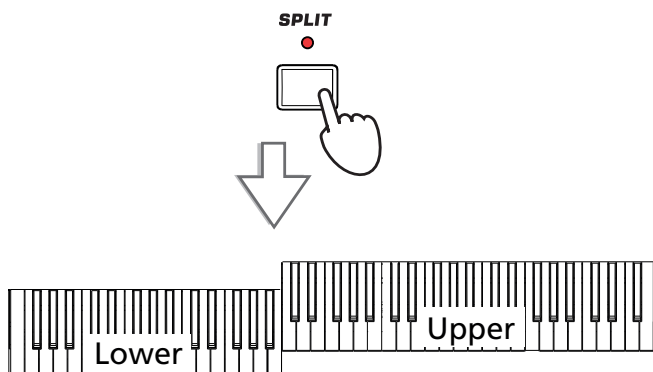


“Dark Pad”（アッパー2トラックに割り当て）はミュートされサウンドが聞こえなくなります。再び、アッパー1のサウンドだけの演奏になります。

右手と左手で異なったサウンドを演奏する

右手で演奏する最大3つのサウンドに加えて、左手で1つのサウンドを演奏できます。

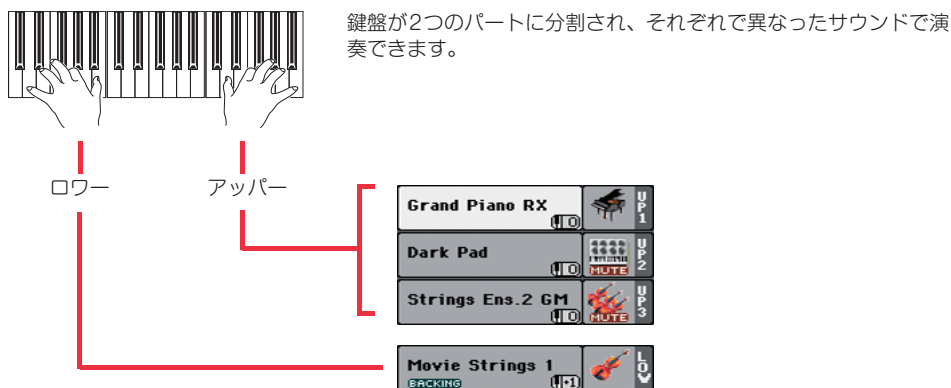
1 SPLITキーを押してLED点灯させ、鍵盤をロー（左手）とアッパー（右手）のパートに分けます。



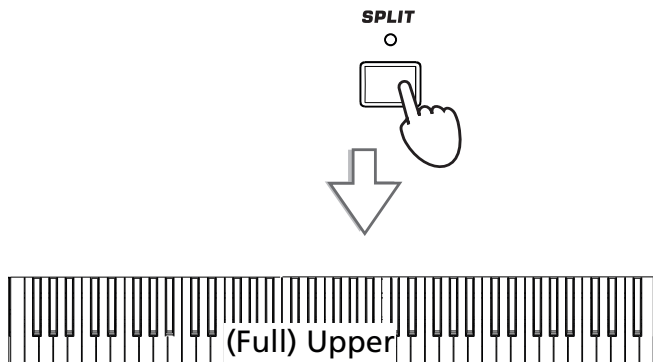
2 ロー・トラックを演奏できる状態に設定します。



3 鍵盤を弾いて演奏します。



4 SPLITキーを押してLED消灯させ、鍵盤をアッパー・トラックのみの設定(フル・アッパー・モード)に戻します。

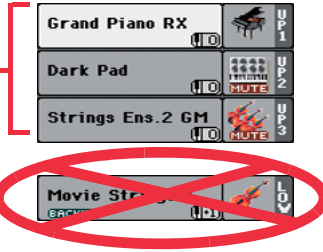


5 鍵盤を弾いて演奏します。



鍵盤のどこを弾いても、アッパー・トラックのサウンドで演奏できるようにします。

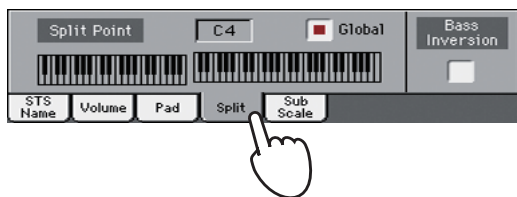
アッパー



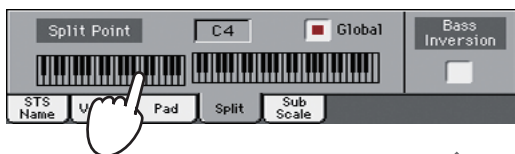
スプリット・ポイントを変更する

選択したスプリット・ポイントを任意の位置に設定することができます。

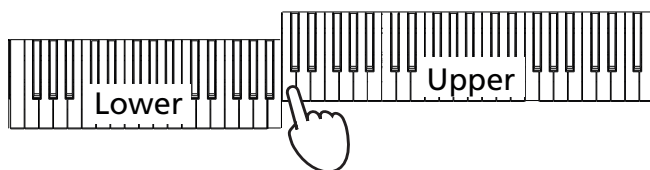
- 1 画面のSplitタブにタッチしてスプリット・ポイント・パネルを表示させます。



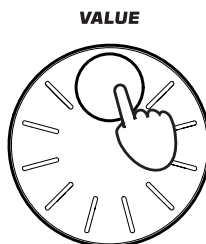
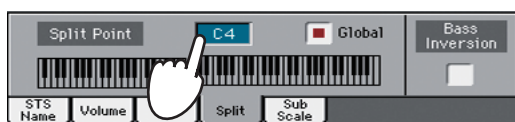
- 2 画面上のキーボードをタッチし、アッパー・セクションの最低音にしたいノート（音）を鍵盤上で指定します。



i Hint: SHIFT キーを押しながらSPLITキーを押してスプリット・ポイント・ダイアログ画面を表示させることもできます。



- 3 画面上の“Split Point”パラメーターをタッチして選択し、VALUEダイアルで新しくスプリット・ポイントを設定する方法もあります。

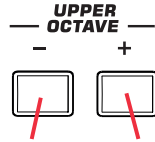


この時、画面上にある“Global”チェックボックスのチェックを外す必要はありません。このチェックボックスにチェックが入っている場合、スプリットの設定は本機全体で適用されます。

アッパー・トラックの音の高さの設定

アッパー・トラックの音の高さが高すぎる、または低すぎる場合は、音の高さをオクターブ単位ですばやく上下することができます。

- 1 フロント・パネルのUPPER OCTAVEキー（+、-）を使って、すべてのアッパー・トラックの音の高さを同時に変更します。



このキーを押すたびに、音の高さが1オクターブ下がります。

このキーを押すたびに、音の高さが1オクターブ上がります。

- 2 UPPER OCTAVEキーの両方を同時に押し、オクターブの設定値を現在選択しているパフォーマンスにメモリーされている設定に戻します。

i Note: 各トラックの音の高さの値は、サウンド名の右下に表示します



パフォーマンスを選んで保存する

パフォーマンスは本機の音楽的な中核となるものです。1つのサウンドを選ぶのとは違って、パフォーマンスを選ぶと、同時に複数のパートにサウンドが呼び出され、それらのエフェクトやトランスポーズ、その他演奏される音楽に必要なたくさんの設定を（アサインابل・スイッチのように）瞬時に呼び出すことができます。

パフォーマンスには、これらの設定を保存することができます。本機にはファクトリー・プリセットとして多数のパフォーマンスが用意されていますが、それぞれを好みに合わせてエディットして、保存することができます。

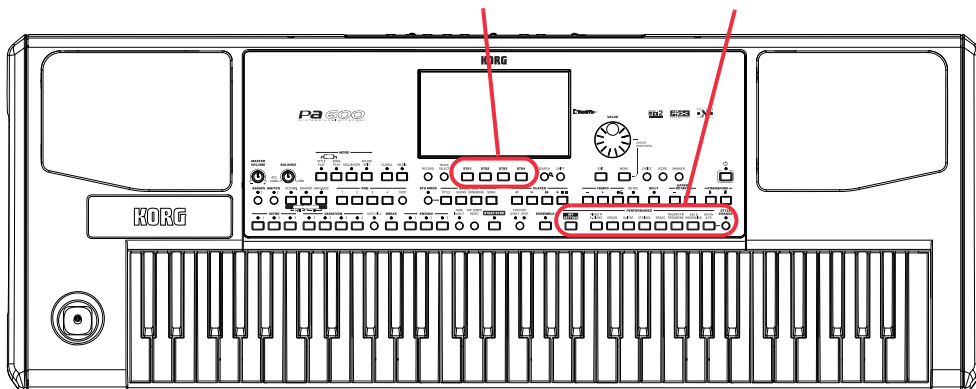
パフォーマンスと同じように、キーボード・トラックのすべての設定をSTS（シングル・タッチ・セッティング）として保存することもできます。各スタイルやソングブックには最大4つのSTS設定を持つことができ、画面下の4つの専用キーで瞬時にそれらを選ぶことができます。

スタイル・トラックについては、スタイル・パフォーマンスという別の形で設定を保存することができます。本機の電源をオンにしたときは、パフォーマンス・バンクの「My Setting」に保存した設定が自動的に呼び出されるため、電源をオンにしてすぐに使いたい設定は、この位置にパフォーマンスを保存することをオススメします。（詳しくは以下を参照してください）。

Note: スタイル・トラックの設定は、Style Settingsに保存されます。

STS（シングル・タッチ・セッティング）セクション

PERFORMANCEセクション



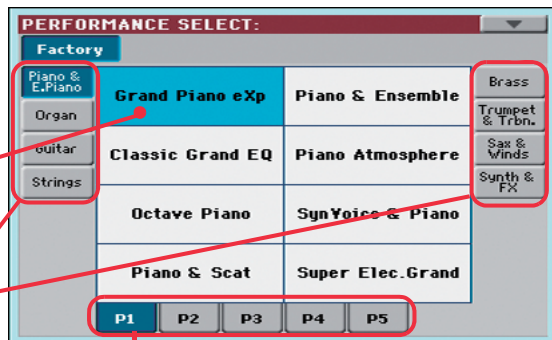
パフォーマンスを選ぶ

- 画面左中頃のPS（パフォーマンス）欄にタッチして、パフォーマンス選択ウィンドウを開きます。



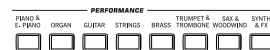
選択したパフォーマンスは反転表示になります。パフォーマンス名部分にタッチして選択します。

サイド・タブにタッチして異なるパフォーマンス・バンクを選択します。

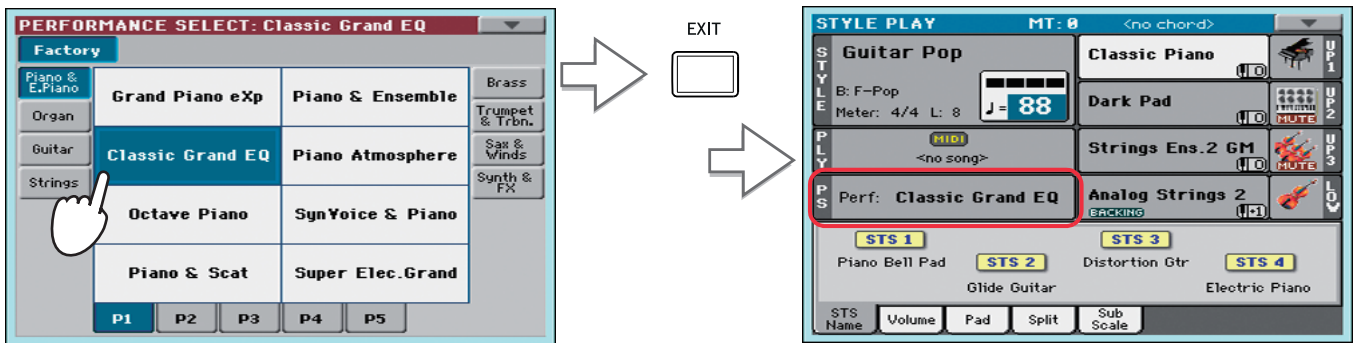


下のタブにタッチして、異なるパフォーマンス・ページを表示します。

Note: PERFORMANCE セクションのキーを押して、パフォーマンス選択ウィンドウを開くこともできます。この方法では、任意のパフォーマンス・バンクに直接移動できます。

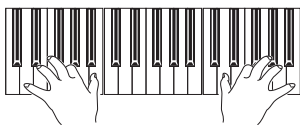


- 2 パフォーマンス選択ウィンドウでパフォーマンスを選択（反転表示）します。そして、パネルのEXITキーを押してウィンドウ閉じます。



EXITキーを押すと、パフォーマンス選択ウィンドウが閉じ、メイン・ページを再度表示します。サウンド、エフェクト、その他の設定は、選択されたパフォーマンスに保存している設定に変更されます。

- 3 鍵盤を弾いて演奏します。



選択されたパフォーマンスに保存しているサウンド、エフェクト、その他の設定が呼び出されています。

Note: セレクト画面は選択が終わると自動的に閉じるようにすることもできます。これは、Globalモード内のInterfaceページにある“Display Hold”チェックボックスのチェックを外すことで行えます。この場合、セレクト画面で何も選択せずに画面を閉じるには、EXITキーを押します。

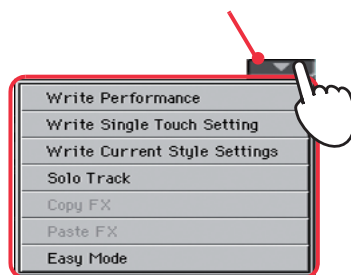
Note: STYLE CHANGE キーのLEDが点灯している場合、パフォーマンスを選択することで別のスタイルとその設定（スタイル・トラックのサウンドやそのエフェクトなど）を自動的に選択することもできます。

パフォーマンスを保存する

キーボード・トラックに割り当てたサウンドやそのエフェクトは、Style PlayモードやSong PlayモードでMENUキーを押してアクセスできるパラメーターの設定とまとめて、ひとつのパフォーマンスとして保存でき、後で簡単に呼び出すことができます。

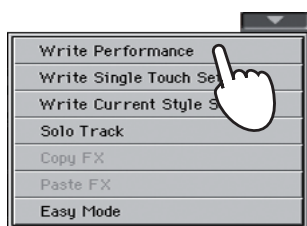
- 1 ページ・メニュー・ボタンにタッチして、ページ・メニューを開きます。

ページ・メニュー・ボタン



ページ・メニュー

2 “Write Performance” をタッチして、パフォーマンスを保存するためのWrite Performanceダイアログを開きます。



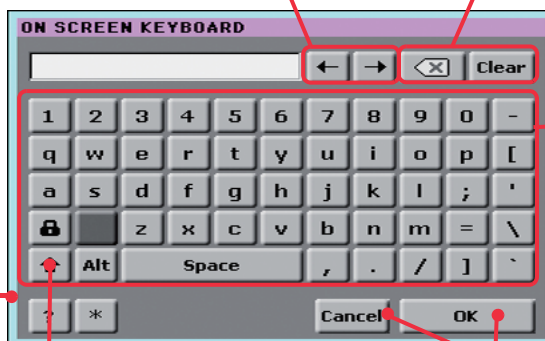
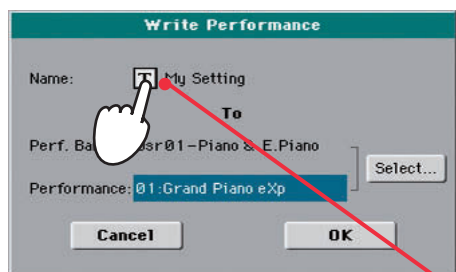
メニューから“Write Performance”を選択すると、Write Performanceダイアログ・ボックスを表示します。

i Note: パフォーマンスの保存をする“Write Performance”ダイアログ・ボックスを開くには、SHIFTキーを押しながらPERFORMANCEキーのいずれかを押します。

3 必要に応じて、保存するパフォーマンスに新しい名前を付けます。

←、→ボタンまたはVALUEダイヤルを使ってカーソルを左右に移動します。

“バック・スペース”をタッチすると1文字削除されます。“Clear”をタッチすると文字列全部が削除されます。



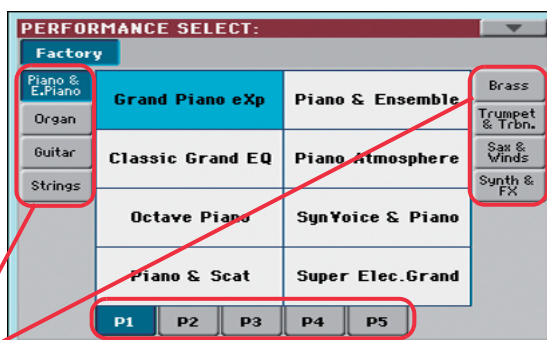
アルファベット文字でテキストを入力します。

T テキスト・エディット・ボタンにタッチしてテキスト・エディット・ダイアログを開きます。

SHIFTボタンにタッチして大文字、小文字を切り替えます。

OKボタンにタッチして新しい名前を確認するか、Cancelボタンにタッチして変更を中止します。

4 パフォーマンスを保存する本体メモリー上のバンク、パフォーマンスを指定します。

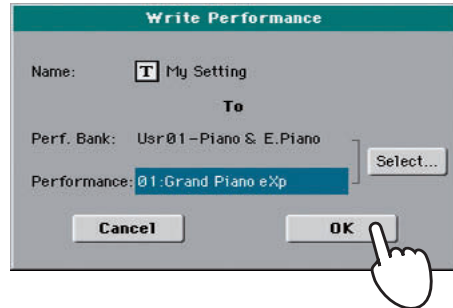


選択されたパフォーマンスは反転表示になります。パフォーマンス名部分にタッチして選択します。

サイド・タブにタッチして異なるパフォーマンス・バンクを選択します。

下のタブにタッチして、異なるパフォーマンス・ページを表示します。

- 5 保存するパフォーマンスに新しい名前を付け、保存先を指定します。そして、OKボタンをタッチしてメモリーに保存します。保存を中止するときはCancelボタンをタッチします。



i Note: 保存先のバンク、パフォーマンスを指定するには、バンク、パフォーマンスを選択し、VALUEダイヤルで指定することもできます。

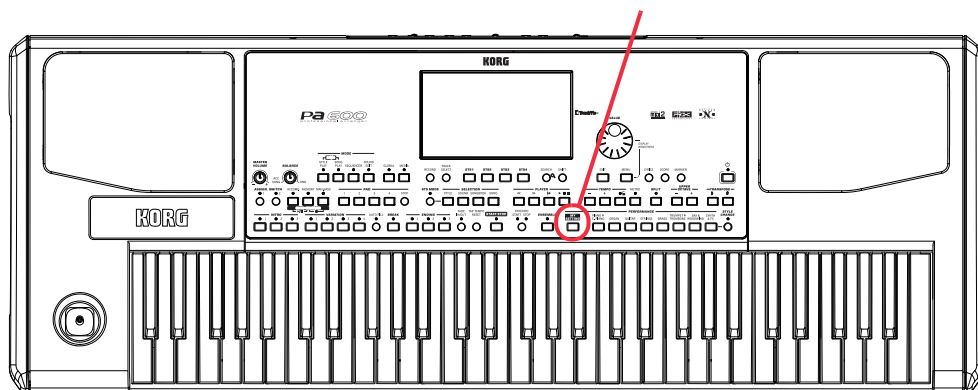
⚠ Warning: すでにパフォーマンスが保存されているところへ新たにパフォーマンスを保存すると、前に保存されていたデータに上書き保存をします。残しておきたいデータがあるときは、バックアップを取っておくことをおすすめします。

「My Setting」 パフォーマンスの選択と保存

パフォーマンスには、キーボード・トラックのサウンドやそのエフェクト、トランスポーズやアサインナップル・スイッチなどの設定をまとめて保存しておく特別なパフォーマンスがあります。それは本機の電源をオンにしたときに、自動的に選択されるパフォーマンスで、「My Setting (マイ・セッティング)」と呼ばれるものです。

この他に、本機の電源をオフにすると自動的に保存されるセッティングもあります。EasyモードやSTSモード、オート・フィルやスタイル・チェンジ、メモリー機能のステータスなどのパラメーターやGlobalモードのパラメーターがそれらに当てはまります。

‘My Setting’ パフォーマンス



My Settingのパラメーターを保存時の状態に戻す

My Settingのサウンドやトランスポーズ、その他のパラメーターをエディットした後で、保存時の状態（電源をオンにした時の状態）に戻りたいときは、MY SETTINGキーを押します。

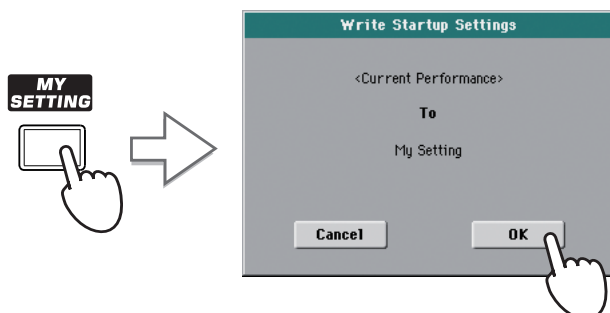
- **MY SETTINGキーを押すと、電源オン時の状態に戻ります。**



My Settingとしてパフォーマンスを保存する

現在選択しているパフォーマンスをMy Settingとして保存すると、次回の電源オン時にそのパフォーマンスが自動的に選択されます。

- **MY SETTINGキーを約1秒間押したままにすると、「Write Startup Settings」ダイアログが表示されます。OKボタンをタッチするとMy Settingとして保存されます。**



スタイルを選択して再生する

本機は、自動伴奏を付けたり、アレンジ機能でその伴奏スタイル（パターン）を編集することができる優れた楽器です。この自動伴奏をスタイル（Style）と呼びます。

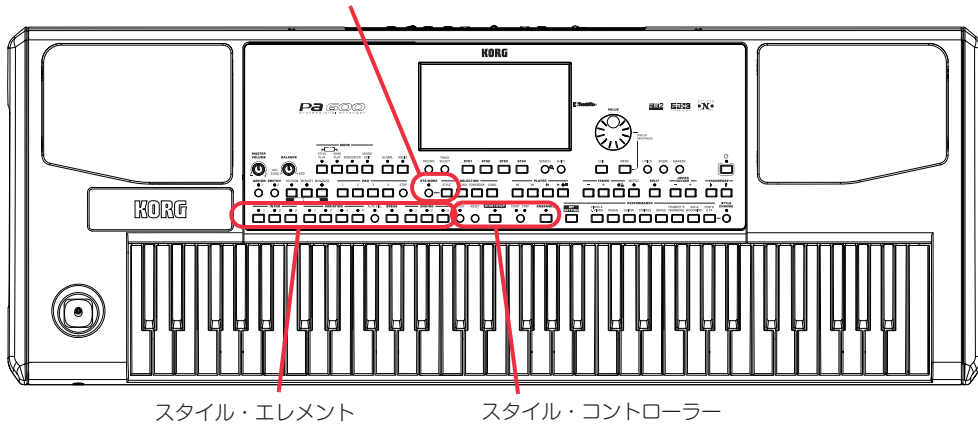
スタイルには、曲のいろいろな部分に対応した、いくつかのスタイル・エレメント（イントロ、バリエーション、フィル、ブレイク、エンディングなどの要素）があります。スタイル・エレメントを選択することで演奏に変化を付け、より音楽的なものにすることができます。

スタイルを選択すると、スタイル・トラックで使用するサウンドやそのエフェクト、その他様々な設定が同時に呼び出されます。これらをスタイル・セッティングと呼びます。また、スタイルを選択すると4つのパッドの設定も同時に呼び出されます。パッドには単発のサウンドや、1トラック分のパターン（短いフレーズ）がメモリーでき、PADキーを押すとそのサウンドやパターンが発音します。

STSモードのLEDが点灯しているときは、スタイルを選択すると、そのスタイルに設定している4つのSTS（シングル・タッチ・セッティング）のうち、最初のSTS1が自動的に選ばれ、キーボード・トラック、エフェクト、その他のパラメーターも自動的に呼び出します。

スタイルをスタート、ストップなどの操作をするには、スタイル・コントローラーを使います。

SELECTIONセクションとSTSモード・キー



スタイル・エレメント

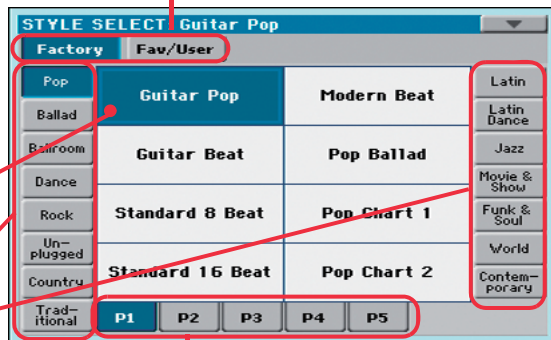
スタイル・コントローラー

スタイルを選んで再生する

- 1 画面のスタイル（STYLE）の名前にタッチしてスタイル選択ウィンドウを開きます。



スタイルのタイプ



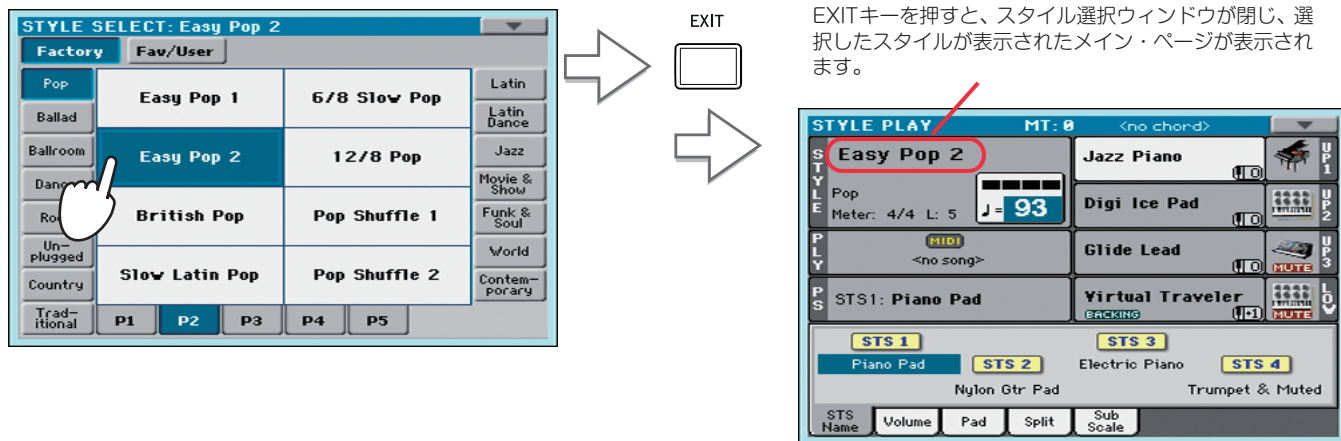
選択されたスタイルは反転表示になります。スタイルの名前にタッチして選択します。

サイド・タブにタッチして異なるスタイル・バンクを選択します。

下のタブにタッチして、異なるスタイル・ページを表示します。

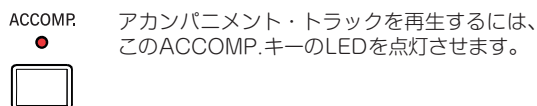
Note:
 SELECTIONセクションのSTYLEキーを押して、スタイル選択ウィンドウを開くこともできます。

2 スタイル選択画面からスタイルを選択します。



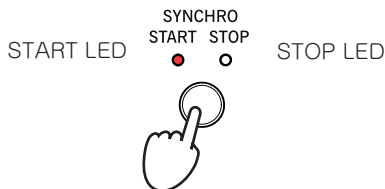
EXITキーを押すと、スタイル選択ウィンドウが閉じ、選択したスタイルが表示されたメイン・ページが表示されます。

3 ACCOMP.キーのLEDがオンになっている（点灯している）ことを確認します。

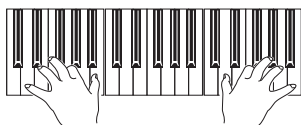


4 SYNCHRO-START/STOPキーを押し、STARTのLEDをオン（点灯）にします。

シンクロ・スタート機能がオンになり、鍵盤を弾くと同時に伴奏パートがスタートします。



5 鍵盤を弾いて演奏します。



シンクロ・スタート機能をオンにしたときは、鍵盤のコード認識領域で単音、またはコードを弾くと、それと同時にスタイルの再生を開始します。スタイルに合わせて、左手でコードを、右手でメロディを弾くと、アレンジャー機能が自動的に演奏に追従します。

6 START/STOPキーを押してスタイルの再生を停止します。



Note: 選択画面は選択後に自動的に閉じるようにすることもできます。これは、Global モードの Interface ページにある“Display Hold”チェックボックスのチェックを外すことで行えます。この場合、何も選択せずに画面を閉じたいときは、EXITキーを押します。

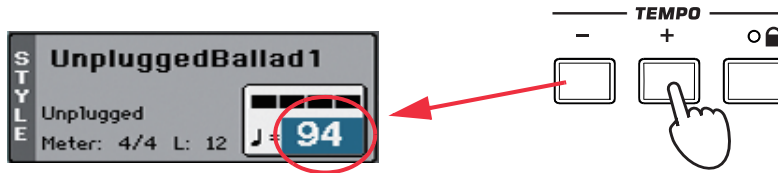
Note: スタイルの再生は、START/STOP キーを押すと始まりますが、シンクロ・スタート機能を使うと、鍵盤での演奏に合わせてスタイルをスタートさせることができます。

Note: コード認識エリアは SPLIT モードの状態 (LEDの状態) と、コード認識関係のパラメーター (Global モード) の設定によって変化します。

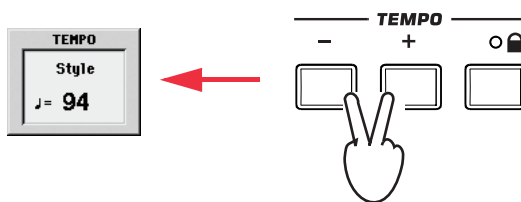
テンポ

テンポ設定は、各スタイルや各パフォーマンスに保存されていますが、自由にテンポ設定を変更することができます。設定は次の2つの方法があります。

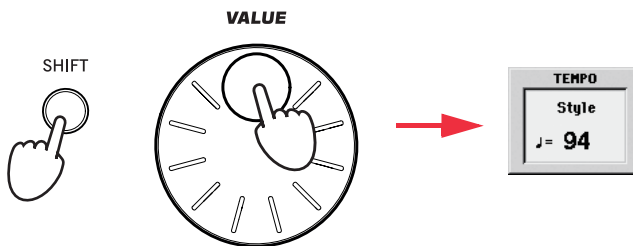
- **TEMPO + または - キーを押してテンポを変更します。**




- **TEMPO+キーと-キーを同時に押すと保存されているテンポ設定に戻ります。**

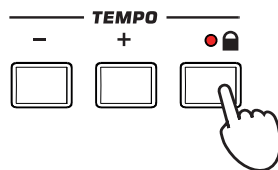


- **テンポ・パラメーターを選択していないときは、SHIFTキーを押しながらVALUEダイヤルを回して、値を変更します。設定されたテンポは画面中央の小さなウィンドウに表示します。**



- **現在のテンポ設定から変更したくないときは、TEMPO LOCK () キーを押します (テンポ・ロック機能：オンになるとLEDが点灯します)。**

テンポ・ロック機能がオンになると、別のスタイルを選んでもテンポは変わらずに一定のまま演奏されます。



i テンポ・パラメーターを選択 (反転表示) しているときに、TEMPOキーを使用しなくても画面のテンポ・パラメーターにタッチ (反転表示) したまま、上下 (または左右) に移動 (ドラッグ) して、値を変更することができます (VALUEダイヤルでも変更できます)。

イントロ、バリエーション、フィル、ブレイク、エンディング

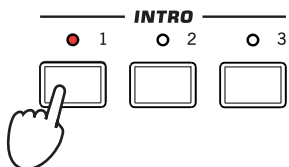
スタイルを演奏する時、楽曲の構成要素に相当する「スタイル・エレメント」を選択できます。1つのスタイルには3種類のイントロ（または2種類のイントロとカウント）、最大4種類のバリエーション、4種類のフィルイン、ブレイク（1種類）と3種類のエンディングが含まれています。

- 1 SYNCHRO-STARTキーのLEDが点滅していることを確認します（消灯していたらキーを押して点滅させます）。

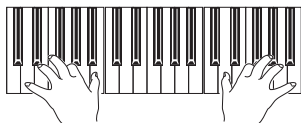


シンクロ・スタート機能をオンにするのは必須ではありませんが、便利な機能です。

- 2 INTROキーのどれかを押して、イントロを再生するように設定します。



- 3 鍵盤を弾いて演奏します。



選択したイントロで、スタイルを再生します。イントロが終わると基本パターン（選択したバリエーション）を再生します。

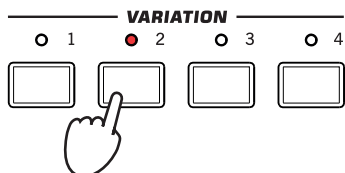
- 4 AUTO FILLキーのLEDがオンになっていることを確認します。

オート・フィル機能オン時は、別のバリエーションを選択すると自動的にフィルインが演奏されます。



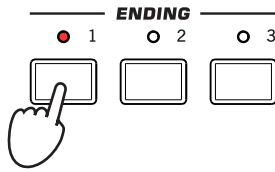
- 5 演奏中に、別のVARIATIONキーを押し、基本パターンの異なるバリエーションを選択します。

最初にオート・フィル機能をオンにしておくと、バリエーションの出だしでフィルインが入ります。



フィルが終わると、選択したバリエーションの再生が始まります。

- 6 スタイル再生を停止するとき、ENDINGキーのどれかを押すと、選択したエンディングを再生した後にスタイルが停止します。



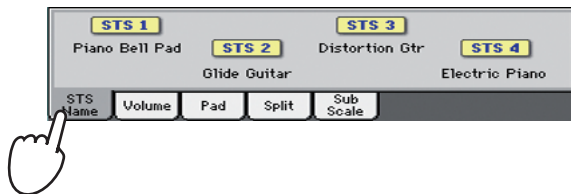
エンディングが終わると、スタイル再生は自動的に停止します。

STS (シングル・タッチ・セッティング)

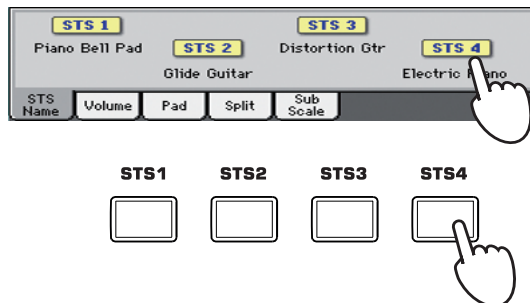
各スタイルやソングブックには、最大で4つのSTS (シングル・タッチ・セッティング) と呼ばれるキーボード・トラック設定があります。

STSとパフォーマンスは機能的によく似ていますが、STSはスタイルやソングブックにより特化したものです。STSモードのLEDがオンの時、スタイルを選択するとSTS #1が自動的に選択されます。STS #1はソングブックのエントリーを選択した時にも呼び出されます。

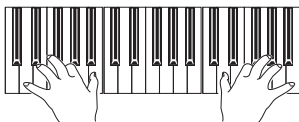
- 1 STS名が表示されない場合は、画面上のSTS Nameタブをタッチします。



- 2 STS1～STS4キーのいずれかを押してSTSを選択します。または、画面上のSTS名をタッチして選択します。



- 3 鍵盤を弾いて演奏します。



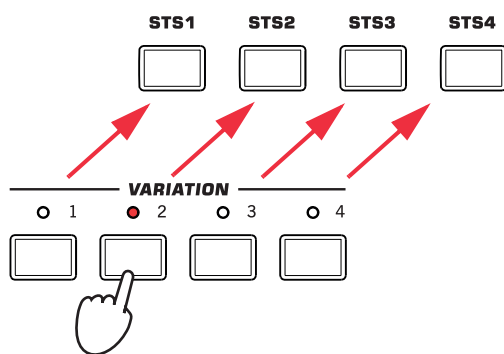
選択したSTSに保存された設定が選ばれてサウンド、エフェクトやその他の設定を呼び出します。

- 4 他のSTSを選択して、設定がどのように変わるかを確認してください。

- 5 STSとバリエーションをリンクさせることもできます。まず、STS MODEキーを押してLEDを点滅させます。



6 リンクさせたいVARIATIONキーを押して、そのバリエーションとSTSをリンクします。

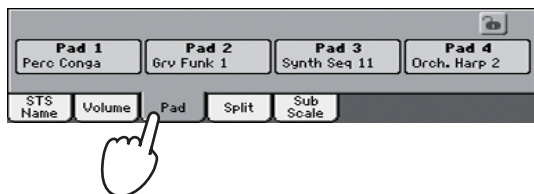


7 STS MODEキーを押して、LEDを点灯（または消灯）させます。

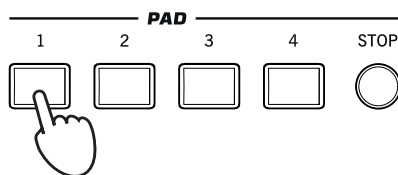
パッド (PAD) トラック

各スタイルやソングブックでは、異なるサウンドやパターンを4つのパッドにアサインすることができます。それらのサウンドやパターンは、キーボード・トラックやスタイル・トラックと一緒に演奏することができます。

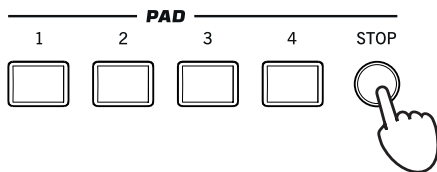
1 現在選択しているスタイルで、パッドに割り当てられているサウンドやパターンの内容を確認するには、画面上のPadタブをタッチします。



2 画面に表示されたパッド1～パッド4キーのいずれかをタッチして選択します。



3 選択したパッドが鳴り止まないタイプのサウンドやパターン（例：拍手やギター・アルペジオ）の場合、STOPキーを押すと音が止まります。



4 異なるスタイルを選び、各パッド・キーに割り当てられたサウンドやパターンを確認してください。

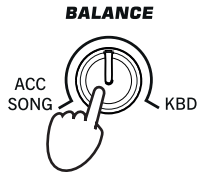
複数のパッドを押すと、2つ以上のサウンドまたはパターンを同時に再生することができます。現在再生しているパッドの音を停止するときは、STOPキーを押します。特定のサウンドまたはパターンのみを停止するときは、STOPキーを押しながら、そのパッド・キーを押します。

i Hint: SHIFTキーを押しながら、どれか1つのPADキーを押すことで、パッド選択ウィンドウを表示して、サウンドやパターンを割り当て直すことができます。

スタイル・トラックとキーボード・トラックの音量バランス

キーボード・トラックとスタイル・トラックの音量バランスを調整します。両方の音量を少しずつフェードするように調節すると効果的な場合があります。

- スタイルの再生中に、パネルのMASTER VOLUMEノブの横にある BALANCEノブを使って、キーボード・トラック (KBD) とスタイルの伴奏 (ACC) との音量バランスを調節します。

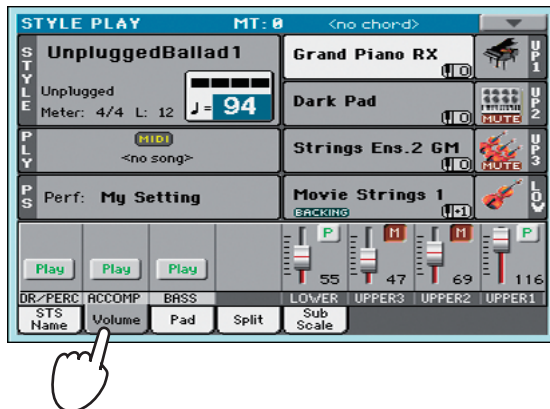


このノブでキーボード・トラックとパッド・トラックのボリュームのバランスをとることもできます。また、Song Playモードでは、このノブでキーボード・トラックとソング・トラックの音量バランスを取ることもできます。

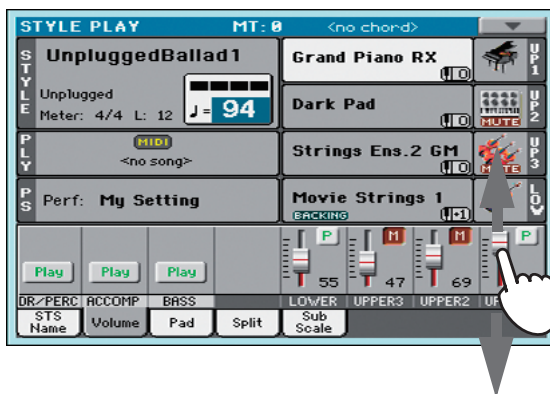
別々のトラックの音量を調節する

スタイルとキーボード・トラックの各トラックの音量を調節することができます。例えば、ベースを少し弱めたり、キーボード・トラックのソロを強調したりすることができます。

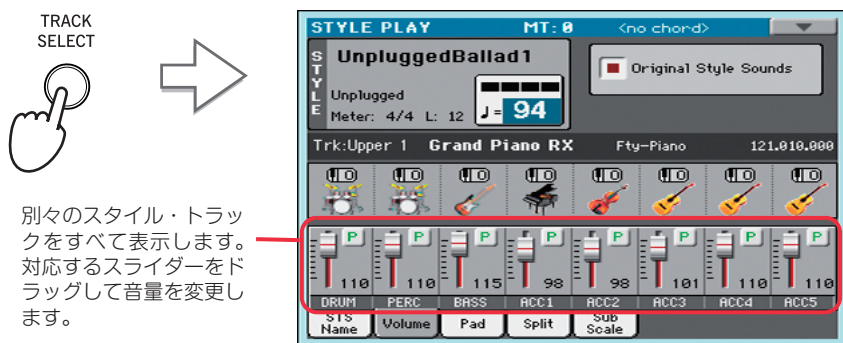
- 1 Volumeタブをタッチして、ボリューム・パネルを開きます。



- 2 バーチャル・スライダーをドラッグして、各キーボード・トラックのボリュームを調整します。



- 3 スタイル・トラックを個別に調整するときは、パネルのTRACK SELECTキーを押してトラック表示を切り替えます。



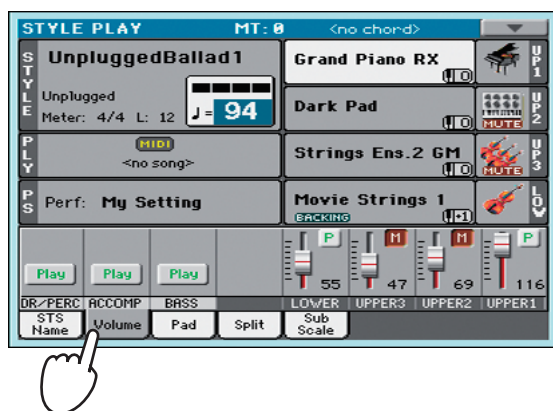
i Hint: 各トラックのボリュームを調整するには、そのトラックのバーチャル・スライダーをタッチしてからVALUEダイアルで変更する方法もあります。

- 4 キーボード・トラック表示に戻るときは、パネルのTRACK SELECTキーをもう一度押します。

スタイル・トラックのオン/オフ (ミュート)

再生中に、スタイル・トラックのオン、オフを切り替えることができます。以下の例は、ドラムとベースは再生させて、他のすべての伴奏トラックをミュート (消音) する場合です。

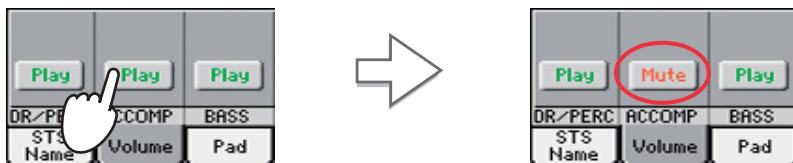
- 1 ボリューム・パネルが開いていることを確認します。開いていない場合は、Volumeタブをタッチして開きます。



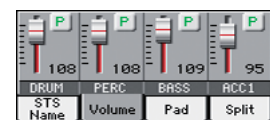
i Note: Style Playモードのノーマル表示では、スタイル・トラックは3つのトラックにグループ化されています。それぞれのスタイル・トラックを個別のトラックとして見るときは、パネルのTRACK SELECTキーを押します。



- 2 スタイルの再生中に、Playボタンにタッチしてトラックをミュートします。

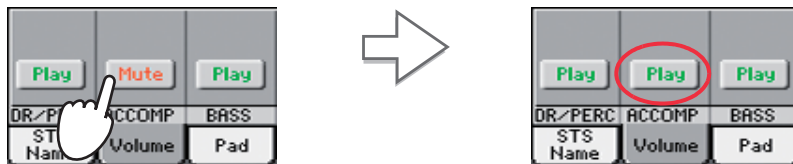


ACCOMPトラックをミュートします。すべての伴奏トラック (ドラム、パーカッション、ベースを除く) が聞こえなくなります。



i Hint: メイン・ページを開いていない時にベース・トラックを含むすべての伴奏トラックをオフにするには、ACCOMP.キーを押してLEDをオフ (消灯) にします。

3 トラックを元の再生状態に戻すときは、トラックのミュート・アイコンにタッチします。



ACCOMPトラックを再生にします。すべての伴奏トラックが元の音量に戻ります。

4 スタイル・トラックそれぞれのオン、オフ（プレイ/ミュート）を設定するには、TRACK SELECTキーを押してスタイル・トラック画面を開き、上記の手順を繰り返します。

5 パネルのTRACK SELECTキーをもう一度押すと、ノーマル表示に戻ります。

i Hint: ミュートしたトラックのスライダーを動かしたときは、ミュートを自動的に解除します。

右手のメロディにハーモニーを加える（アンサンブル機能）

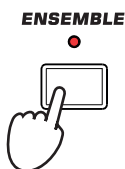
右手のメロディに、左手で弾いて入力したコードに追従して、自動的にハーモニー演奏を加えます。

1 SPLITキーを押してLED点灯させ、スプリット・モードに入ります。

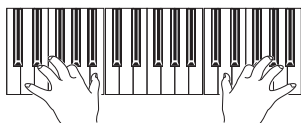
アンサンブル機能は、スプリット・モードのときのみ有効です。



2 ENSEMBLEキーを押すとLEDが点灯し、アンサンブル機能がオンになります。



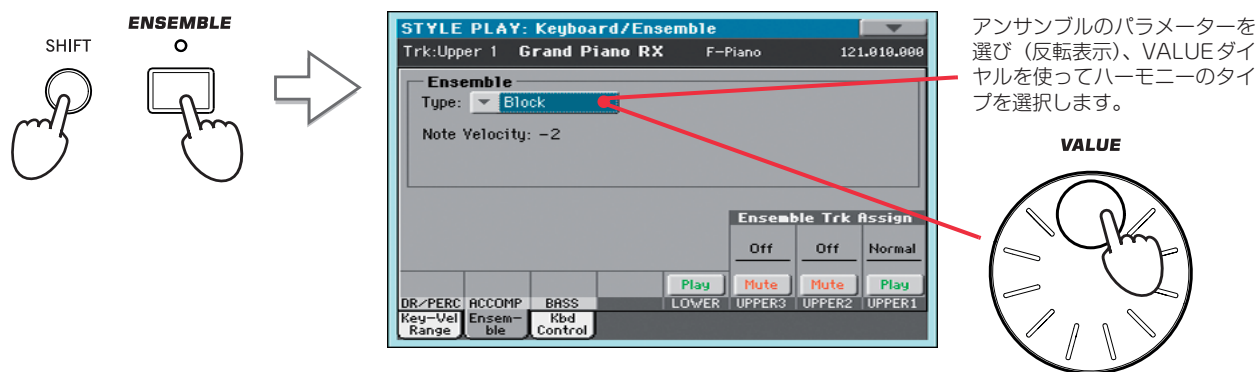
3 左手でコードを、右手では1音ずつ演奏してみます。



左手で弾いたコードに従って、右手の音に自動的にハーモニーを追加します。

4 別のハーモニー・タイプを選ぶときは、SHIFTキーを押しながらENSEMBLEキーを押して、アンサンブル・ページを開きます。

この方法は、このページを表示するためのショートカットです。別の方法として、MENUキーを押して、画面のKeyboard Ensembleボタンにタッチし、Ensembleタブにタッチします。



5 ハーモニー・タイプを選択したら、EXITキーを押してメイン・ページに戻ります。



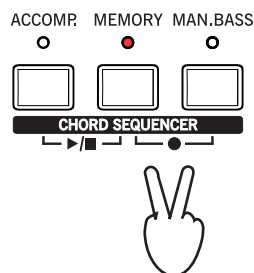
6 ENSEMBLEキーをもう一度押すとLEDが消灯し、アンサンブル機能がオフになります。



コード・シーケンサー

スタイルを演奏中に両手を使ってソロを弾きたいとき、コード・シーケンサーにコード進行をレコーディングし、自動でコード演奏をさせることができます。

- 1 START/STOPキーを押して、スタイルを再生します。
- 2 MEMORYキーとMAN.BASS (RECORD)キーを同時に押し、レコーディング・モードにします。



3 コード・シーケンサーのレコーディングは次の小節の先頭から始まります。

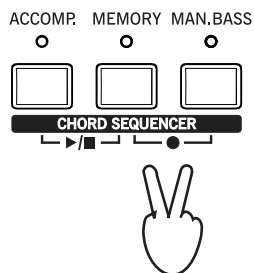
レコーディング中は赤く点滅したアイコンが画面に表示されます。



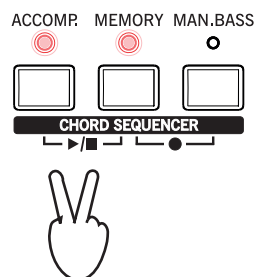
4 コード・スキャン・エリア (コード認識エリア) でコードを演奏します。

SPLITキーのLEDがオン (点灯) になっている (スプリット・モードがオンになっている) 場合、スプリット・ポイントから低音域がコード・スキャン・エリアです。また、SPLITキーのLEDがオフ (消灯) の場合は、鍵盤の全域がコード・スキャン・エリアになります。また、コード・スキャン・エリアはGlobalモードのChord Recognitionパラメーターの設定により変化します (Globalモード「Chord Recognition」参照)。

5 コード・シーケンサーを実行したとき、再びMEMORYキーとMAN. BASS (RECORD) キーを同時に押して録音を停止します。



6 次にコード・シーケンサーを再生する場合は、ACCOMP.キーとMEMORY (PLAY/STOP) キーを押して、再生を開始します。

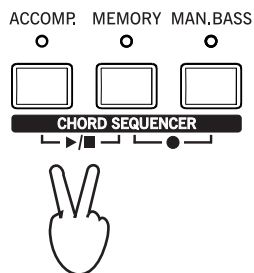


2つのキーのLEDが点滅します。この時、コード・シーケンサーは次の小節からループ再生を行います。レコーディングしたコード進行はアレンジャーに送られ、その進行に従ってスタイルが演奏されます。

7 コード・シーケンサーの再生中にソロ演奏をします。

コード・シーケンサーがループ再生中は、左手でコードを演奏している場合と同様に、フィルやバリエーションを自由に選択できます。

8 ACCOMP.キーとMEMORYキー (PLAY/STOP) を同時に押し、コード・シーケンサーを停止します。



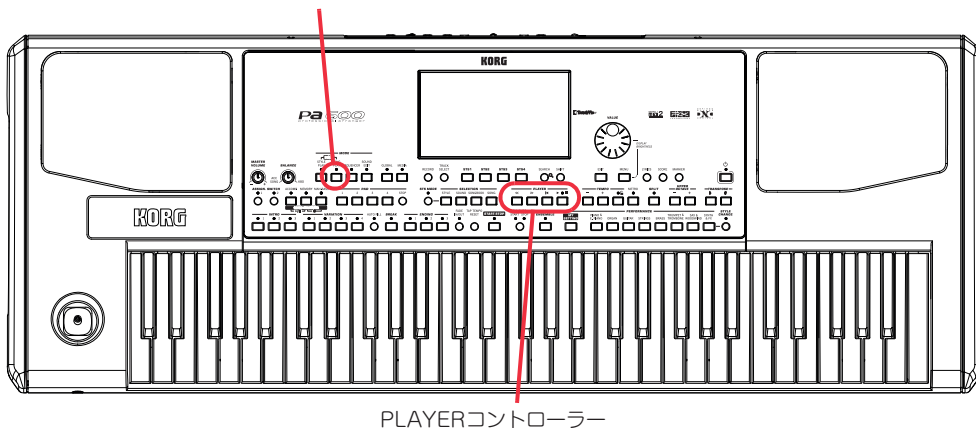
コード・シーケンサーにレコーディングしたコード進行は、次にレコーディングをするか、または本機の電源をオフにするまでメモリーに残ります。

ソング・プレイ

本機は、スタンダードMIDIファイル (MIDファイル)、カラオケ・ファイル (KARファイル)、MP3ファイルに対応したプレーヤーを内蔵しています。また、スタンダードMIDIファイルやMP3ファイルに歌詞やコードネーム・データがある場合は、それらを画面に表示させることもできます。

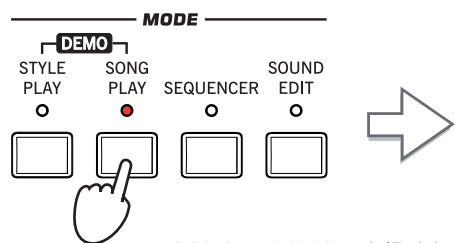
スタンダードMIDIファイルの場合は、歌詞やコードネーム情報の他に、楽譜を表示させることや、楽曲中の各セクションに瞬時にジャンプできるマーカー情報を利用することもできます。

SONG PLAYキー

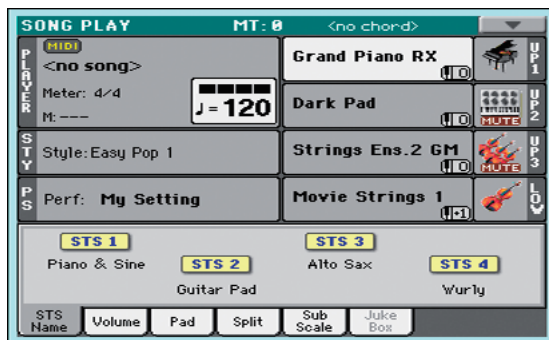


再生するソングを選ぶ

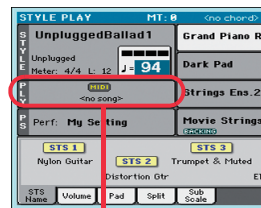
1 SONG PLAYキーを押してSong Playモードに入ります。



SONG PLAYキーを押すと、Song Playモードのメイン・ページが表示されます。



i Hint: Style Play モードでも、プレーヤーに割り当てるソングを選ぶことができます。この場合、Song Play モードに切り替えると、すぐにソングの再生を開始することができます。



Style Play モードのメイン・ページに表示されるソング名

2 画面のソング名にタッチして、ソング選択ウィンドウを開きます。

この画面はMEDIAモードのLoad画面とよく似ていますが、この画面ではソング・ファイルのみが表示されます。



i Hint: 別の方法として、パネルのSELECTIONセクションのSONGキーを押して、ソング選択ウィンドウを開くこともできます。

3 リストをスクロールして、再生するソングを選択します。

選択しているソングは反転表示になります。別のソングを選択するとき、ソングの名前部分にタッチします。



スクロール・バーを使ってリスト内のすべてのソングを閲覧します。SHIFTキーを押しながら、上下のスクロール・アロー(▲、▼)にタッチすると次か前のリストの先頭になります。VALUEダイヤルを使っても、ソングを閲覧することができます。

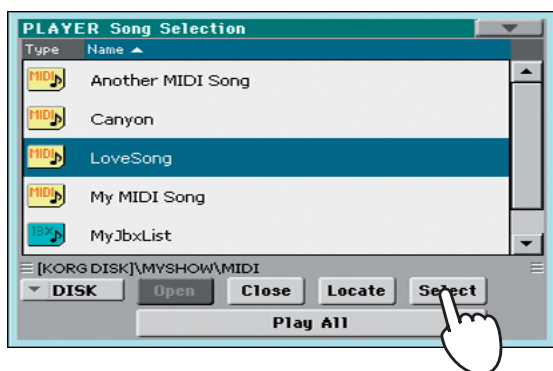
Selectボタンにタッチして反転表示のソングを選択確定し、プレーヤーに割り当てます。

Deviceポップアップ・メニューを使って、ストレージ・デバイスを選択します。

Open、Close ボタンを使って、フォルダ内を閲覧できます。

Locateボタンを使えば、選択したソングが含まれるフォルダに戻り、検索することができます。

4 ソングを選んだら、画面のSelectボタンにタッチして確定します。ソング選択ウィンドウが自動的に閉じます。



選択されたソング

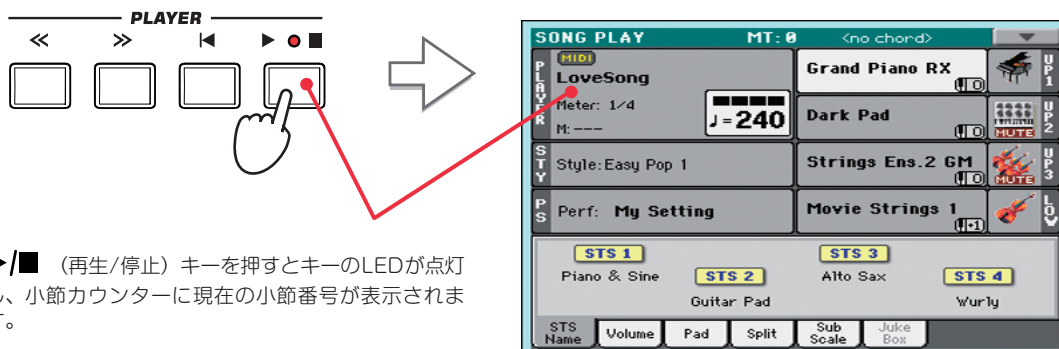


画面のSELECTボタンにタッチすると、Song Playモードのメイン・ページに戻ります。

ソングの再生

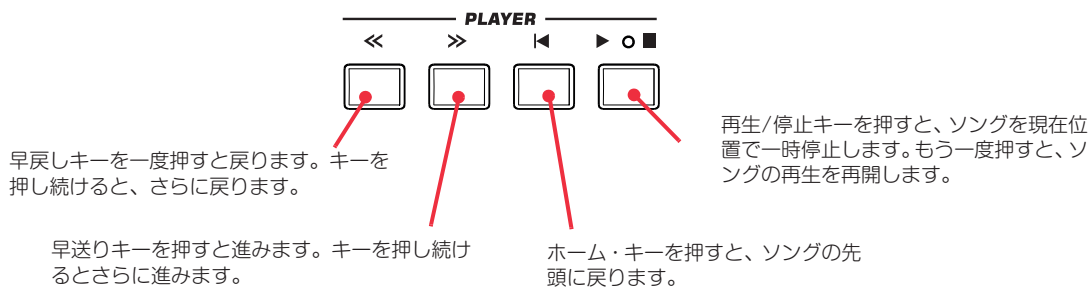
ソングを選んだら、プレーヤーで再生します。

- 1** PLAYERセクションの ▶/■ (再生/停止) キーを押すとソングの再生が始まります。

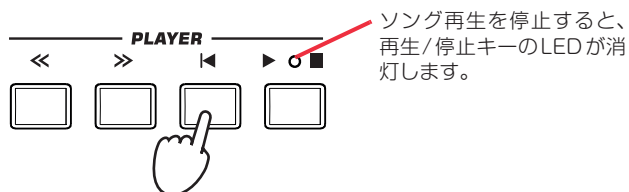


▶/■ (再生/停止) キーを押すとキーのLEDが点灯し、小節カウンターに現在の小節番号が表示されます。

- 2** PLAYERセクションのキーを使って、ソング再生をコントロールします。



- 3** ソング再生を停止してソングの先頭に戻るときは ◀ (ホーム) キーを押します。

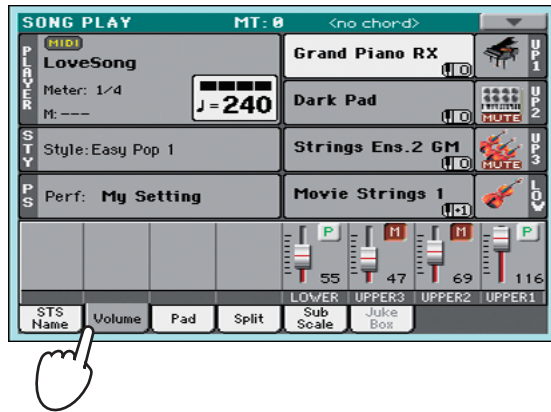


Note: プレーヤーは、ソングの最後まで再生すると、自動的に停止します。

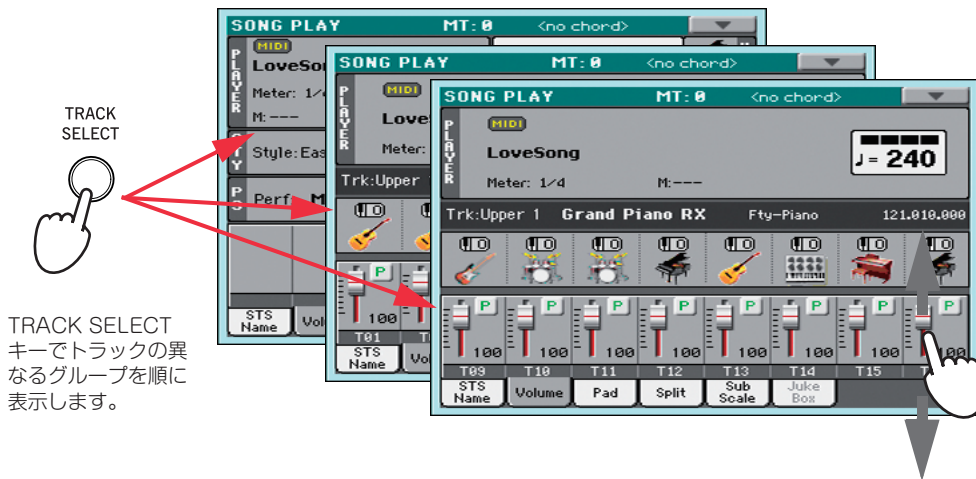
トラック音量の調節

スタンダードMIDIファイルの再生中に、ソングの各トラックの音量を調節してリアルタイムでミックスを作り上げます。

- 1 ボリューム・パネルが開いていることを確認します。開いていない場合は、Volume タブをタッチして開きます。

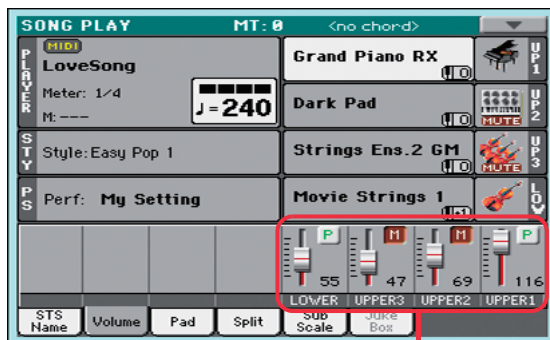


- 2 Style Playモードのボリューム・パネルと同様、パーチャル・スライダをドラッグして各トラックのボリュームを調節します。トラック・グループを切り替えるときは、TRACK SELECTキーを押します。



TRACK SELECT
キーでトラックの異なるグループを順に表示します。

- 3 ノーマル表示では、各キーボード・トラックの音量を調整できます。



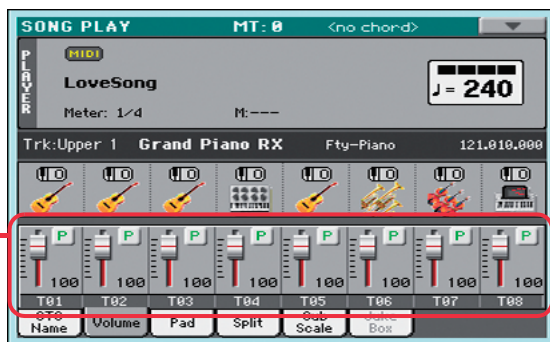
キーボード・トラック

i Hint: 各トラックのボリュームを調整するには、そのトラックのパーチャル・スライダをタッチしてからVALUEダイヤルで変更する方法もあります。

4 TRACK SELECTキーを一度押して、画面表示を最初のトラック1~8にします。



選択したソングの最初の1~8トラックの設定を表示します。

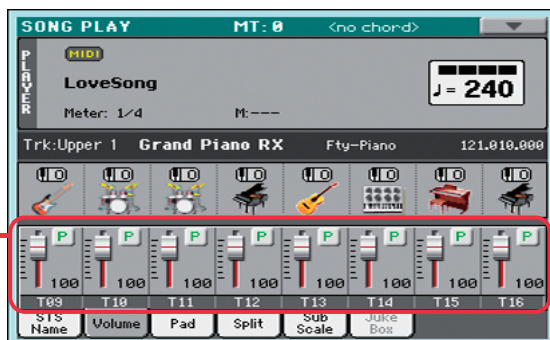


i Note: ソング・トラックの音量設定は保存されず、◀ (ホーム) キーや<< (早戻し) キーを押すたびにリセットします。また、異なるマーカーを選んだときもリセットします。設定を保存したいときは、Sequencer モードでソングをエディットします。

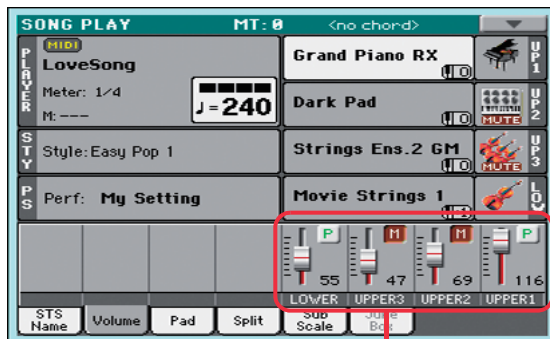
5 TRACK SELECTキーを一度押して、画面表示を次のトラック9~16にします。



選択したソングの9~16トラックの設定を表示します。

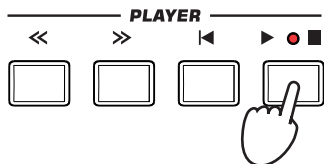


6 TRACK SELECTキーをもう一度押して、画面をノーマル表示 (キーボード・トラック) に切り替えます。



キーボード・トラック

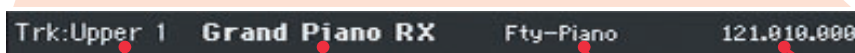
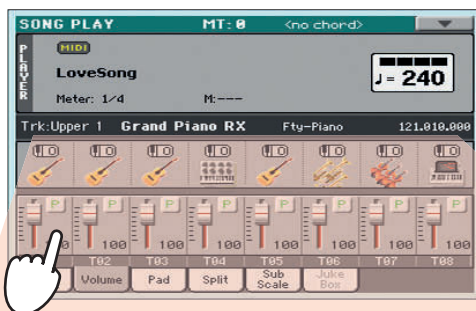
7 ▶/■ (再生/停止) キーを押して、ソングの再生を始めます。



8 ソングを聴きながら、TRACK SELECTキーを押して、画面をノーマル表示、トラック1~8表示、トラック9~16表示と切り替えて、どのトラックを再生しているかを確認します。

トラックが再生されているかどうかを確認するには、その名前のラベルを見て、色が変わったかどうかを確認します。

- 画面の各トラックを選択 (反転表示) すると、トラックの情報が、下記のように画面中央に表示します。



選択したトラック
割り当てられているサウンド。ここにタッチすると、サウンド選択ウィンドウを表示します。
サウンド・バンク
プログラム・チェンジ

- また、トラック1~8表示、トラック9~16表示のときは、画面の各トラック・スライダーの上に割り当てられたサウンドのバンク・アイコンと、トランスポーズの情報を表示します。



オクターブ・トランスポーズ
サウンド・バンク・アイコン
ここにタッチすると、サウンド選択ウィンドウを表示します。

ソング・トラックのオン/オフ (ミュート)

再生中のスタンダードMIDIファイルに合わせて歌ったり、インストルメンタルのパートの1つをキーボード・トラックで演奏したりするために、特定のトラックをオフ (ミュート) にすることができます。ソングの各トラックのミュート・オン、オフの設定は、ボリューム・パネルのPlay/Muteアイコンをタッチします。(48ページの“スタイル・トラックのオン/オフ (ミュート)”参照)

Note: ソング・トラックのオン、オフ設定は保存されません。設定を保存したいときは、Sequencerモードでソングをエディットします。

ソロ演奏

スタンダードMIDIファイルの1つのトラックだけを演奏させることができます。これをソロ機能といいます。

- 1 スタンダードMIDIファイルの再生中に、SHIFTキーを押しながら、ソロ演奏をさせたい画面のトラックにタッチしてください。
- 2 ソロ演奏を解除するときは、SHIFTキーを押しながら、もう一度そのトラックにタッチするとすべてのトラックが元の状態に戻ります。

ソロ機能はStyle PlayモードやSequencerモードでも使用できます。また、ページ・メニューから“Solo Track”を選択することもできます。

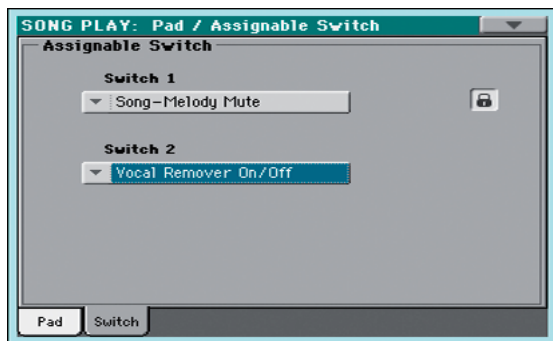
スタンダードMIDIファイルからメロディ・トラックを、MP3ファイルからリード・ボーカルをキャンセルする

ソング（スタンダードMIDIファイルやMP3ファイル）に合わせてボーカルを取りたいとき、ソングのメロディ・トラックやリード・ボーカルをキャンセルすることができます。但し、MP3ファイルからリード・ボーカルをキャンセルする場合、曲によってはうまくキャンセルできない場合もあります。

アサインナブル・スイッチの設定をする

- 1 アサインナブル・スイッチにSong-Melody Mute、Vocal Remover On/Offを割り当てます。

MENUキーを押し、“Pad/Assignable Switch”セクションを選択します。次にSwitchタブをタッチしてスイッチ・ページを開きます。このページでは、Song-Melody Mute（メロディ・トラックのミュート・オン/オフ）をアサインナブル・スイッチ1に、Vocal Remover（ボーカル・リムーバー機能のオン/オフ）をアサインナブル・スイッチ2にそれぞれ割り当てます。



- 2 EXITキーを押してSong Playモードのメイン・ページに戻ります。

ソングでアサインナブル・スイッチを使用する

- 1 ソング（スタンダードMIDIファイルまたはMP3ファイル）をプレーヤーに割り当てます。
- 2 プレーヤーをスタートさせます。
- 3 アサインナブル・スイッチ1を押して、メロディ・トラックをミュートします。または、アサインナブル・スイッチ2を押してボーカル・リムーバー機能をオンにし、リード・ボーカルをキャンセルします。

メロディ・トラックが正しくミュートされているかを確認します。正しくミュートされていない場合、後述の手順で別のメロディ・トラックを選択します。

リード・ボーカルがうまくキャンセルできているかどうか（ボーカルの声が小さくなっている、または完全に消えている）を確認します。

i Hint: このページはSHIFTキーを押しながらアサインナブル・スイッチのいずれかを押し開くこともできます。

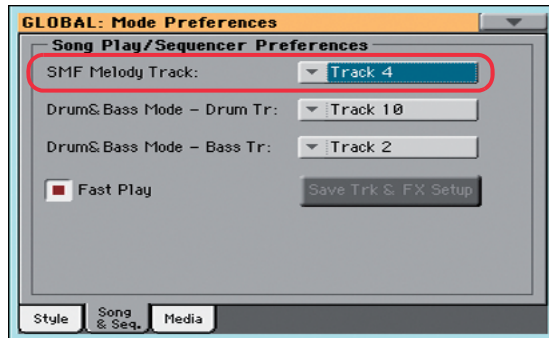
i Note: アサインナブル・スイッチの設定は、パフォーマンスやSTSに保存できます。

- メロディ・トラックのミュートやリード・ボーカルのキャンセルがうまくできたら、アサインابل・スイッチ1をもう一度押して、メロディ・トラックをオンにします（スタンダードMIDIファイル再生の場合）。または、アサインابل・スイッチ2をもう一度押して、ボーカル・リムーバーをオフにし、リード・ボーカルの声をオンにしてみます（MP3ファイル再生の場合）。
- プレーヤーを停止します。

別のメロディ・トラックを選択する

スタンダードMIDIファイルでうまくメロディ・トラックがミュートできなかった場合、別のメロディ・トラックを選択することができます。

- SHIFTキーを押しながらSONG PLAYキーを押して、GlobalモードのSong Play & Sequencerページを開きます。



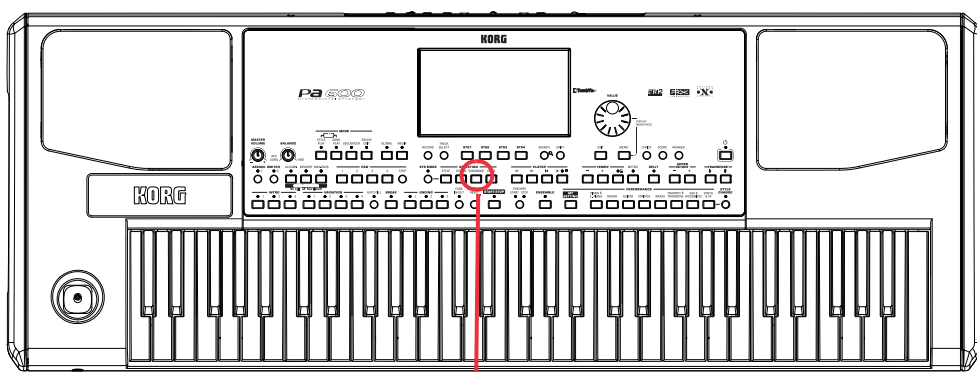
- 別のメロディ・トラックを選択します。
- トラックを選択したら、EXITキーを押してメイン・ページに戻ります。

ソングブック

本機の強力な機能の1つにソングブック機能があります。ソングブックでは、ミュージカル・データベースを使って、スタイルやソング・ファイルの管理、検索、呼び出しが容易に行えます。ソングブックのエントリー（データベースとして登録したスタイルやソング・ファイル）にアーティスト、タイトル、ジャンル、キー、テンポ、拍子（拍子記号）の情報を含めることができます。エントリーを選択すると、関連するスタイル、スタンダードMIDIファイル、またはMP3ファイルを自動的に呼び出されます。

ソングブックでは、ライブ演奏に便利な4つのパッドや4種類のSTSも、ソングブックの各エントリー（曲）別に設定することができます。また、スタンダードMIDIファイルやMP3ファイルに歌詞イベントが入っていない場合は、エントリーとテキスト・ファイルをリンクさせて歌詞イベントの代わりに利用することも可能です。また、スタイルをバックに演奏することも可能です。

ソングブックにはエントリーとして追加したり、既存のエントリーをエディットしたりすることができます。本機には数百のエントリーがすでに収録されていますが、ソングブックを使用して、演奏スタイルに合わせ、さまざまなソングブックのカスタム・リストを作ることができます。



SONGBOOK キー

メイン・リストからエントリーを選ぶ

本機は、内蔵しているデータベースをカスタマイズすることができます。このデータベースはさまざまな方法で閲覧できます。

- 1 **Style PlayモードあるいはSong Playモードで、パネルのSONGBOOKキーを押してソングブック・ウィンドウを開きます。**

現在、アレンジャーやプレーヤーにアサインされているスタイル、スタンダードMIDIファイル、MP3ファイル。

SONGBOOK



ソング・ブック・メイン・リスト

ここにチェックを付けて、フィルター機能をオンにします。



このボタンにタッチして、表示フィルターをエディットします。

カスタム・リストに選んだエントリーを追加します(有効時、64ページ参照)。

スクロール・バーを使ってリスト内のすべてのエントリーを閲覧します。SHIFTキーを押しながら、上下のスクロール・アロー(▲、▼)にタッチすると次か前のアルファベットがリストの先頭になります。VALUEダイヤルを使っても、エントリーを閲覧することができます。

このボタンにタッチして、エントリー(スタイルやファイル)を選択し確定します。

2 エントリーを閲覧します。

Type欄のアイコンで、エントリーのタイプが分かります。初期設定ではGenre欄を表示しますが、これをArtist欄に切り替えることもできます（以下の「アーティスト、またはジャンルを表示する」を参照）。

3 選択するエントリーを画面に表示しているときは、それを選択して（反転表示）画面のSelectボタンにタッチして確定します。

エントリーが選択確定されると、対応するMIDIファイル、KARファイル、またはMP3ファイルが、それぞれの操作モード（Style PlayまたはSong Play）で呼び出されます。最大4つのSTSとパッドの設定も同時に呼び出すことが可能です。エントリーにリンクしたテキスト・ファイルは、歌詞ページで見ることができます。

選択されたスタイル、MIDIファイル、KARファイル、またはMP3ファイルは画面の上部に表示します。

アーティスト、またはジャンルを表示する

画面には、Genre欄とArtist欄のどちらか一方を表示します。両方を同時に表示することはできません。

1 ページ・メニュー・ボタンにタッチして、ページ・メニューを開きます。

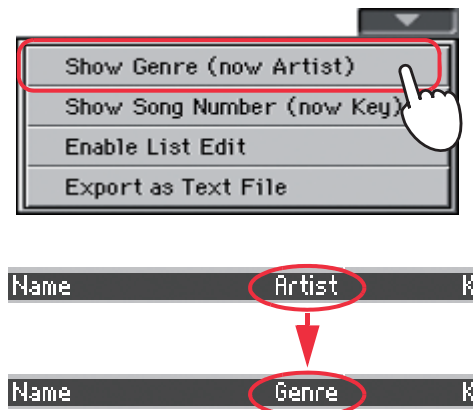


i Note: すでに表示しているArtistとKeyは、コマンドの右端のカッコ内に表示されます。

2 メニューから“Show Artist (now Genre)”を選んで、リスト表示のGenreをArtistに切り替えます。Artist欄が表示されます。



3 その後ページ・メニューを再度開いて、“Show Genre (now Artist)”を選ぶと、Genre欄を再表示します。

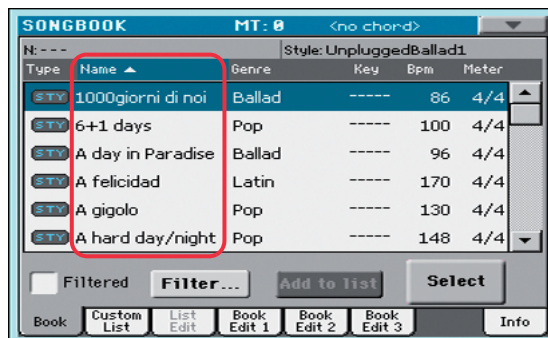
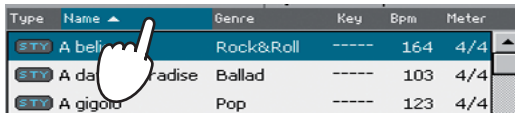


エントリーの並びを変える

画面に表示されるエントリーの、並び順を変えることができます。

- 1 リストのラベルの1つを選択することで、並び順の条件を変えることができます。

ネーム・ラベルにタッチしてください。



リストがネームのアルファベット順に並び換えられます。ラベルにタッチするたびにリストの表示が昇順、降順に切り替わります。

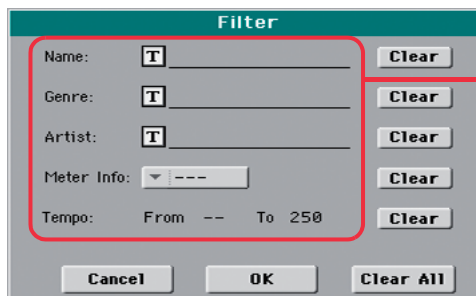
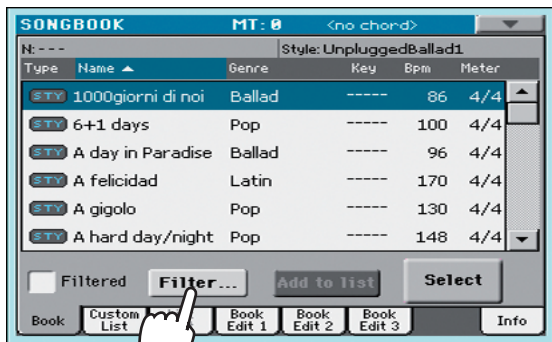
タイプ、ネーム、ジャンル、アーティスト、キー、番号、テンポ、または拍子のラベルにタッチすることによって、同じように並べ替えることができます。

- 2 それぞれのラベルにタッチするたびに、リストの表示が昇順、降順に切り替わります。

エントリーの検索

ソングブックのデータベースは膨大なため、すべてのエントリーを閲覧し検索するには時間がかかりすぎます。そこで、フィルター機能を使うと、特定のアーティストやソングのタイトルで、すばやく検索することができます。

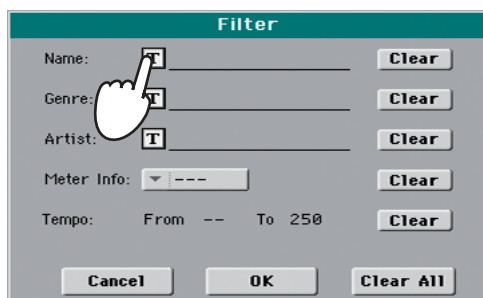
- 1 画面のFilterボタンにタッチして、Filterダイアログ・ボックスを開きます。



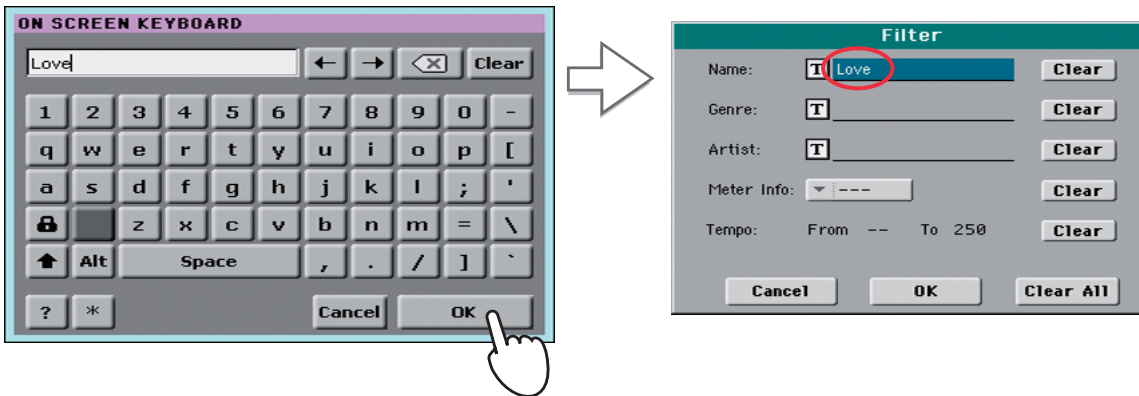
利用可能なフィルターの条件。“Genre”と“Artist”はリストに表示されていなくても、両方の条件を考慮します。

- 2 入力する検索条件（複数も可能）の **T**（テキスト・エディット）ボタンにタッチします。

例えば、タイトルに「Love」という言葉を含むすべてのソングを探すとします。そのときは、“Name”の条件を選択して「Love」という言葉を入力します。大文字/小文字は、検索には影響ありません。

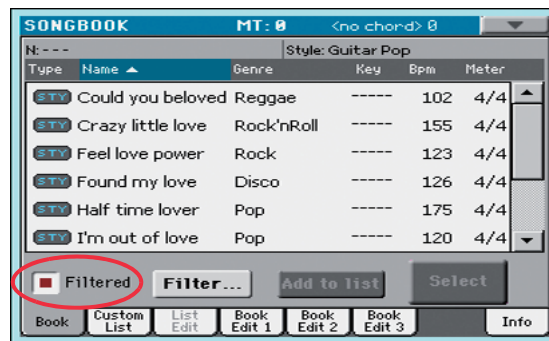


- 3 画面のOKボタンにタッチして、テキスト・エディット・ウィンドウを閉じます。入力した文字が検索条件となります。



- 4 画面のOKボタンにタッチして、Filterダイアログ・ボックスを閉じ、ソングブック・ページに戻ります。

OKボタンにタッチしてFilterダイアログ・ボックスを閉じると、“Filtered” のチェック・ボックスには自動的にチェックが付き、フィルター機能が有効になったことを示します。メイン・リストには検索条件に合ったエントリーだけが表示されます。



- 5 再度ソングブックのデータベースすべてを見るときは、“Filtered” のチェック・ボックスをもう一度タッチして、チェックを外します。

エントリーの追加

ソングブックのデータベースに、独自のエントリーを追加できます。

- 1 ソングブックのデータベースに加えるエントリーの属性によって、Style PlayモードまたはSong Playモードを選択します。
- 2 ソングブックのデータベースに追加する、スタイル、スタンダードMIDIファイル、またはMP3ファイルを選択します。
- 3 必要に応じて、異なるサウンドやエフェクトを選択したり、その他のパラメーターを変更したりして、キーボード・トラックやスタイル・トラックをエディットします。
スタンダード MIDI ファイルのトラックへの変更は、ソングブックのデータとしては保存できません。使用しているスタンダードMIDIファイルに含まれるデータが常に対象となります。
- 4 ソングブックに追加する準備ができましたら、SONGBOOKキーを押し、Book Edit 1タブをタッチしてブック・エディット1ページを開き、追加したいリソース（スタイル、スタンダードMIDIファイル、またはMP3）をソングブックのエントリーにリンクさせます。
- 5 さらに新しいエントリーを追加する場合は、画面上のNew Songボタンをタッチします。

エントリー名

エントリーに記録された、MIDIファイル、KARファイル、またはMP3ファイルの名前。

曲の選択番号 (数字選択のためのID番号)

現在選択しているリソース。異なるスタイル、MIDIファイル、KARファイル、またはMP3ファイルを選択したときは、保存しているリソース (ページの上部に表示) と異なります。

エントリーで使えるSTSの1つで、キーボード・トラックの現在の設定を保存できます。

チェックが付いていると、現在のスタイル・トラックの設定、またはMIDIファイル、KARファイル、MP3ファイルへのパスをエントリーに保存します。チェックが外れているときは、オリジナルのスタイル・トラックの設定を保存します。このパラメーターは、New Songボタンにタッチして新規のエントリーを収録するときは、自動的にチェックが付きます。

チェックが付いていると、現在のキーボード・トラックの設定を各エントリーの4つのSTS設定の1つに保存します。またソングブックに登録されている現在のスタイルのすべてのSTS設定を保存します。

New Songボタンにタッチして新規のエントリーを作成します。

“All Current Style STS” を選択して、新しいエントリーで4つのSTSを保存します。

- 6 エントリーの追加が済みましたら、Book Edit 2タブをタッチしてブック・エディット2ページを開き、さらに詳細な設定を行います。

データ・ベースに追加したエントリーのパラメーター

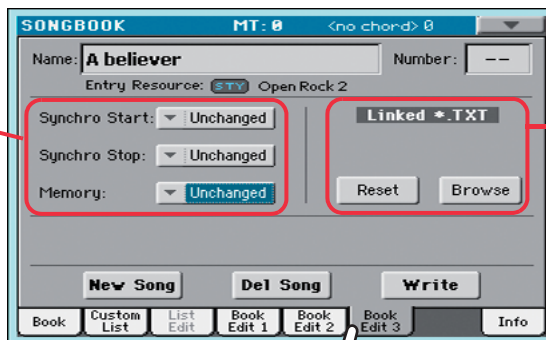
7 エディットする項目の **T** (テキスト・エディット) ボタンにタッチし、名前を入力します。その他のパラメーターも設定します。

音楽ジャンルやアーティスト名をここに入力できます。STSを1つだけ保存している場合は、それに名前を付けることもできます (全部のSTSを保存している場合はできません)。続いて曲のテンポ、拍子、キーを設定します。また、ここでマスター・トランスポーズを設定することもでき、そのエントリーを選択すると自動的にそのトランスポーズ設定を呼び出すこともできます。

i Note: ロックがかかっている場合、マスター・トランスポーズの変更はできません (Global モード [Locks] 参照)。

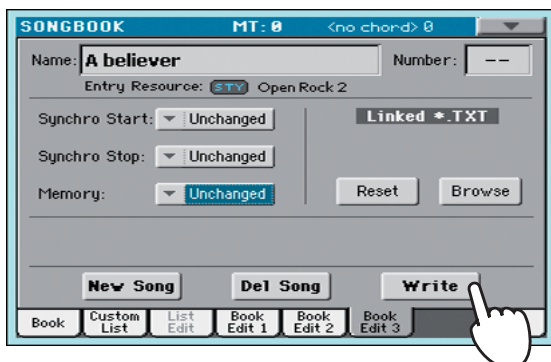
8 このページでの設定が終わりましたら、タブをタッチしてブック・エディット3ページを開きます。ここでは、シンクロスタート/ストップやメモリーの設定、テキスト・ファイルへのリンク設定などが行えます。

同期 (スタイル) とメモリー (スタイルとソング) のオン/オフ設定。



エントリーにリンクされているテキスト・ファイル。このテキストは画面に歌詞として表示されます。

9 必要と思われるすべての項目を設定したら、画面のWriteボタンにタッチして、Write Songダイアログ・ボックスを表示します。

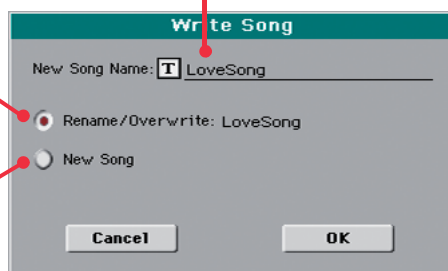


10 **T** (テキスト・エディット) ボタンにタッチして新規のエントリーに名前を付け、OKボタンにタッチして、ソングブックのデータベースに新規のエントリーを保存します。

エントリー名。初期設定では関連したMP3ファイルのスタンダードMIDIファイルと同じ名前です。名前の長さは16文字まで。

既存のエントリーを上書きするときは、「Rename/Overwrite」を選択します。
Warning:古いエントリーは削除します。

「New Song」を選択して、ソングブック・リストに新規のエントリーを追加します。新規のエントリーを作成 (エディット1ページのNew Songボタンにタッチ) したときは、これを自動的に選択します。



カスタム・リストの作成

ソングブックに、演奏スタイルに合わせた一連のエントリーを、カスタム・リストとして作成することができます。新規のカスタム・リストを作成する前に、ソングブックのデータベースに必要なすべてのエントリーが追加されていることを確認します（前述の「エントリーの追加」参照）。

1 SongBookモードで、ページ・メニューを開き、“Enable List Edit” にチェックを付けます。



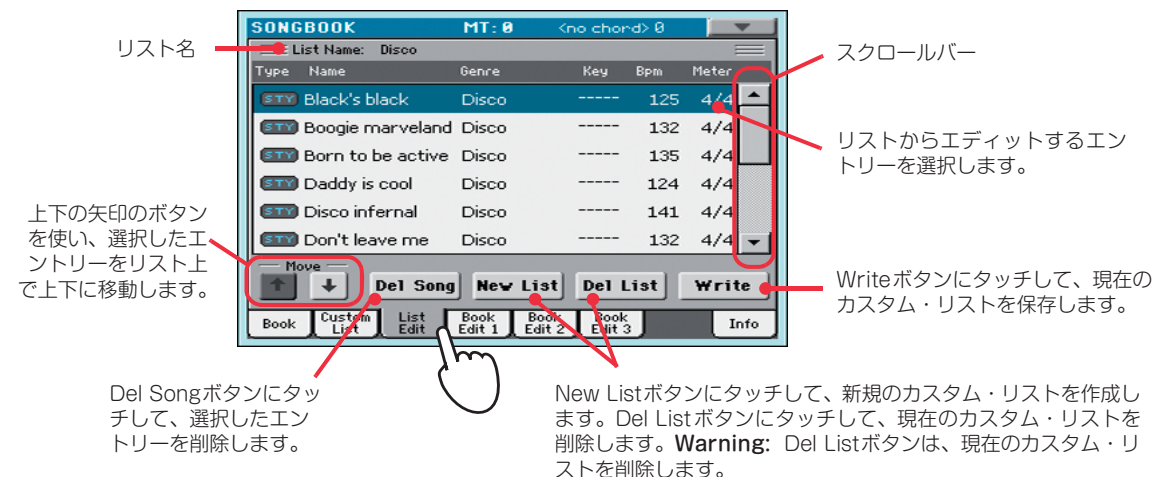
2 エディットするカスタム・リストを選択します。

既存のリストをエディットするときは、Custom Listタブにタッチしてカスタム・リスト・ページを開き、カスタム・リストを選択します。新規のリストを作成するときは、List Editタブにタッチしてリスト・エディット・ページを開き、New Listボタンにタッチして空のリストを作成します。

3 Book タブにタッチしてソングブック・ページを開きます。さまざまな並び替え、検索、フィルター条件（前述参照）を使って、必要なエントリーを選びます。必要なエントリーを選んだら、Add to Listボタンにタッチします。



4 カスタム・リストにすべてのエントリーを追加したら、List Editタブにタッチしてリスト・エディット・ページを開き、さまざまなボタンを使ってリストをエディットします。



5 カスタム・リストが完成したら、画面のWrite ボタンにタッチして本体メモリーに保存します。必要に応じて、カスタム・リストに新規の名前を付けます。

矢印ボタンまたはVALUEダイヤルを使ってカーソルを左右に移動します。

Clear ボタンにタッチすると、すべての文字を削除します。Delete ボタンにタッチすると、カーソルの左の1文字を削除します。

アルファベット文字でテキストを入力します

Shiftボタンにタッチして大文字、小文字を切り替えます。

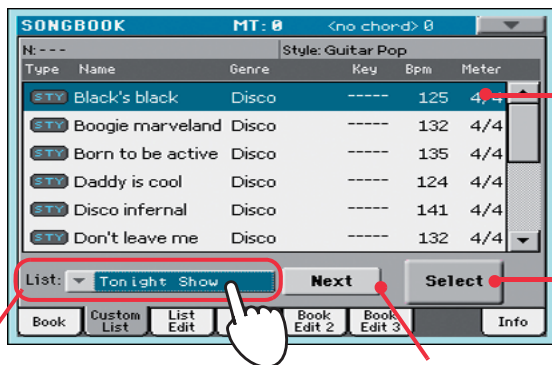
OKボタンにタッチして新しい名前を確定するか、Cancelボタンにタッチして変更を中止します。

テキスト・エディット・ボタン **T** にタッチしてテキスト・エディット・ウィンドウを開きます。

カスタム・リストを選んで使う

カスタム・リストを作成したら、それを選んで再生することができます。

- 1 Custom Listタブにタッチして、カスタム・リスト・ページを選択します。
- 2 Listポップアップ・メニューを使って、カスタム・リストを選択します。



再生中のエントリーです。他のものを選択するときは、選択するエントリーを反転表示させ、画面のSelectボタンにタッチします。

Selectボタンにタッチして反転表示のエントリーを選択確定します（自動的に選ばれているものと違うものを再生する場合）。

このListポップアップ・メニューを使ってカスタム・リストを選択します。

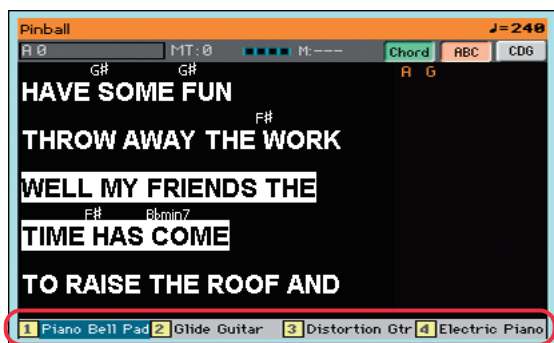
Nextボタンにタッチして、リスト上の次のエントリーを選択します（この機能は、パネルのアサインابل・スイッチキーに割り当てることができます）。

- 3 リストからエントリーを選択し（反転表示します）、画面のSelectボタンをタッチして選択を確定させます（この時、選択したエントリーが緑色に変化します）。次にPLAYキーを押すと選択したエントリーが再生されます。

ソングブックのSTSを選択する

ソングブック・エントリーには最大4つのSTSを割り当てることができます。これは、ソングブックのエントリーがスタイル、スタンダードMIDIファイル、MP3ファイルのどれを元としているかは関係ありません。

- 1 現在のソングブックのエントリーに含まれている4つのSTSを確認するときは、LYRICSキーを押して、歌詞/STSページを開きます。



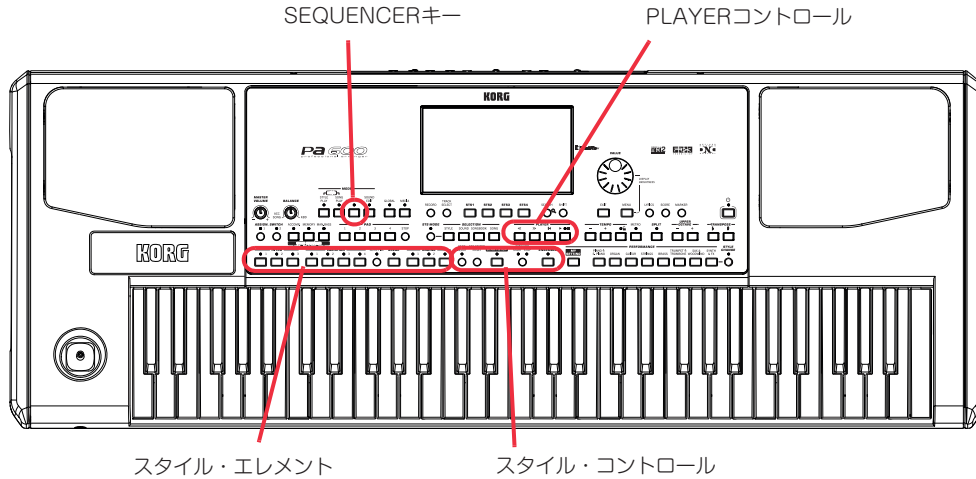
現在エントリーに関連したSTS

- 2 使用したいSTSに対応するSTSキーを押します。または、画面に表示されているSTS名をタッチします。

STSを呼び出します。キーボード・トラックの設定を変更します。

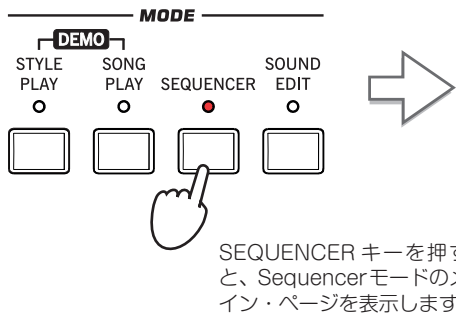
新しいソングを録音する (スタンダードMIDI ファイル)

本機では、いろいろな方法でソングを録音することができます。最も簡単な方法は、スタイル・プレイを使って、アレンジャー機能でアカンパニメント・トラックを再生しながら、鍵盤の演奏をリアルタイムに録音する方法です。



Backing Sequence (Quick Record) モードに入る

1 SEQUENCERキーを押して、Sequencerモードに切り替えます。

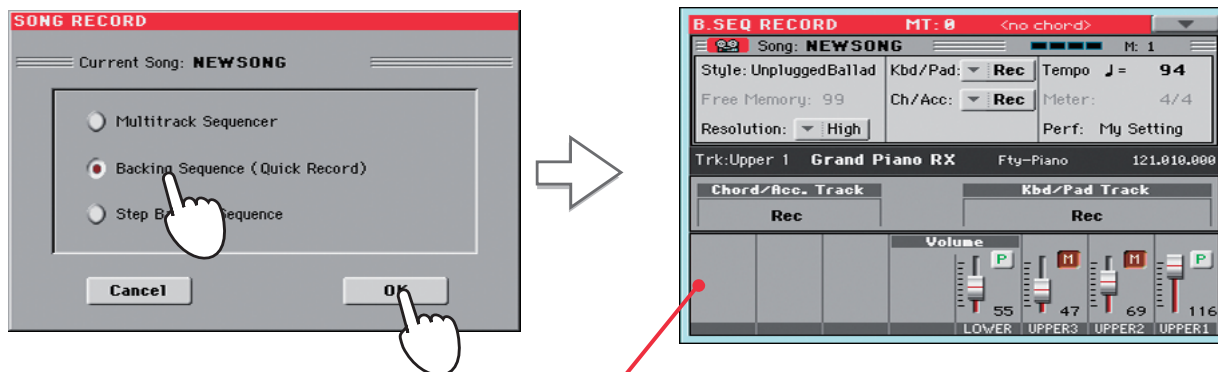


2 RECORDキーを押して、Song Recordモードのダイアログ・ボックスを表示します。



クイック・ガイド

3 “Backing Sequence (Quick Record)” を選択し、OKボタンにタッチしてBacking Sequence Recordモードに入ります。



“Backing Sequence (Quick Record)” を選択すると、バックキング・シーケンス録音ページを表示します。

録音の準備

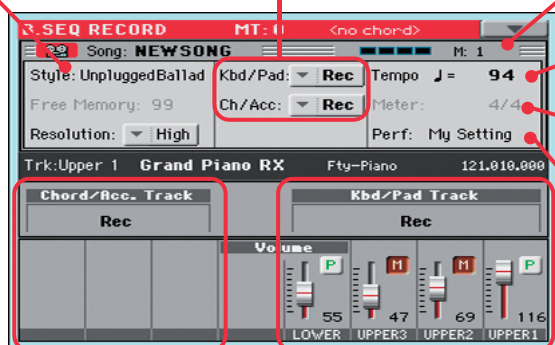
Backing Sequence Recordモードでは、モードに入る直前に使用していたスタイルが選択されていて、すべてのトラックの録音準備ができています。スタイル・プレイと同じように演奏すれば、その演奏を録音できます。必要に応じて設定を変更してください。

- 必要に応じて、画面のエディット可能なパラメーターを調整します。

Styleパラメーター (またはSTYLEキー) にタッチしてスタイル選択ウィンドウを開き、異なるスタイルを選択します。

トラックの状態。
Rec: 録音準備完了
Play: 録音済み、再生可能
Mute: 消音

小節カウンター。マイナスの数字 (-1) はプリ・カウントで、この後に録音が始まります。



変更可能なスタイルのテンポ

スタイルのオリジナルの拍子 (この録音では変更不可)

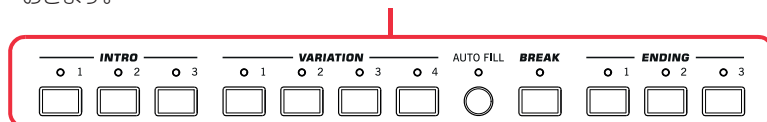
Perf/STSパラメーターにタッチしてパフォーマンス選択ウィンドウを開き、異なるパフォーマンスを選択します (36ページ参照)。別の方法として、PERFORMANCEキーまたはSTSキーを使用することもできます。

グループ化されたトラック。クイック録音中は、個別のソング・トラックを選択できません。録音の簡素化のために、Kbd/Pad (キーボード/パッド) とChord/Acc. (コード/アカンパニメント) の2つのトラックのみになります。

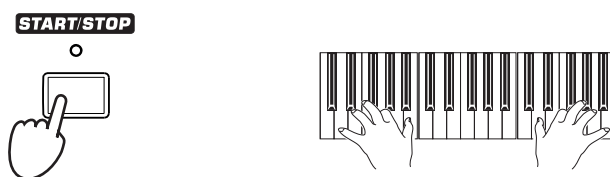
録音開始

1 録音を開始する前に、スタイル・エレメントを選択します。

一般的には、はじめにイントロを選択し、イントロを使って開始します。録音の前にイントロ終了後に演奏される最初のバリエーションを、あらかじめ選択しておきます。



2 START/STOPキーを押して、録音を開始します。



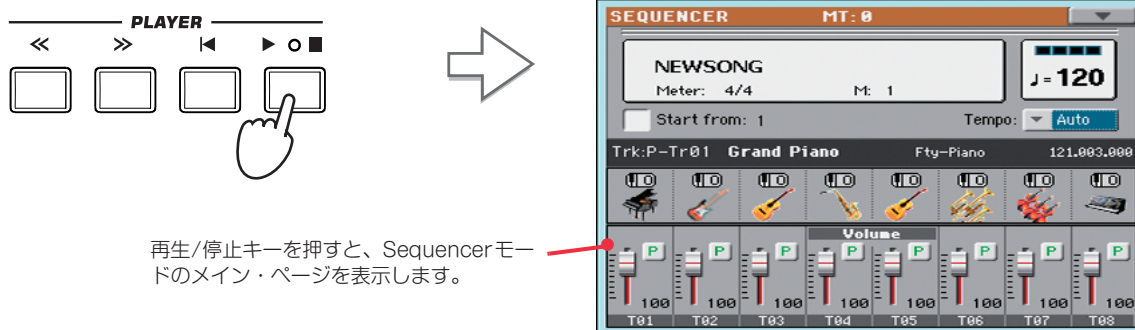
i Note: スタイルを再生しないでソングを開始するときは、PLAYERセクションの ▶/■ (再生/停止) キーを押して録音を開始し、その後でスタイルを開始させます。スタイルは次の小節で開始します。

3 演奏してください。

録音中は、スタイル・エレメント (イントロ、バリエーション、ブレイク、エンディング) を選択できます。START/STOPキーを押してスタイルを停止し、もう一度押してスタイルを再開させることもできます。

Backing Sequence Recordモードでは、SYNCHRO、TAP TEMPO/RESETキー、BALANCE VOLUMEコントロールは無効になるので注意してください。

4 ソングの録音が終了したら、PLAYERセクションの ▶/■ (再生/停止) キーを押して、Sequencerモードのメイン・ページに戻ります。



再生/停止キーを押すと、Sequencerモードのメイン・ページを表示します。

5 Sequencerモードのメイン・ページで、PLAYERセクションの ▶/■ (再生/停止) キーを押し、録音されたソングを聴きます。

バックিং・シーケンスのソングは、通常のソング (スタンダードMIDIファイルまたは“.MID”フォーマット) に変換されます。これを、本体メモリーやデバイスに保存 (72ページ) してから、Song Playモードで改めて読み込んだり、外部シーケンサーで再生することもできます。

6 ソングをエディットするときは、パネルのMENUキーを押してEditモードに入ります。

2度目の録音をする (オーバーダビング)

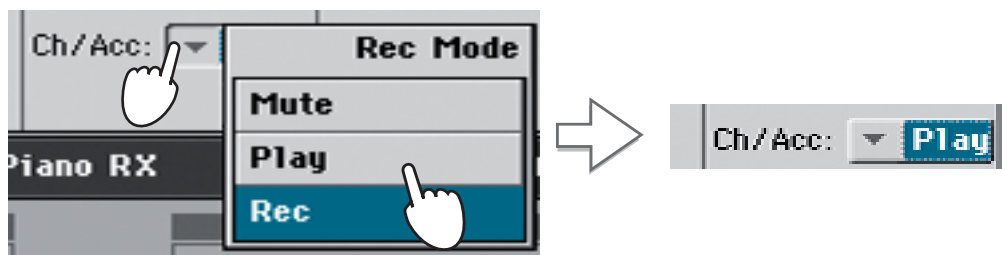
2つにグループ化されたトラックの、どちらか一方だけを録音し直して演奏を追加したり、失敗した録音に上書きすることができます。通常は、1回目の録音でコード進行やスタイル・エレメントの切り替えを録音し、2回目の録音でキーボード・トラックやパッドを録音します。

1 RECORDキーを押して、再度録音します。

Song Recordモードのダイアログ・ボックスが表示されます。

2 “Backing Sequence (Quick Record)” を選択し、OKボタンにタッチしてBacking Sequence Recordモードに入ります。

3 トラックのどちらか片方に録音するときは、録音しないトラックをPlayモードに設定します。



4 録音の手順を繰り返し、PLAYERセクションの▶/■ (再生/停止) キーを押して録音を停止し、Sequencerモードのメイン・ページに戻ります。

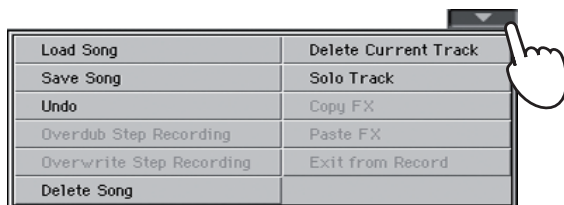
5 Sequencerモードのメイン・ページで、PLAYERセクションの▶/■ (再生/停止) キーを押し、録音されたソングを聴きます。

バックング・シーケンスのソングは、再度、通常のソング形式 (スタンダードMIDIファイル) に変換されます。

ソングを保存する

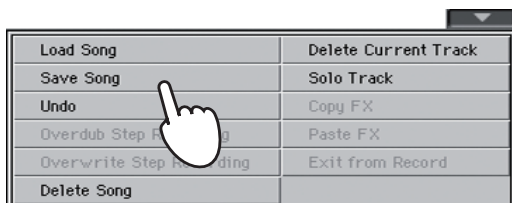
ソングを録音したら、本機をオフにしたときに消えてしまうことがないように、本体内のメモリーに保存します。USB端子 (11ページ) に接続した機器 (USBフラッシュ・メモリーやUSBハードディスクなど) に保存することもできます。

1 Sequencerモードのメイン・ページで、ページ・メニュー・ボタンにタッチしてページ・メニューを開きます。



2 メニューから “Save song” を選んで、ソング保存ウィンドウを表示します。

この画面は MEDIA モードの Save ページとよく似ていますが、このページではソング・ファイルのみが表示されます。



メニューから “Save song” を選んで、ソング保存ウィンドウを表示します。



3 ソングを保存するデバイスとフォルダを選択します。

ソングを選択（反転表示）している場合、ソングの名前を変更しないで保存すると、そのソングに新しいソングを上書きします。ソングを選択していない場合、ソングを保存すると、デバイス上に新規のソング・ファイルを作ります。選択されたソングを解除するときは、ソング・リストの他の部分にタッチするか、同じ保存先デバイスを再度選択します。




スクロール・バーを使ってリスト内のすべてのソングを閲覧します。SHIFTキーを押しながら、上下のスクロール・アロー（▲、▼）にタッチすると、次か前のアルファベットがリストの先頭になります。VALUEダイヤルを使っても、ソングを閲覧することができます。

Saveボタンにタッチし、ソングを現在のフォルダに保存します。

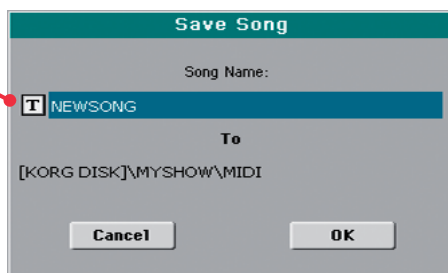
Deviceポップアップ・メニューを使って、デバイスを選択します。

Open、Close ボタンを使って、フォルダ内を閲覧できます。

EXIT
 ソングを保存しないで、元のページに戻るときは、EXITキーを押します。

4 画面のSaveボタンにタッチして、Save Songダイアログ・ボックスを開きます。

テキスト・エディット・ボタンにタッチして、ソングの名前をエディットします。



5 画面のOKボタンにタッチして、デバイスにソングを保存します。Cancelボタンにタッチしたときは保存の操作を中止します。

ファイルとミュージカル・リソースの検索

本機では、SEARCHキーを押してファイルやミュージカル・リソースの検索を行えます。

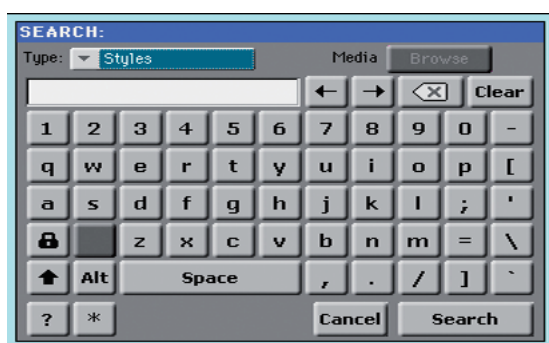
検索機能の使い方

その時に開いているページにもよりますが、検索機能を使って様々なタイプのデータを検索することができます。例えば、Mediaモードではファイルのみを検索でき、Style PlayモードやSong Playモードではスタイルやソング、歌詞などを検索できます。

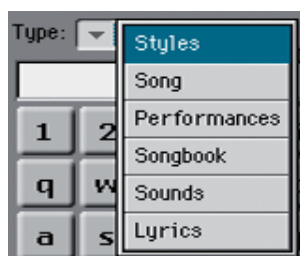
また、ページによっては、検索する対象がないために検索機能が使用できないページもあります（例えば、Globalモードの各ページなど）。

検索機能の一般的な使用手順は、次のとおりです。

1 SEARCHキーを押して検索画面を表示します。



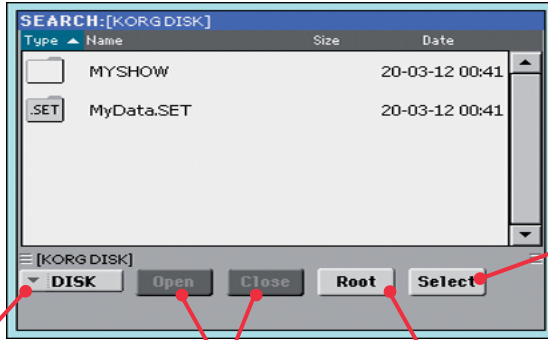
2 必要に応じて、Typeのポップアップ・メニューをタッチし、検索したいデータのタイプを選択します。



ファイルやソング、歌詞を検索する場合は、Browse ボタンが使用でき、ディスク内のファイルを検索できます。



3 ディスク内のファイルを検索する場合は、Browseボタンをタッチして、メディア画面を表示させます。



あなたが探しているファイルを含むフォルダが見つかったら、そのフォルダにタッチし、SELECTボタンにタッチして、メディア画面を閉じます。選択したフォルダの名前が検索画面のタイトル・ウィンドウに表示されます。

Deviceポップアップ・メニューを使って、デバイスを選択します。

Open、Closeボタンを使って、フォルダ内を閲覧できます。

ディレクトリを見失った場合は、“Root”ボタンにタッチしてデバイスのルートに移動します。

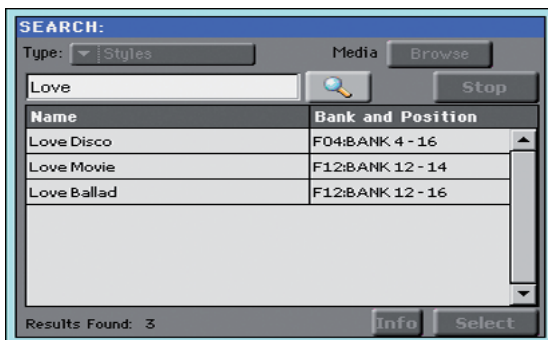
4 検索ワードを入力します。

検索ワードは大文字、小文字の区別は不要です (「LOVE」も「Love」も「love」も検索上は同一です)。



5 検索ワードを入力し終わったら、Searchボタンをタッチします。

検索ワードに該当したファイルがリスト表示されます。



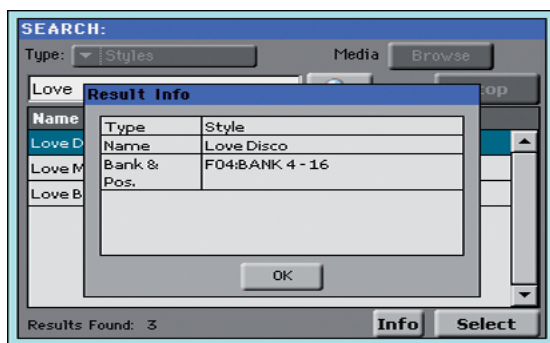
i Note: 1度に検索できる項目は1つだけです。現在の検索が完了するのを待つか、STOPボタンにタッチして検索を停止してから、新たな検索を行ってください。

Searchボタンを押すと、Searchボタンの名前がStopに変わります。必要なときに、このボタンにタッチして検索を停止します。ボタンの名前が"Search"に戻ります。新しい検索を実行するまで検出されたすべてのファイルは、表示のままになります。


検索が完了するのに必要な時間は、デバイスのサイズやファイルの数によります。

i Hint: 画面のCancelボタンやパネルのEXITキーを押してこの画面から抜けて、他の操作を行うことができます。検索はバックグラウンドで継続されます。

- リスト表示されたアイテムをタッチして選択し、Info ボタンをタッチするとそのアイテムの情報が表示されます。



OK ボタンを押すと Info ダイアログが閉じます。

- サーチ機能のメイン・ページに戻って、もう一度検索をしたいときは、サーチ・アイコン  をタッチします。
- または検索の結果、必要なアイテムが見つかったら、その名前をタッチし、Select ボタンをタッチします。
- サーチ機能は EXIT キー、または SEARCH キーを押すといつでも終了できます。

サーチ機能の使用上のご注意

ワイルドカード

検索ワードによるサーチ機能は、完全一致、部分一致の両方の結果を表示します。例えば、検索ワードに「love」と入力した場合、検索結果には「LOVE」や「LoveSong」というように、「love」の文字列を含むものがすべて表示されます。

この時、ワイルドカードとして「?」（単文字）や「*」（文字列）を検索ワードに含めてサーチすることができます。たとえば、「*love」で検索した場合（「文字列の後ろに“love”が続く語を含むアイテムを検索」という意味です）、「MyLove」はヒットしますが「LoveSong」はヒットしません。同様に「??love」で検索した場合（「2文字の後に「love」が続く語を含むアイテムを検索」という意味です）、「MyLove」はヒットしますが「TrueLove」はヒットしません。

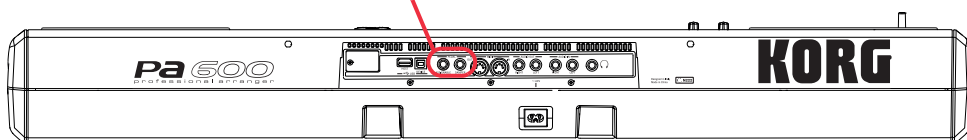
また、スペルが少し似ている言葉を検索する場合、「?」をワイルドカードとして使うことができます。たとえば、「gr?y」で検索した場合、「gray」と「grey」の両方がヒットします。

ダンパー・ペダルの接続とキャリブレーション（調整）について

ピアノ・サウンドの演奏には、ダンパー・ペダルは欠かせません。本機のリアパネルのDAMPER端子にコルグPS-1、PS-3、またはDS1Hを接続し、ダンパー・ペダルとして使用できます。

この時、フットスイッチ（PS-1やPS-3）とダンパー・ペダル（DS1H）の違いは、DS1Hはペダルを徐々に踏んだり離したりすることで効果が変わるハーフ・ペダルに対応している点です。本機のグラウンド・ピアノRXサウンドでその違いを確かめることができます。

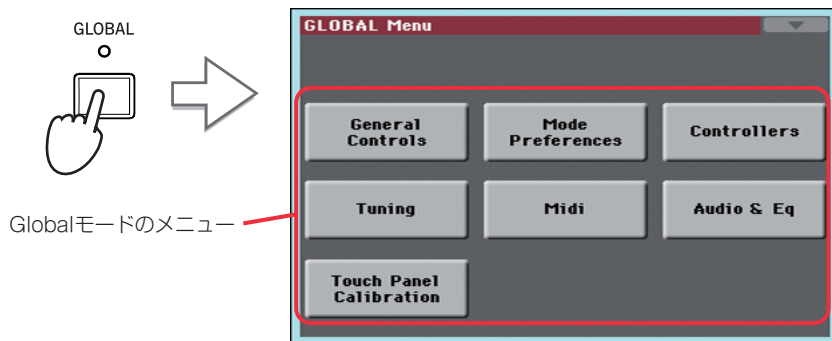
ASSINABLE端子とDAMPER端子



ダンパー・ペダルの設定をする

ダンパー・ペダルのキャリブレーション（調整）を行うことで、ペダルの機構的特性をフルに活用することができます。コルグ以外のブランド製のダンパー・ペダルをご使用になる場合、必ずしもすべてのペダルが同じ特性で設計されているわけではありませんので、キャリブレーションや極性の設定が必要となります。また、ペダルの極性が合わないと、通常とは逆の動作、つまりペダルを踏むとサスティンが止まり、ペダルから足を離すとサスティンがかかる状態になってしまいます。

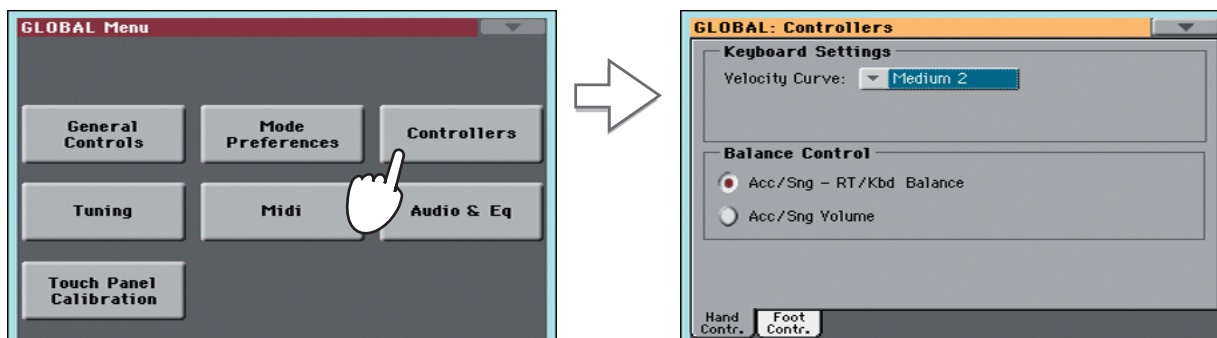
- 1 **ダンパー・ペダルを本機のリアパネルのDAMPER端子に接続します。**
- 2 **GLOBALキーを押してGlobalモードに入ります。**



Globalモードでは、ダンパー・ペダルの設定パラメーターの他に、マスター・チューニング、日付や時刻といった設定も行えます。このモードは他のモードとは異なりページ間の関連はなく、各ページとも独立した項目を設定します。また、Globalモードでは、設定を変更するとその場で変更内容が保存されます。

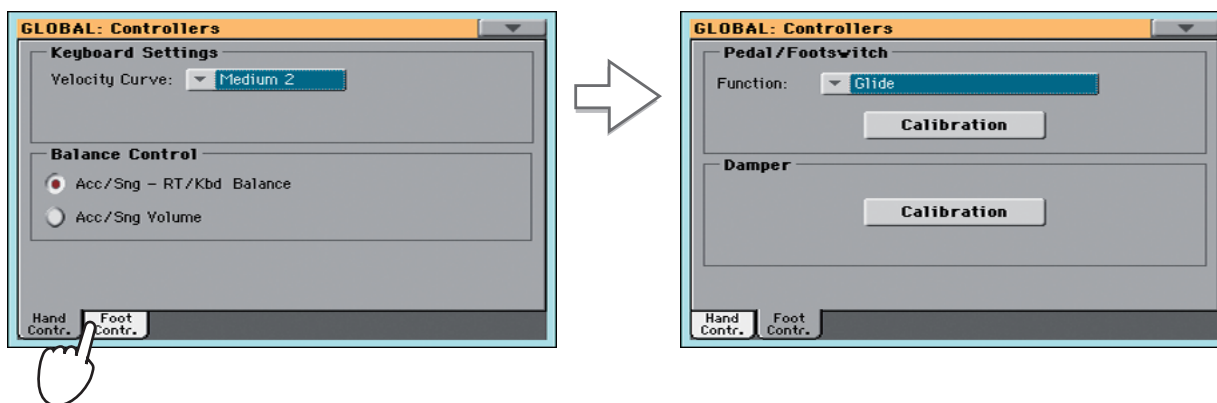
- 3 **Controllerボタンをタッチして、Globalモードのコントローラー・セクションに入ります。**

コントローラー・セクションに入って何も操作をしていない場合、このセクションの先頭ページであるHand Controllerページが表示されます。

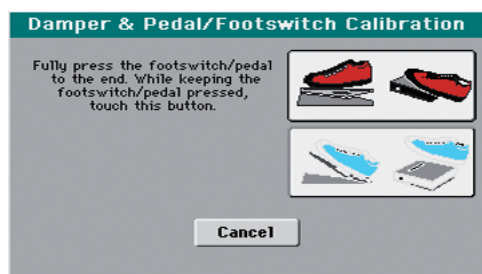


4 Foot Contr.タブをタッチしてFoot Controllerページを開きます。

このページがダンパー・ペダルやアサインブル・ペダル、フットスイッチの設定を行うページです。

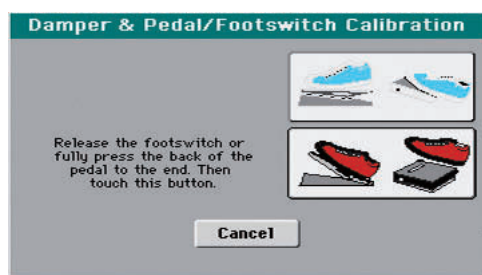


5 CalibrationボタンをタッチしてDamper & Pedal/Footswitch Calibrationダイアログを開きます。



6 ダンパー・ペダルを完全に踏み込んだまま、Pushボタンをタッチしてペダルを踏み込んだ状態（ペダルの踏み込み幅の最大値）を本機に記憶させます。

7 次のようなダイアログが表示されましたら、ペダルから足を離します。



8 Pushボタンをタッチして、ペダルから足が離れている状態（ペダルの踏み込み幅の最小値）を本機に記憶させます。

ここでペダルが正しく動作しているかどうかを確認めます。正しく動作していない場合は、この手順をもう一度行います。

9 EXITキーを押して元のモードに戻ります。

ここでの設定は、他のGlobalモードでの設定と同様、自動的に保存されます。

付録

内蔵時計バックアップ用電池の交換

内蔵時計のバックアップ用電池は一般的なリチウム電池（CR2032）で交換可能です。交換用電池は、必ず指定の型番のものをご使用ください。それ以外の型番のものを使用すると、本機を破損する場合があります。電池の交換は、ご自身で行えます。コルグでは電池交換作業によりデータが消去されてしまった場合や、交換用電池が正しく装着されていなかったことにより発生した損害等につきましては、一切の責任を負いません。

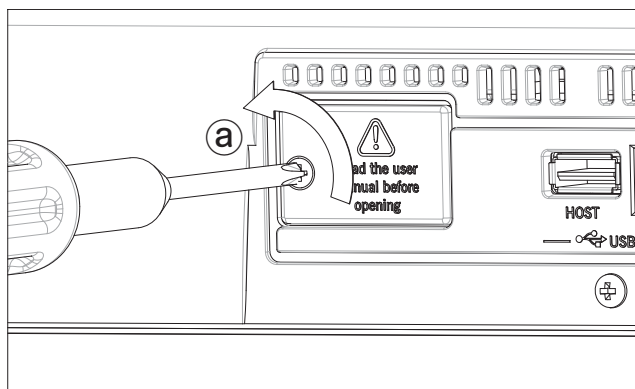
注意事項

- ・ 電池の交換は自己責任で行ってください。コルグでは、電池が正しく装着されていなかったことにより発生した損害等につきましては、一切の責任を負いません。
- ・ 作業を行う前に、本機の電源をオフにし、電源ケーブルを本機から取り外してください。
- ・ 人体の静電気による本機の内部パーツの破損を防ぐため、無塗装の金属部分に触れてから作業を行ってください。

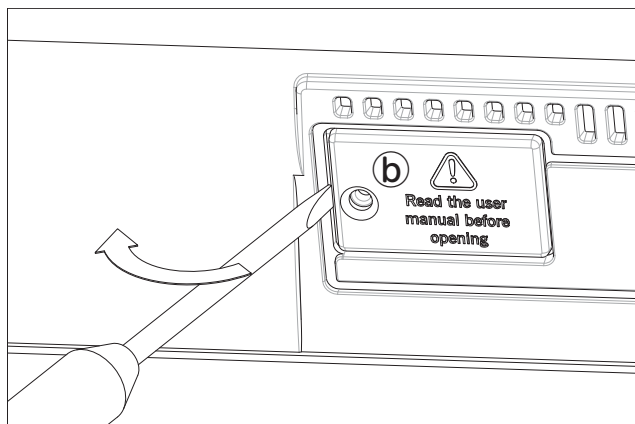
交換作業手順

交換作業には、プラスとマイナスのドライバーが必要です（本機には付属していません）。

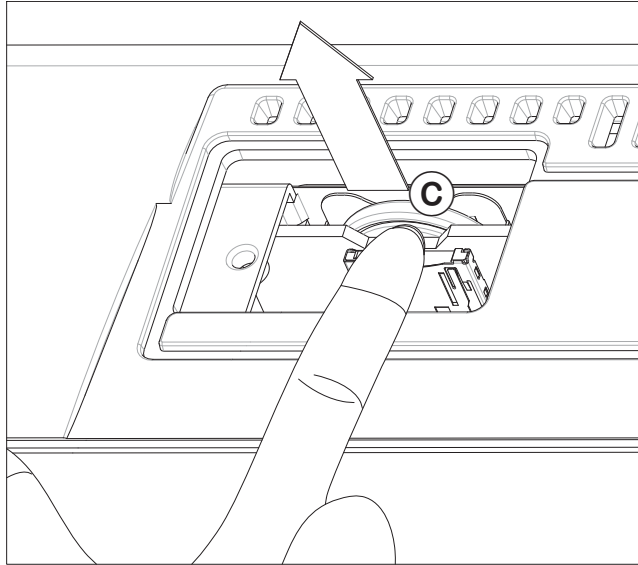
1. 本機の電源をオフにし、電源ケーブルを本機から取り外します。
2. 交換用電池をパッケージから取り出しておきます。
3. プラスドライバーを用意し、本機のリアパネルにあるプラスネジ（a）を取り外します。



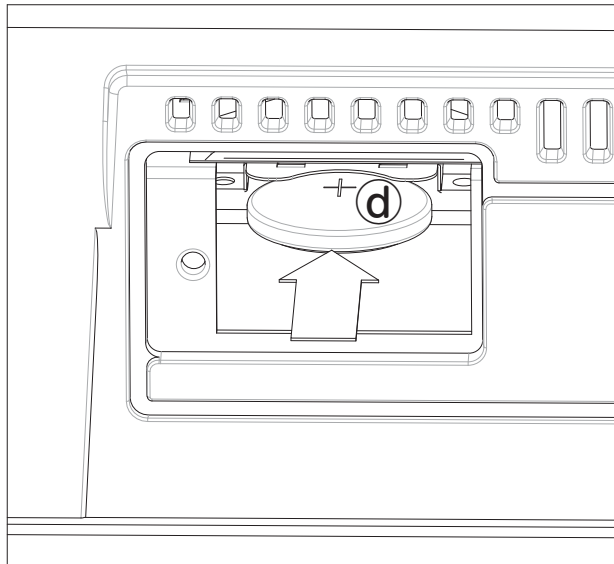
4. マイナスドライバーを用意し、カバーとリアパネルの隙間に挿入し、カバー（b）を取り外します。



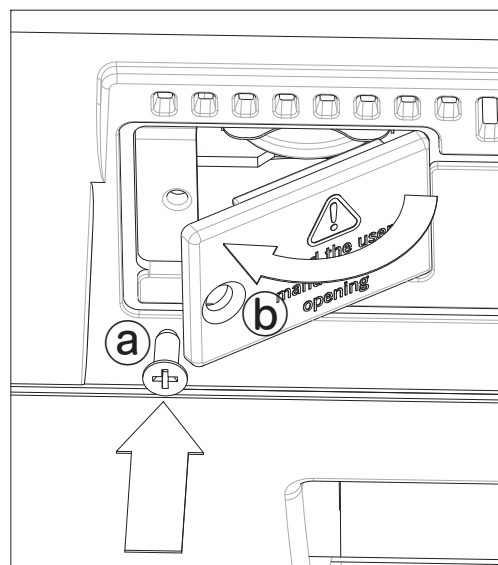
5. 指の爪やマイナスドライバーの先端部分を利用して電池 (c) をバッテリー・スロットから取り出します。



6. 新しい電池 (d) をバッテリー・スロットに挿入します。この時、「+」の文字が見える側を上に向けて挿入します。



7. 取り外したカバー (b) を取り付け、プラスネジ (a) を取り付けて固定します。



仕様

機能	KORG Pa600
外形	
鍵盤	61 キー
サウンド	
音源	128 オシレーター, トラックごとに 3 バンド EQ, レゾナンス付きフィルター, DNC (ダイナミック・ニュアンス・コントロール)
工場出荷時サウンド	950 以上 (ステレオ・ピアノ, GM レベル 1 とレベル 2 互換のサウンドを含む), 64 ドラム・キット
ユーザー・サウンド	256 サウンド, 128 ドラム・キット
サウンド・エディット	サウンドおよびドラム・キットをオンボードで完全エディット
PCM RAM メモリー	96 MB (ユーザー・サウンド用)
エフェクト	4 マスター・ステレオ・デジタル・マルチエフェクト×4, 125 エフェクト・タイプ, マスター・リミッター+ファイナル 4 バンド・パラメトリック
キーボード・トラック	4 キーボード・トラック (アッパー 1, 2, 3, ロワー)
パフォーマンス/STS	320 パフォーマンス, すべてプログラム可能 / 各スタイルあたり 4 STS まで, ソング・ブックあたり 4STS まで
スタイル	
工場出荷時スタイル	360 以上のプリロード・スタイル, 自由に再構成可能
フェバリット/ユーザー・スタイル	10 フェバリット・バンク+ 3 ユーザー・バンク, トータル 1,120 スタイル (工場出荷 + フェバリット/ユーザー)
アレンジャー・トラック	8 スタイル・トラック, 4 シングル・タッチ・セッティング (STS), スタイルごとのに 4 パッドと 1 スタイル・セッティング, ギター・トラック・モード×2, パラレルおよび固定ノート・トランスポーズ・テーブル
スタイル・エディット	ステップ入力によるスタイル録音, トラック・エディットおよびイベント・エディット機能, SMF のインポート/エクスポート
パターン/コード・バリエーション	3 イントロ, 4 バリエーション, 4 フィル, 1 ブレーク, 3 エンディングを含む各スタイルあたり 46 パターン
スタイル・コントロール	3 イントロ, 4 バリエーション, 4 フィル, 1 ブレーク, 3 エンディング, オート・フィル, シンクロ・スタート/ストップ, マニュアル・ベース, メモリー, アカンパニメント・オン/オフ, シングル・タッチ
コード・シーケンサー	リアルタイム・スタイル・コード・シーケンサー・レコーダー
プレーヤー / シーケンサー	
プレーヤー	ソング・セレクト, スタート/ストップ, ホーム, 巻き戻し, 早送り, MID, MID+G, KAR, MP3 + lyrics, MP3+G フォーマットをサポート, 歌詞, スコア, コード・データをディスプレイに表示可能, マーカー機能, ジュークボックス機能
ソングとともに保存した 4 STS	SongBook モード
トラック	16
シーケンサー・エディット	録音 / エディット, SMF ネイティブ・フォーマット
バックアップ・シーケンス (クイック録音)	リアルタイム録音 / エディット, ステップ録音 / エディット
歌詞 / コード	オンスクリーン (最も一般的な形式と互換性あり) +G フォーマット・サポート
スコア表示	オンスクリーン
マーカー	オンスクリーン
ソング・ブック	
ソング・ブックおよびソング・ブック・リスト	編集可能なミュージック・データベース スタイル, SMF, カラオケ, MP3 を自動選択可能な Style Play モードと Song Play モード ユーザー定義可能なカスタム・リスト, フィルタリングと曲順設定オプション
その他	
MP3	Song Play モードでの MP3 プレーヤー, Vocal Remover; テンポの変化は ± 30%, - 5 ~ + 6 半音のトランスポーズ
アラビック・スケール	編集可, 4 プリセット可能
パッド	4 + Stop button
互換性	i シリーズ: スタイル (いくつかの調整が必要), Pa シリーズ: スタイル, パッド, パフォーマンス, サウンド, PCM サンプル, ソング, ソング・ブック
オペレーティング・システム	RX (Real eXperience), DNC (ダイナミック・ニュアンス・コントロール), マルチタスク・システム, ロードしながら再生可能, アップグレード可能, 内蔵時計
データ・ストレージ	
内蔵メモリー	標準
外部メモリー用 USB 端子	1 ホスト (2.0 Hi Speed)

機能	KORG Pa600
ユーザー・インターフェイス	
ディスプレイ	7インチ、800 x 480 TFT グラフィカル・カラー・タッチ・スクリーン・ディスプレイ
コントロール	ダイヤル、マスター・ボリューム、アキャンピメント/プレーヤー/キーボード/ボリューム・バランス、トランスポート、オクターブ・トランスポート、アンサンブル、タップ/リセット、テンポ+/-、テンポ・ロック、フェード・イン/アウト
プログラマブル・コントロール	ジョイスティック、2スイッチ、アサインابل・ペダル/フットスイッチ
接続	
MIDI	IN, OUT
USB	1 ホスト (2.0 Hi Speed)、1 デバイス (2.0 Hi Speed)、USB 経由での MIDI
出力	2 アナログ (Left/Right)
入力	2 アナログ (Left/Right)
ヘッドホン	1 ジャック
ペダル	1 ダンパー、1 アサインابل・ペダル/フットスイッチ
電源	AC - 100 ~ 240V
アンプ	
アンプおよびスピーカー	2 x 15W、2 スピーカー (10 cm ダブルコーン)、バスレフ型
付属品	
付属品	クイック・ガイド、電源ケーブル、譜面台、アクセサリ・ディスク
オプション (別売)	
USB メモリー	対応
エクスプレッション・ペダル / ボリューム・ペダル	コルグ EXP-2、コルグ XVP-10
ダンパー・ペダル	コルグ DS-1H (ハーフ・ペダル対応)
フット・スイッチ	コルグ PS-1、PS-3
電力、外形	
消費電力	20 W
外形寸法 (W x D x H)	1030 x 378 x 127 mm (譜面台を除く)
質量	9.74 kg

仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

MIDI インプリメンテーション・チャート

KORG Pa600
OS Version 1.0 - April 01,

ファンクション...	送信	受信	備考	
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1-16 1-16	1-16 1-16	記憶される
モード	電源ON時 メッセージ 代用	X *****	3 X	
ノート ナンバー:	音域	0-127 *****	0-127 0-127	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	O 9n, V=1-127 O 8n, V=0-127	O 9n, V=1-127 O 8n, V=0-127	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	O O	O O	キー別、チャンネル別ともに *1 プレーヤー・データのみ *1
ピッチベンド		O	O	
コントロール・ チェンジ	0, 32	O	O	バンク・セレクト (MSB, LSB) *1
	1, 2	O	O	モジュレーション *1
	6	O	O	データ・エントリー-MSB *1
	38	O	O	データ・エントリー-LSB *1
	7, 11	O	O	ボリューム, エクスプレッション *1
	10, 91, 93	O	O	パンポット, A/B マスター-FXセンド *1
	64, 66, 67	O	O	ダンパー, ソステナート, ソフト *1
	65, 5	O	O	ポルタメントOn/Off, ポルタメント・タイム *1
	71, 72, 73	O	O	ハーモニー・コンテツツ, EGタイム(リリース, アタック) *1
	74, 75	O	O	ブライツネス, ディケイ・タイム *1
	76, 77, 78	O	O	ビブラート・レート, デブス, ディレイ *1
98, 99	O	O	NRPN (LSB, MSB) *1, 2	
100, 101	O	O	RPN (LSB, MSB) *1, 3	
120, 121	X	O	オール・サウンド・オフ, リセット・コントローラー *1	
プログラム・ チェンジ	設定可能範囲	O 0-127 *****	O 0-127 0-127	*1
エクスクルーシブ		O	O	*4
コモン	:ソング・ポジション	X	X	
	:ソング・セレクト	X	X	
	:チューン	X	X	
リアルタイム	クロック	O	O	*5
	コマンド	O	O	*5
その他	:ローカル ON/OFF	X	X	
	:オール・ノート・オフ	X	O (123-124)	
	:アクティブ・センシング	O	O	
	:リセット	X	X	
Notes	*1: Global モードで MIDI フィルターの In/Out をオフに設定したときに送受信。 *2: サウンド・パラメーター, ソング・ブック・エントリーの選択, ドラム・キットの設定。 *3: LSB, MSB = 00, 00: ピッチ・ベンド・レンジ = 01, 00: ファイン・チューン = 02, 00: コース・チューン。 *4: インクワイアリー, マスター・ボリューム・メッセージ, エフェクト設定, クォーター・トーンの設定を含む。GM モード・オン。 *5: Global モードの Clock Send パラメーターをオンに設定したときのみ送信。			

Mode 1:OMNI ON, POLY
Mode 3:OMNI OFF, POLYMode 2:OMNI ON, MONO
Mode 4:OMNI OFF, MONOO: Yes
X: No

保証規定（必ずお読みください）

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドホンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はご購入日より1ケ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
 - ・ 消耗部品（電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど）の交換。
 - ・ お取り扱い方法が不適当のために生じた故障。
 - ・ 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
 - ・ 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 - ・ 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
 - ・ 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
 - ・ 本保証書の提示がない場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3ヶ月以内に限り無償修理いたします。

3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなる場合がありますので、あらかじめサービス・センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグ Pa600

保証書

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日 年 月 日

販売店名

アフターサービス

■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな？とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について

修理についてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03 (5355) 5056

● サービス・センター：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12
TEL 03(5355)3537 FAX 03(5355)4470